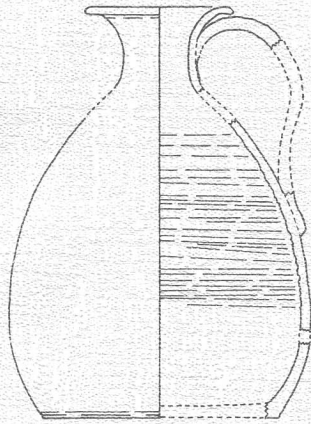


史跡 齋宮跡

平成4年度発掘調査概報



1993

齋宮歴史博物館



第95次調査区遠景（南から）



第98次調査区遠景（東から）

史跡斎宮跡



第1図 平成4年度発掘調査地区 (1 : 10,000)

はじめに

我が国の古代・中世において他に類を見ない政治的・経済的・宗教的かつ文化的に貴重な遺産であるといわれる斎宮跡の保存も地域住民の皆様をはじめとする関係各位のご理解とご協力により着実に進み、その調査と活用についても一層の充実を図るべく、地元明和町とも協力しつつ努めているところでございます。

とりわけ近年の調査成果は、昭和45年の古里地区に始まる20数年間にわたる発掘調査成果の積み上げを基にようやく調査率が史跡全体の12%に達したばかりではありますが、斎宮跡の全容解明にとって画期的とも言えるものとなってまいりました。

今回ここに発掘調査概報として公表させていただく平成4年度の発掘調査の中では特に史跡西部の古里地区で、従来から知られていた奈良時代の大溝が旧竹神社及び旧小倉神社の敷地を貫くように延びていることが明らかとなりました。また、史跡東部では1辺100mを超える広範囲を囲む柵列や大型掘立柱建物が検出され、斎宮跡の中核部の一角であることが窺えるなど多大な成果を得ることができました。

これらの調査成果は今後の発掘調査の進め方にとって極めて重要な意義を持つものであり、これまでの文化庁並びに斎宮跡調査指導委員をはじめ諸先生方のご指導の賜物と感謝するとともに、今後一層のご指導・ご検討をいただき、併せて地元及び関係各位のご理解とご協力をお願いして刊行のご挨拶とさせていただきます。

平成5年3月

斎宮歴史博物館

館長 久保富子

例 言

1. 本書は、齋宮歴史博物館が国庫補助金の交付を受けて平成4年度に実施した史跡齋宮跡の発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 明和町教育委員会が、国庫補助金の交付を受け調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の報告書は別途、明和町教育委員会が刊行している。
3. 遺構の実測にあたっては国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。
4. 遺構の時期区分は、「齋宮の土師器（三重県齋宮跡調査事務所年報1984）」による。
5. 遺構表示記号は次の通りである。
SB；建物 SK；土坑 SD；溝 SE；井戸 SA；柵 SF；道路 SX；その他
6. 遺物実測図は、特に標示がない限り実物の4分の1である。
7. 齋宮跡の調査全般については、次の先生方の指導を得た。

京 都 府 立 大 学 名 誉 教 授	門 脇 禎 二
千 葉 大 学 教 授	北 原 理 雄
梶 山 女 学 園 大 学 名 誉 教 授	久 徳 高 文
(財)大 阪 文 化 財 セ ン タ ー 理 事 長	坪 井 清 足
名 古 屋 学 院 大 学 教 授	檜 崎 彰 一
三 重 大 学 教 授	八 賀 晋
名 古 屋 大 学 教 授	早 川 庄 八
(財)京 都 府 埋 蔵 文 化 財 調 査 研 究 セ ン タ ー 理 事 長	福 山 敏 男
皇 学 館 大 学 教 授	渡 辺 寛

8. 本概報の編集・執筆は齋宮歴史博物館調査研究課の吉水康夫、野原宏司、大川勝宏があたり、赤岩操、大滝靖子がこれを補佐した。

また、遺物整理には島村紀久子、角谷和代、奥田康子、鈴木美智子の協力を得た。

目 次

I. 調査の経過と概要	1
II. 第95次調査	3
III. 第97次調査	18
IV. 第98次調査	37

表・挿図目次

[表]	1. 平成4年度発掘調査地区一覧	2
	2. 第95次調査時期別遺構分類表	4
	3. 第97次調査時期別遺構分類表	18
	4. 第98次調査時期別遺構分類表	38
	5. 奈良時代古道検出調査区一覧表	53
	6. 掘立柱建物・柵列一覧表	58
	7. 竪穴住居一覧表	59
	8. 遺物(土器)観察表	60
	9. 斎宮跡発掘調査回数一覧表	70
[図]	1. 平成4年度発掘調査区位置図(1:10,000)	i
	2. 第95次調査区位置図(1:2,000)	3
	3. 〃 遺構実測図(1:200)	5・6
	4. S B 6660遺構実測図(1:80)	7
	5. S X 6666、S X 6635遺構実測図(1:20、1:40)	8
	6. 第95次調査出土遺物実測図(S X 6666)	11
	7. 〃 出土遺物実測図(S D 0244・S K 6658)	12
	8. 〃 出土遺物実測図(S X 6652)	13
	9. 〃 出土遺物実測図(S X 6633・S D 6671・S K 6651・6654・6661 ・S K 6647・S D 0244・S B 6660・その他)	15
	10. 第93次、第95次調査区遺構変遷図(1:800)	16
	11. 第97次調査区位置図(1:2,000)	19
	12. 第97-1次調査遺構実測図(1:200)	21・22
	13. S K 6692遺構実測図(1:20)	23
	14. S D 6700土層断面図(B区西壁 1:80)	23
	15. 第97-2次調査遺構実測図(1:200)	25・26
	16. S B 6706遺構実測図(1:40)	27
	17. S D 4500土層断面図(C区西壁 1:80)	28
	18. 第97-1次調査出土遺物実測図(S B 6692・6690・6686・S K 6685・6689・6692 ・S X 6696)	30
	19. 〃 出土遺物実測図(S D 6700・包含層)	31
	20. 第97-2次調査出土遺物実測図(S D 4500・6702)	32
	21. 〃 出土遺物実測図(S K 6703)	33
	22. 〃 出土遺物実測図(S K 6704・6710・6715・S B 6706・包含層)	34

23.	第98次調査奈良時代古道関連調査区配置図 (1:10,000)	39
24.	ゝ 遺構実測図 (1:200)	41・42
25.	ゝ S K 6743遺構実測図 (1:20)・土器出土状況模式図 (1:16)	47
26.	ゝ 出土遺物実測図 (S K 6753)	49
27.	ゝ 出土遺物実測図 (S K 6743)	50
28.	ゝ 出土遺物実測図 (S K 6762・6752・S D 6750・6810)	51
29.	ゝ 出土遺物実測図 (その他の出土遺物)	52
30.	周辺遺構配置図 (1:1,200)	55・56
31.	斎宮跡地区表示	74

写 真 図 版

巻頭	上：第95次調査区遠景 (南から)	下：第98次調査遠景 (東から)
1.	第95次調査区全景 (真上から)	
2.	上：S B 6637 (南から)	下：S B 6642・6643 (北から)
3.	上：S B 6660 (南から)	下：調査区東南部 (北から)
4.	上：SD0244・6671・SA6645 (南から)	下：S X 6635 (東から)
5.	上：S X 6666 (東から)	下：S X 6666土師器壺半裁状況 (東から)
6.	上：S K 6644 (南から)	下：S X 6652 (南から)
7.	上：第97次調査 A区全景 (北から)	下：A区 S D 6700 (東から)
8.	上：B区 全景 (北から)	下：S B 6693・6694 (北東から)
9.	上：S K 6692 (南から)	下：S K 6689・S B 6690 (東から)
10.	上：S X 6696 (東から)	下：C区 S D 4500 (東から)
11.	上：D区 全景 (南西から)	下：S B 6706 (北西から)
12.	上：S B 6708・6709 (南西から)	下：S B 6713・6714 (北西から)
13.	第98次調査区全景 (真上から)	
14.	上：SF6800・SD6801・6802 (東から)	下：S A 6760・6770・6780・6790 (東から)
15.	上：S A 6770・6790 (北から)	下：S D 6810 (東から)
16.	上：S B 6720・6721・6722 (東から)	下：ゝ (南から)
17.	上：S B 6730 (西から)	下：ゝ (南から)
18.	上：S B 6720・6725 (北から)	下：S B 6735 (西から)
19.	上：S K 6753 (南から)	下：S K 6743 (北から)
20.	第95次調査 出土遺物	
21.	ゝ	
22.	第97次調査 出土遺物	
23.	ゝ	
24.	第98次調査 出土遺物	
25.	ゝ	
26.	ゝ	

I. 調査の経過と概要

齋宮跡のほぼ中央に位置する近鉄齋宮駅の北側一帯は、昭和54年の国史跡指定以来積極的に土地公有化事業が進められ、その整備・活用を求める声は年々強くなってきている。

そこで、将来の史跡整備の前提となる遺構の実態を把握するため今年度の計画調査の一つ第95次調査を昨年度に続いて駅北側の字内山地内で実施することとした。これは例年6月上旬に開催される「齋王まつり」にあわせ発掘調査の現地説明会も実施しており、近鉄を利用して訪れる観客にもより多く参加してもらうことも併せて考慮したものである。

調査は1,280㎡を対象に平成4年4月8日より開始し、7月31日に埋め戻しを含め全ての調査を完了した。その間、5月28日には調査指導委員会を開催して委員の先生方から多岐にわたる指導を得たほか、6月14日には上記の現地説明会を開催し、約310名の参加者があった。

調査結果は後述のとおりで、奈良時代後期から鎌倉時代前葉にわたる遺構・遺物があり、なかでも平安時代中期以降の特殊土塚の検出は「齋宮」の性格を考え合わせ、当該時期におけるこの地域の位置づけを考えるうえで示唆的である。

続いて実施した第97次調査は竹川字古里の公有地とこれに隣接する字中垣内の旧竹神社及び小倉神社跡の山林でトレンチを計6か所設定して行った。特に両神社跡は旧氏子の皆さんによる共有地となっており、竹川地区自治会長の協力と旧氏子各位のご理解によるものである。

古里地区は齋宮跡の調査の端緒ともなった地区で、当時の発掘調査によって奈良時代及び鎌倉時代の大溝が検出されている。これらの溝は、現在の地形から旧神社跡の北に接する農道に沿って西側の水田地帯に続くと考えており、これを確認することが主たる目的であった。

一方、旧神社跡については近代まで神社として信仰の対象となっており、現在でも地元の人々によって祀り、護られているところである。また、従来から齋宮跡にとっても極めて重要な性格を持つ一画であることも想定される地域であった。そこで、今回立木をさけての限られた調査ではあるものの、とりあえず遺構・遺物の広がりやその時期等を把握する目的で平成4年7月7日から9月25日まで、約630㎡について調査を実施したものである。

なお、例年夏休みを利用して小・中学生を対象に齋宮跡の普及啓発事業の一環として開催している「体験発掘教室」もこの第97次発掘調査現地を中心に、7月21日から24日までの4日間に34名の児童達の参加を得て賑やかに実施した。

さらに、本年3か所目の計画調査は齋宮字鍛冶山で約1,150㎡を対象に平成4年9月28日から第98次調査として実施した。史跡東部では従来から方格地割の存することが知られており、今回の調査区はその中央部付近に相当し、これまでの調査によって同一区画内には夥しい量の土器が出土し、祭祀を想定させる土塚群の所在や方格地割に沿った柵列、大型掘立柱建物群等

が検出されている。調査の結果、柵列がより詳細に把握され、大型掘立柱建物の一部が明らかになる等、一時期の齋宮に於ける中枢部を想起させる多大の成果を得ることができた。その調査結果については平成5年1月27日の指導委員会で現地指導を受け、1月24日には現地説明会を開催し、齋宮跡でもこれまでにない400名にも及ぶ熱心な参加者を得た。なお、調査は当初の予定から大幅に遅れ、平成5年3月4日ようやく全ての作業を完了することができた。

その他、管理団体である明和町が事業主体となる、史跡現状変更に伴う事前発掘調査を6件実施した。その概要は別途明和町から刊行されるが、ここでも多大の成果を得ている。

その一つは個人住宅新築に伴う第96-4次調査である。調査面積は130㎡と狭く、既に深く削平を受けており、わずかに10か所の大型柱穴を検出したに過ぎない。遺物の出土もほとんど無いが、大型掘立柱建物3棟が規格的に配されているものと考えられ、第98次調査の成果とともに、当該地域が一時期の齋宮に於ける中枢部であることを傍証する成果である。

さらに、第96-5次調査では、これまで22年に及ぶ齋宮跡の発掘調査の中でも初めての発見である八脚門を検出した。わずか230㎡の調査面積であるが、門とこれに取りつく柵列の一部及び区画内に配された掘立柱建物1棟を検出したもので、方格地割の広がりや齋宮跡の南限を画するうえで極めて重要な成果を得た調査である。

以上のように平成4年度の調査は貴重な成果の連続で、とりわけ年度末に集中したことから現場での対応は、ようやく平成5年3月30日をもってその全てを完了した。（吉水康夫）

調査次数	地区名	調査面積㎡	調査期間	地籍・地番	所有者	備考	区分
95	6ADN	1,280	H.4.4.8~H.4.7.31	明和町齋宮字内山3046-17 他	山本 泰 他	計画発掘調査	1
96-1	6AGM	320	H.4.5.25~H.4.6.10	明和町齋宮字東加座2374	丸山 理左右	盛土工事	2
96-2	6ADO	70	H.4.11.24~H.4.12.3	明和町齋宮字内山3068-3 他	明 和 町	道路拡幅	3
96-3	6ACA-D	120	H.4.12.12~H.5.1.11	明和町齋宮字古里3260	清水 五 郎	住宅の新築	3
96-4	6AFN	130	H.5.2.10~H.5.3.10	明和町齋宮字中西2749-1	本 山 尚	住宅の新築	3
96-5	6ADR-T	230	H.5.2.15~H.5.3.30	明和町齋宮字木葉山128-3	加 藤 すみ子	住宅の新築	3
96-6	6ADD-D	25	H.5.3.5~H.5.3.18	明和町齋宮字篠林3138-1	藤 井 友 二	住宅の新築	3
97	6AEM	630	H.4.7.7~H.4.9.25	明和町竹川字中垣内482 他	明 和 町 他	計画発掘調査	1・3
98	6AFM-C-E	1,150	H.4.9.28~H.5.3.4	明和町齋宮字般若山2745 他	七 林 晃 作	計画発掘調査	2

第1表 平成4年度発掘調査地区一覧

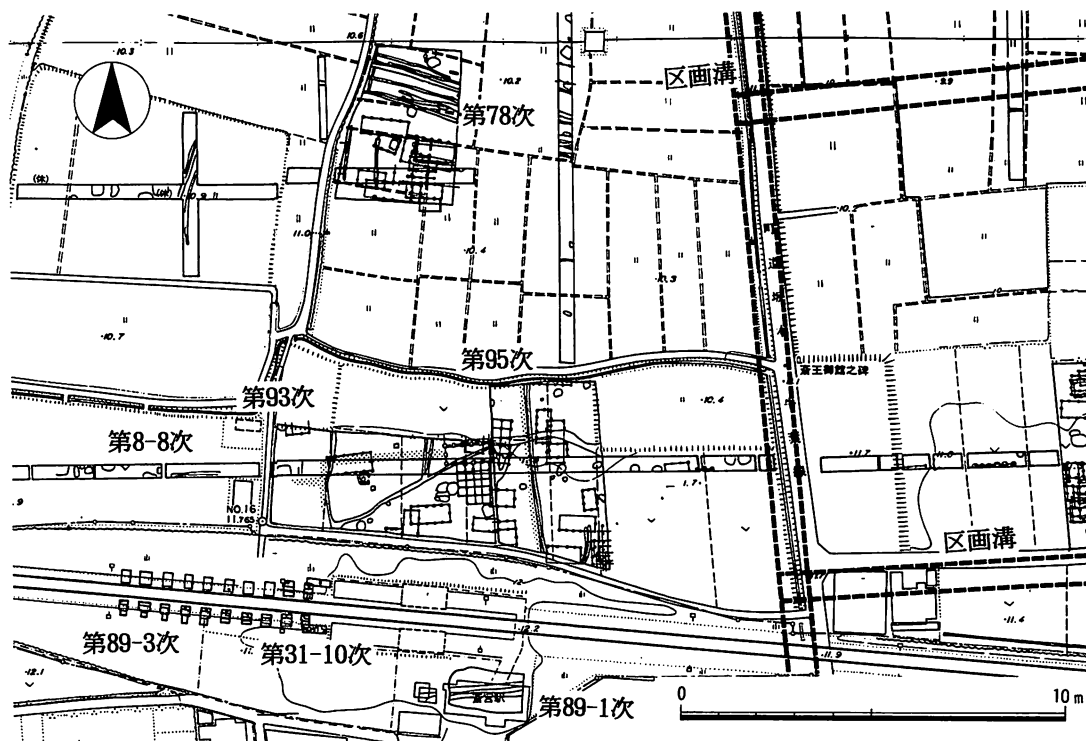
Ⅱ. 第95次調査

6 ADN (内山地区)

1. はじめに

平成4年度第1回目の計画調査は、近鉄斎宮駅のすぐ北側で、昨年度の第93次調査のすぐ東隣の約1,280㎡を対象に実施した。今次調査は、従来調査例が少なく、遺構の分布等の詳細な実態が解明されることの少なかった当地域を、数年次にかけて重点的に調査し、将来予想される駅北側の史跡環境整備のための情報を得ると共に、これまでに確認されてきている史跡東部の方格地割の西側一帯の状況を明らかにする事を主たる目的としている。

かねて可能性が指摘されている、現在合計20ブロック確認されている方格地割の西へのさらなる広がり、第93次調査などの周辺の調査では確認されていない。これまでに第93次調査で見つかったS B 0241やS B 0242などの平安時代初期に遡るとみられる掘立柱建物は方格地割に合うE 4° Nの軸線に沿っているが、逆に今回の調査地の北方の水田面で実施された第78次調査(昭和63年度)では、史跡を斜めに横断する奈良時代の古道の側溝とみられるS D 5266に建物方向を揃えた平安時代前期の掘立柱建物も検出され、明らかに方格地割に規制されたと思われる遺構は発見されていない。この他周辺では、史跡範囲確認のための第8-8次調査のMト



第2図 調査区位置図(1:2,000)

レンチが当地に及んでおり、近鉄斎宮駅の改修に伴う第31-10次（昭和55年度）や第89-1次、第89-2次調査などが実施されているが遺構の良好な遺存は確認されていない。史跡中央部一帯の遺構の状況はまだまだ不分明な点が多いと言える。

今回の調査地は、現況が畑地で、北の水田面に向かってゆるやかに傾斜しており、黄灰色の耕土と黄色～黒褐色の遺物包含層の下部で検出した明黄褐色を基調とする粘質土を遺構面（地山）として捉えている。遺構面の標高は、調査区北端で約9.4m、南端で約10.3mである。なお、調査区の中央部からおおむね北東に向かって大きく地山面が落ち込んでおり、遺構もかなり削平されているものとみられる。

調査は平成4年4月8日から7月31日にかけて実施され、奈良時代から鎌倉時代の遺構・遺物が見つかり、わけても10～13世紀とみられる時期の比較的良好な遺物が多数出土している。遺構では奈良時代のものと考えられる竪穴住居1棟、平安時代の掘立柱建物14棟、平安時代後半～鎌倉時代の溝9条、土壇17基等の他、平安時代の墓、不明遺構、生垣状遺構が見つかった。

2. 遺 構

(1) 奈良時代後期の遺構

調査区の西端で竪穴住居 S B 6640が見つっている。カマド等の付属施設は不明である。西隣の第93次調査では S B 6640の約3m南東に奈良時代後期の竪穴住居 S B 6553が見つかってお

		遺 構 の 種 類					
		S B	S K	S E	S X	S D	S A
奈良時代後期		6640					
平安時代	初期	6660	6655				
	前Ⅰ期	6649 6663	6656				6646
	前Ⅱ期	6670 6679	6644 0246	6636			6645
	中期				6666		
	後Ⅱ期	6642 6650	6651 6657			6671 0244	
	末期	6637 6643 6648 6675 6676 6677 6678	6641 6647 6654 6658 6659 6661 6662 6665 6667 6668 0245		6635	6669 6672 6673	6674
鎌倉時代前葉					6652	6638 6639 0243	
時期不明			6653 6664				

第2表 時期別遺構分類表



第3図 遺構実測図 (1 : 200)

り、一辺が3 m～4 mとほぼ同規模である。土師器皿・須恵器甕が出土しており、奈良時代後期に属するとみられる。

(2) 平安時代初期の遺構

掘立柱建物1棟、土坑1基がある。調査区の南東に単独で見つかった2間×2間の南北棟の掘立柱建物S B 6660は、北東隅の柱穴のみがややずれた位置にあるが、柱間約1.8m等間の身舎に南側に1間分の庇がつくものとみられ、史跡東部の方格子地割と軸線を揃える。また、この柱掘形埋土中からは縄文時代の石鏃と灰釉陶器広口壺が出土している。調査区北端で見つかった土坑S K 6655は、長径70 cmの小規模なもので、土師器甕片が出土している。

(3) 平安時代前Ⅰ期の遺構

掘立柱建物2棟、土坑1基、柵列1条がある。

調査区のほぼ中央に位置するS B 6649は、柱間寸法が桁行で約2.8m、梁行で約2.3mの4間×2間の南北棟で、5間×2間の東西棟S B 6663は、地形の落ち込みのため西辺と北辺の柱穴が欠落している。柱間寸法は約2.0mで、土師器片が出土しているが、S B 6663の方が若干時期的に下がるものと見られる。

調査区北端のS A 6646は、東西方向で5間分見つかっており、柱穴の径は40cm弱である。柱間寸法は約2.1mでさらに北へ広がる5間×2間の掘立柱建物の可能性もある。

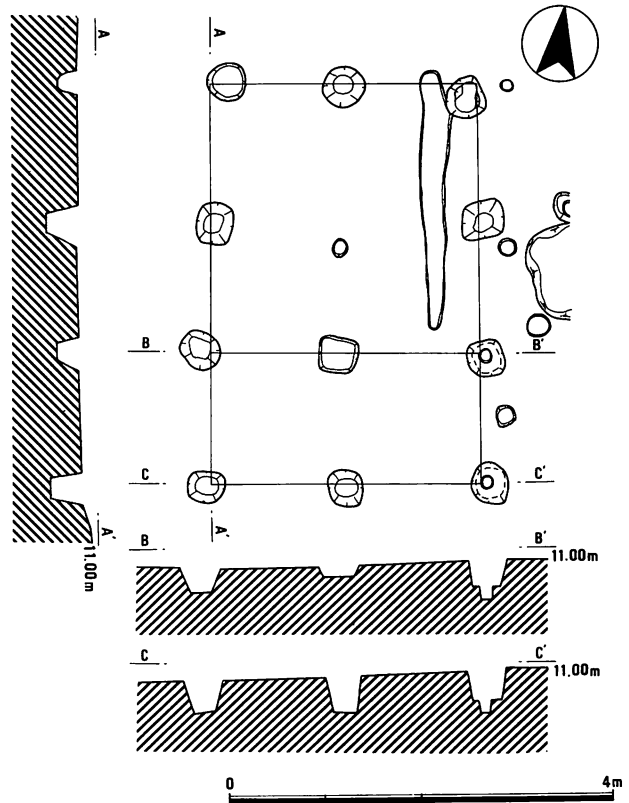
土坑S K 6656は長径2.2mの楕円形土坑で、土師器皿・甕片が出土している。

(4) 平安時代前Ⅱ期の遺構

掘立柱建物2棟、土坑2基、井戸1基の他、生垣状遺構1列がある。

調査区南端で見つかったS B 6670は、4間×2間の東西棟で、位置的に前Ⅰ期のS B 6663と棟方向を揃え、この建て替えの可能性はある。また、調査区東南端のS B 6679は柱掘形の一辺が約50cmの総柱建物とみられるものだが、全体の規模は不明である。

S K 6644は、直径1.4m、深さ1.6mの土坑で、遺物は僅少である。調査区東端のS K 0246は



第4図 S B 6660 遺構実測図(1:80)

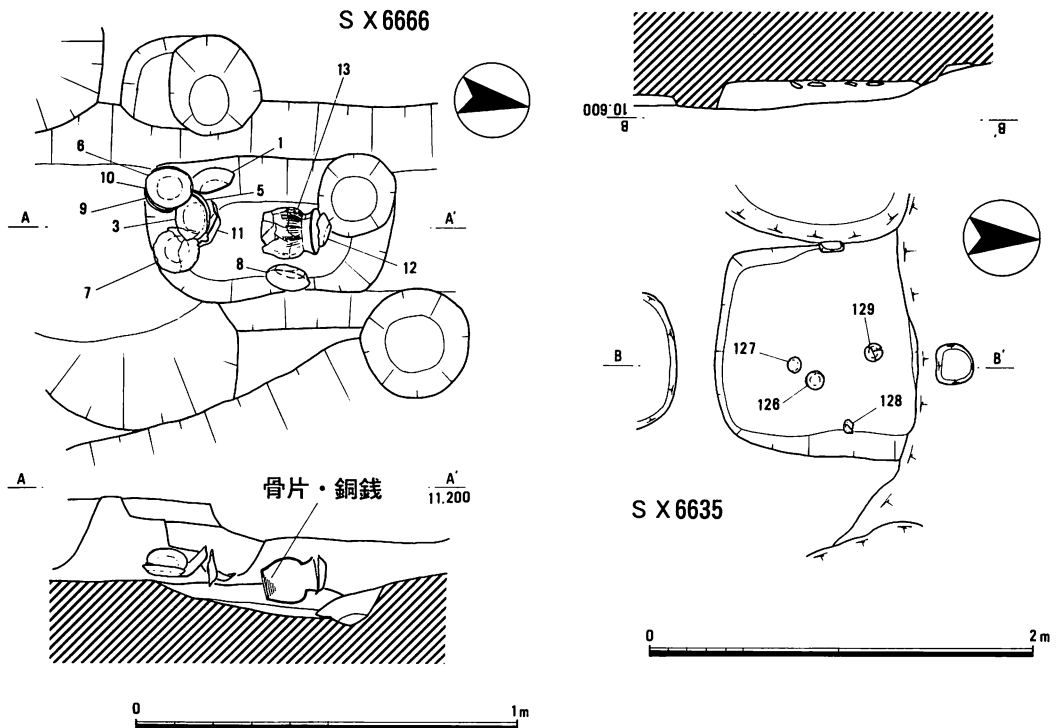
第8-8次調査で掘削されており、土師器片が出土している。

井戸S E 6636は、調査区の西北隅で検出された。直径約1.8m以上あると見られるが半分以上が調査区外に出るため、深さ約1.5mで掘削を中止した。

今回新たに発見した生垣状遺構S A 6645は平安時代後Ⅱ期に埋没したと見られるS D 0244や平安時代末期のS K 6641に明らかに重複されており、また主体となる茶褐色の埋土のピットから出土した土器類から、少なくとも平安時代前Ⅱ期以前には遡るものとみられる。S D 0244とN 4°Wと方向を揃えており、この溝と同様史跡東部の方格地割との関連する性格の区画施設と考えられる。

(5) 平安時代中期の遺構

調査区中央部で見つかったS X 6666は、平安時代末期の溝S D 0244を掘削する過程で検出され、遺構上面は明確にできなかったが、約1.5m×1.0mの土坑内に骨片と銅銭を納めた土師器壺を、同じく土師器杯で蓋をしたものが横倒しになっており、その周辺にはほぼ同形の土師器杯が11個ほど置かれていたとみられる。壺は肩部に6.5cm×4.0cmの焼成後穿孔がある。銅銭は21枚まで確認されたが、腐蝕が著しく、うち4枚程がかるうじて「延喜通寶」と判読できる。残りの内2枚がやや大振りなのを除きほぼ同一のサイズで、大多数がこの「延喜通寶」であると考えられる。齋宮跡で初の皇朝銭の出土であり、木簡の出土例のない齋宮にあっては、10世紀



第5図 S X 6666, S X 6635 遺構実測図 (1 : 20, 1 : 40)

前葉の土器の実年代を示す貴重な資料である。

(6) 平安時代後Ⅱ期の遺構

掘立柱建物2棟、土塚2基、溝2条がある。

調査区西端のS B 6642は、3間×2間の東西棟で、一辺約40cmの方形の柱掘形を持ち、径約15cmの柱痕跡がある。調査区中央のS B 6650は2間×2間の規模で、柱穴の径が約30cmの小規模な建物で、小屋掛け程度のものが想定される。

土塚はS K 6651とS K 6657がある。前者からは土師器・ロクロ土師器類が、後者からは灰釉陶器写しの台付椀を始めとしたロクロ土師器類・土師器類・須恵器類や直径約7cmの軽石が出土している。

溝には、S D 6671とS D 0244とがある。重複関係ではS D 6671の方が先行する。S D 6671は幅約60cmの溝で、溝底は北に向かって傾斜しており、S D 6638まで続く。最深部で遺構面から約25cmまで掘り込まれている。土師器杯・甕、須恵器片、灰釉陶器片や土錘が出土している。東接するS D 0244は調査区を南北に縦断しており、北に向かって傾斜するが、遺構の掘り込みは南部の方が深い。溝断面の形状は逆台形で、特に調査区の南半ではオリーブ黒色埴土の上層とそれに黄色土ブロックが混在する下層に明確に分離される。両者にふくまれる土器類には形式差は認められないが、溝底部の形状が浸食されずよく残っており、また下層に地山の黄色土が多量に含まれている点から、S D 0244は掘削後短時間で埋没した様子が窺われる。遺物は土師器皿・高杯、ロクロ土師器杯・小皿・台付椀や瀬戸古窯址編年のⅠ-2～Ⅱ-3形式とみられる山茶椀・山皿、百代寺窯式期の灰釉陶器椀、越州窯系青磁椀、須恵器片、土錘など多量の遺物が出土している。後Ⅱ期でも末葉に位置付けられるとみられる。

(7) 平安時代末期の遺構

掘立柱建物は7棟、土塚11基、土塚墓1基、溝3条、柵列1条が見つかっている。

総柱建物S B 6637は5間×2間の規模が想定される南北棟で、N 4° Eの棟方向を取り、柱穴はおおむね径50cmほどである。第93次調査で確認されているS B 6657も全く同規模のものとみられ、並立して建てられていたものと考えられる。調査区西南端のS B 6643は3間×2間の身舎に1間分の北面庇がつくもので、E 7° Nの棟方向を取る。調査区中央の5間×2間の南北棟S B 6648は径20cm～30cmの小規模な柱穴を持つ。瀬戸窯Ⅱ-3形式の山茶椀が出土しており、12世紀でも前葉のものと考えられる。S B 6675・6676・6677・6678は調査区東南部に密集して検出された掘立柱建物で、いずれも柱穴の径は約30cm前後と小規模なものばかりである。すべて調査区外まで広がっているものとみられ、詳細な内容は今後の調査の成果を待ちたい。土師器やロクロ土師器の小片などが出土しており、12世紀中葉以後に集中して建て替えられたものと考えられる。

土坑 S K 6641は長径約1.9mの楕円形土坑で、ロクロ土師器や土師器の小片を多量に包含する。S K 6647からは山茶碗を忠実に模倣したロクロ土師器碗（146）が出土している。調査区北東部の S K 6654・S K 6658はいずれもやや不整の円形で、前者からは12世紀前半、後者からは12世紀後半のロクロ土師器・土師器類が多量に出土した。また、S K 6654からは京都系「て」の字口縁の土師器小皿が出土している。調査区東南部に分布する S K 6659・6661・6662・6665・0245は12世紀後半のもので、ロクロ土師器類・土師器類が出土している。

調査区北端では土坑墓 S X 6635があるが、これは一辺約1.5mの方形の土坑に土師器の小皿4枚が置かれていたものである。

溝 S D 6669は断面が浅い舟底状になる溝で、土師器片・ロクロ土師器片・山茶碗片などがみられ、12世紀中葉に位置付けられ、東接する掘立柱建物群と関連が深いものとみられる。S D 6672・6673は重複関係は明らかにできなかったが、いずれも断面U字状で、12世紀の後半のものともみられる。S B 6677より後出する。

（8）鎌倉時代前葉の遺構

13世紀前葉のものともみられる溝3条がある。S D 6638は調査区を東西にやや蛇行しながら横断する。断面は浅い舟底状を呈し、溝底の高低差は少ないが、ゆるやかに西に傾斜しているようである。S D 0243は調査区の西端にかかり、北に向かって傾斜する南北溝で、第93次調査でも確認されている。断面は弱いV字状で、埋土中程に多量の円礫が投棄された様子が窺われる。遺物では土師器片が出土している。S D 6639はS D 0243から派生して北東に流れ、S D 6638につながる。これらの合流部分に第8-8次調査区が重なるが、埋土からみるとS D 0243はS D 6639より後出のものである。

次に13世紀中葉までの遺構ともみられるものにS X 6652がある。今次調査区の中央から北東に向けて、段差をもって地山面が落ち込んでいるが、この埋土を掘削する段階で、掘形は確認されなかったが、意図的に埋められたとみられる土師器皿・小皿が約50cm×30cmの範囲に一括集中して検出された。一部細片になっているが、ほぼ同一形式のものが土師器皿で20枚以上、土師器小皿で40枚以上出土している。

3. 遺物

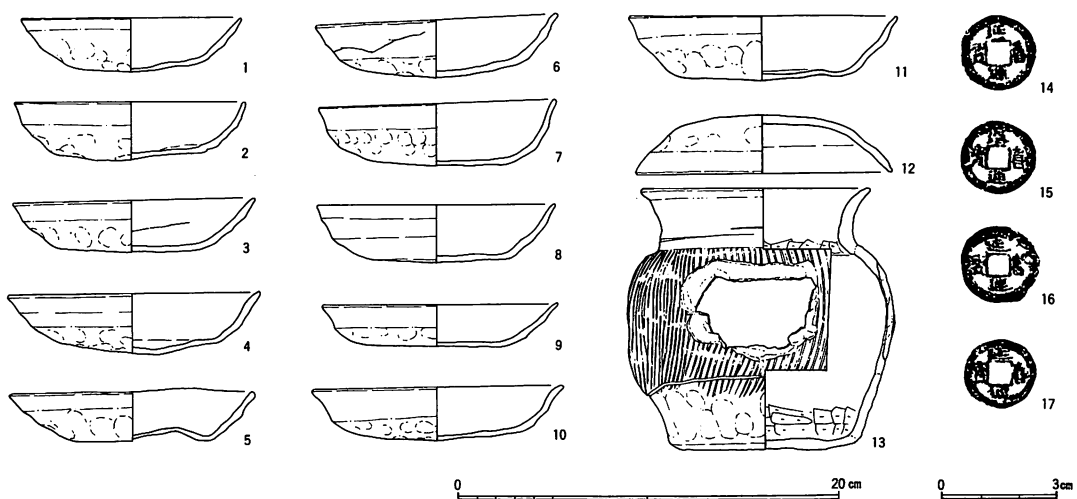
今回の調査では、10世紀～13世紀のものを中心に整理箱で約55箱の遺物が出土している。この中で主だった土器類について順に概述してみたい。

平安時代中期の遺物として、S X 6666から一括して出土した土師器が注目される。平底の土師器広口壺（13）は、黒色がかった堅緻な焼成で、従来の在地系土師器にはみられなかった形状である。外面に須恵器の叩き目を思わせる粗いタテハケが施され、第31-4次調査のS E 2000や第59次調査のS D 3890出土の須恵器甕（いずれも後I期）との関連が想起される。また、先

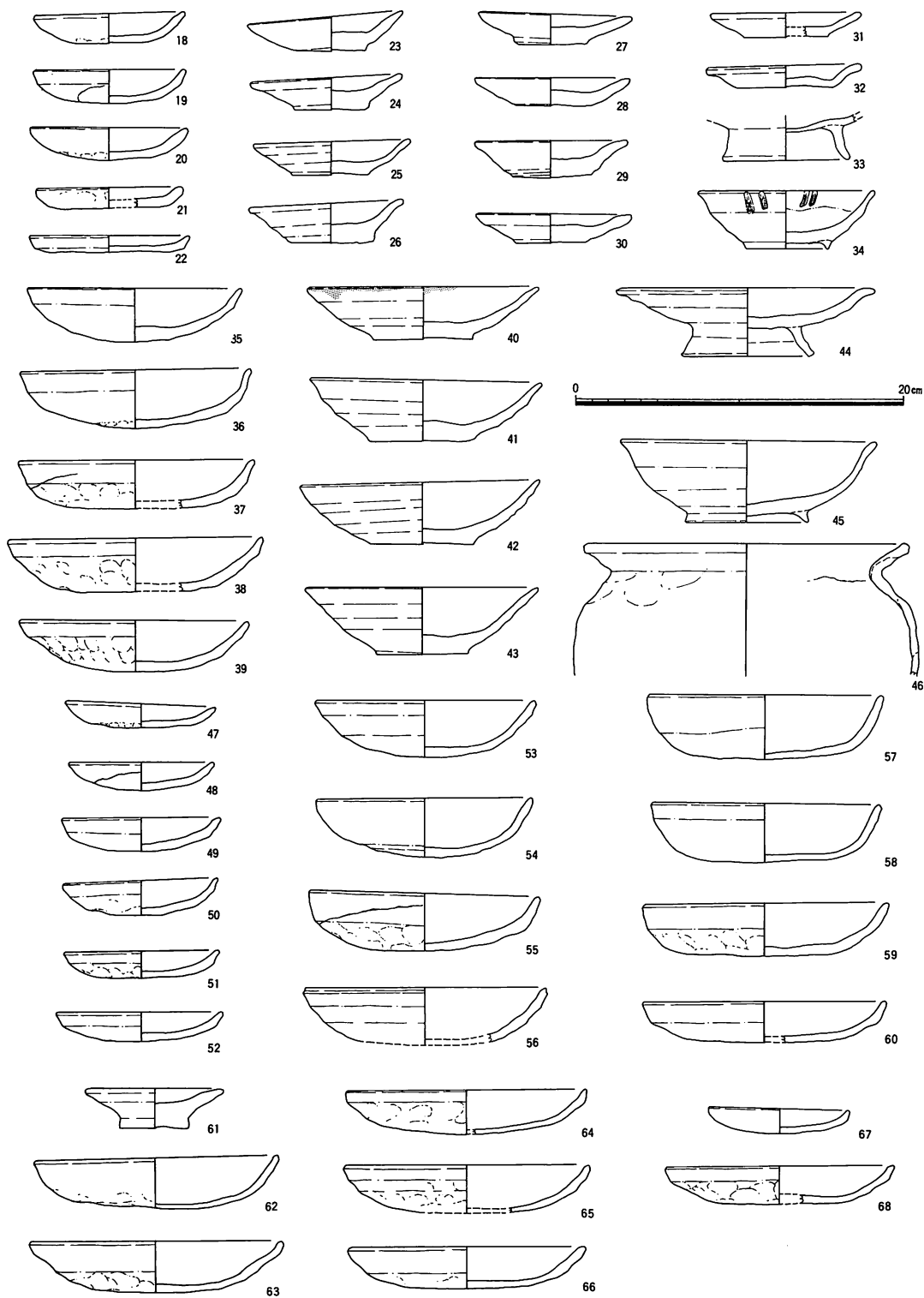
述したように肩部に焼成後に打ち欠いたとみられる穿孔があるが、同様の例を知らない。共伴する土師器杯は径12cm～14cmのもので、器壁は薄手で淡黄色を主体とする砂粒の少ない胎土を用いたものである。(13)の内部から出土した銅銭約21枚は腐蝕がすすみ、2枚を除き直径が1.9cm前後と小振りで、うち4枚が「延喜通寶」と判読され、大半が同種のものとみられる。「延喜通寶」は西暦907年に初鑄されており、従来平安時代中期に位置づけられてきた土師器類に10世紀の前葉～中葉の絶対年代を付与する好資料であるといえる。同時に出土した骨片については、小動物のものである可能性もあり、これらを墓出土とするかどうかはなお検討が必要である。

平安時代後Ⅱ期に位置づけたS D0244は出土土器は大型破片が多く、地山土を多量に含む埋土の状況からも掘削後短期間のうちに人為的に埋められたものとみられる。整理箱7箱の出土量で、土師器とロクロ土師器の割合が5：4ほどになる。(34)は2本の指ナデによる輪花表現を施した灰釉陶器で、百代寺窯式期のものとみられる。土師器では、丸い体部をもち、口縁部を幅1.5cmほどヨコナデし、器壁が厚手の皿A(35～37)と、これよりやや浅く、肥厚する口縁端部を強くヨコナデする皿B(38、39)、小皿では口径7cm～8cmの小皿A(18～20)と口縁部の立ち上がりのよわい浅い小皿B(21、22)がある。ロクロ土師器では、口径14cm～15cmで底部に疑高台風に立ち上がりがつく杯A(40～43)、小型杯では山皿模倣の小型杯A(23～31)とやや肥厚気味の口縁部が短く外反する器高の低い小型杯B(32)がある。少ないながら共伴する灰釉陶器から後Ⅱ期に相当するものとみられるが、土師器皿類の口縁部の肥厚化傾向から後Ⅱ期でも末葉、11世紀末に位置づけたい。

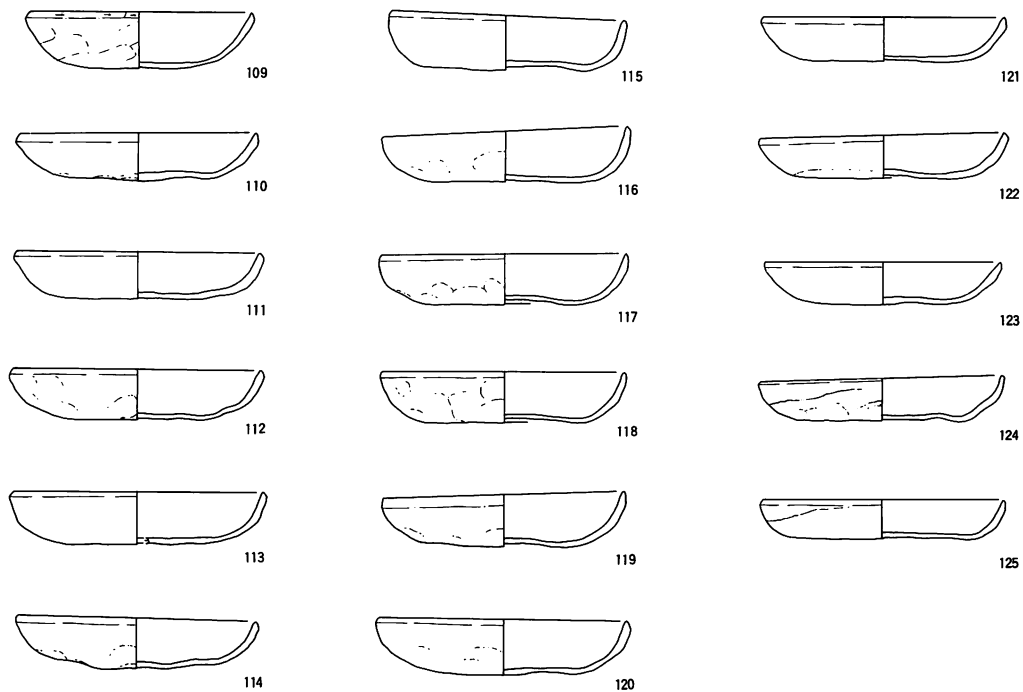
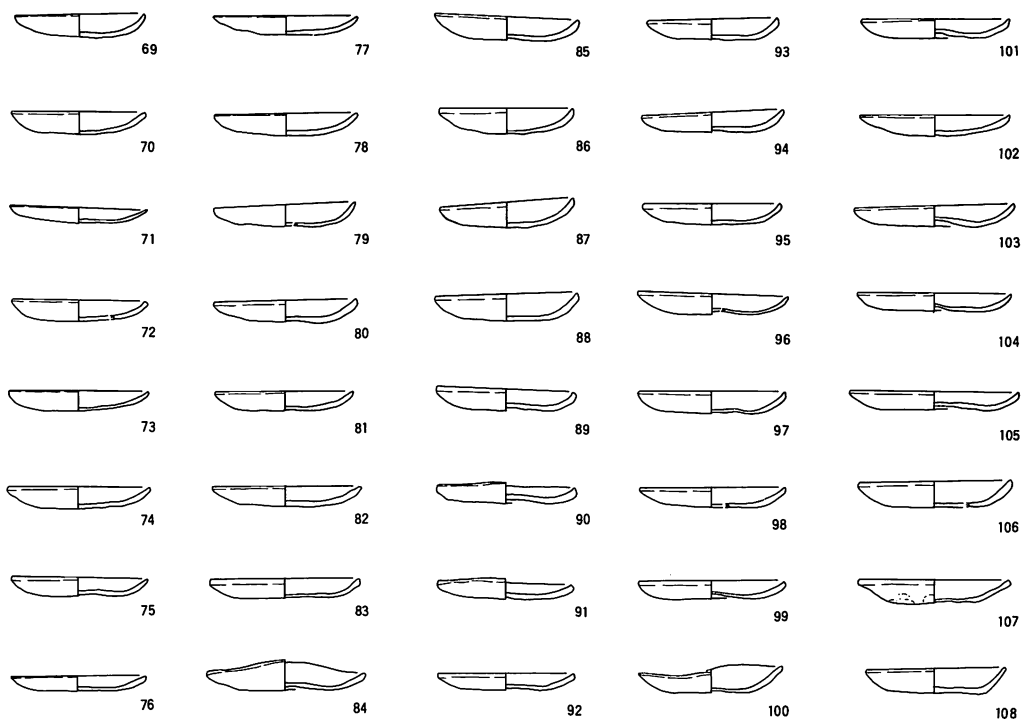
これに続くものとしてS K6658がある。土師器皿Aの体部の丸みが増し、皿Bも口縁端部の



第6図 出土遺物実測図 S X6666：1～13（1：4）、14～17（1：2）



第7図 出土遺物実測図 SD0244：18～44，SK6658：45～68



第 8 図 出土遺物実測図 S X 6652 : 69~125

肥厚が進み従来平安末期前半に位置づけられている第37-4次調査のS K 2480の形態に近づいている。S K 2480段階に併行するとみられるものにS K 6651、S K 6654、S K 6671がある。土師器皿Bの口縁部肥厚は進み、ロクロ土師器では杯Aのロクロナデ調整がやや粗雑になり、小型杯Aは器高を減じて平べったくなる。S K 6654からは京都系「て」の字口縁の土師器皿（139）も出土しており、周辺遺跡では松阪市曲遺跡でも同様のタイプのもので出土している。平安京の土師器皿編年でも、12世紀前葉の段階でこのタイプの口縁部の屈曲が退化していく事が指摘されており、S K 6654の位置付けとも大きく齟齬をきたさないと思われる。

平安時代末期中葉の基準資料である第50次調査のS D 3052併行のものとしてはS X 6635出土の土師器小皿が考えられる。S D 3052は瀬戸窯編年でⅡ形式5段階とされる山茶碗と共伴し、12世紀中頃に比定されている。

今回図示はしていないが、これに続くとみられるものにS K 6662やS K 6665の資料がある。土師器杯の低平化が進み、口縁端部のヨコナデ調整が弱くなる。山茶碗類は共伴していないが、S D 3052併行の資料と、後述するS X 2990併行資料の中間的な形態を示すものと考えられる。

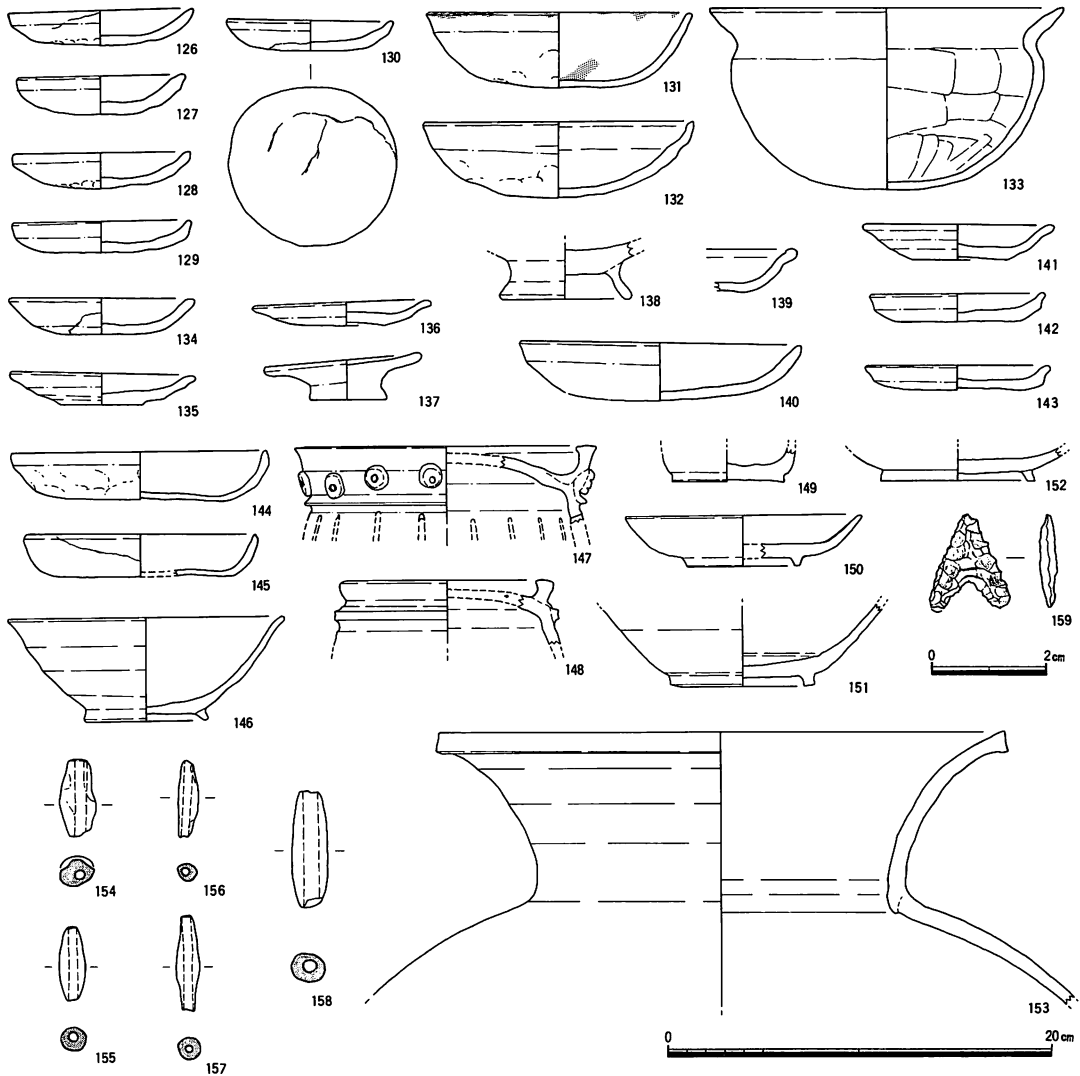
多量の皿類が集中して出土したS X 6652やS K 6661のタイプの土師器は、瀬戸窯編年でⅢ-6形式の山茶碗を伴い、13世紀前葉に比定されている、直径12cm~13cmの皿A（109~125）と、直径7cm~9cmの小皿A（69~107）がある。同じ瀬戸山茶碗Ⅲ-6形式段階でも、皿Aの直径が14cm程になる第49次のS X 2990よりも新相のものとみられる。(108)は唯一のロクロ土師器で、器壁が2mm前後と薄く、淡黄色で砂粒の少ない胎土を持ち、橙色系の他の土師器とは差異がある。これまで斎宮跡の調査では、13世紀代のロクロ土師器は報告されていない。現在南勢地方では松阪市曲遺跡S D 1上層でⅡ-5形式の山茶碗を伴うロクロ土師器が報告されているが、それよりも時期的にやや後出のものであり、南勢地方でのロクロ土師器出土の最終段階の資料であろう。

この他注目されるものにS K 6647出土のロクロ土師器碗（146）がある。精良な胎土を用い、瀬戸窯Ⅱ-4~Ⅱ-5形式の山茶碗を忠実に模倣しており、第15次調査のS E 710などで11世紀初頭には現れる灰釉陶器模倣のロクロ土師器碗の系譜上にあるものである。須恵器円面碗は2個体分出土している。(147)は縁部外周に竹管文の装飾を施した円形浮文が貼付され、脚台部には幅3mm程の細長い透かしを入れる。こうした装飾は岡山県美作国府跡などで出土例がある。

緑釉陶器は細片で約90点出土している。(149)は唾壺の底部で、猿投産のものとみられる。

(150、151)は青磁で、ともに越州窯系のものである。

(159)は縄文時代のものとみられるサヌカイト製の石鏃で、S B 6660柱掘形埋土から出土しているが、斎宮以前の当地域での人間活動を示す資料である。

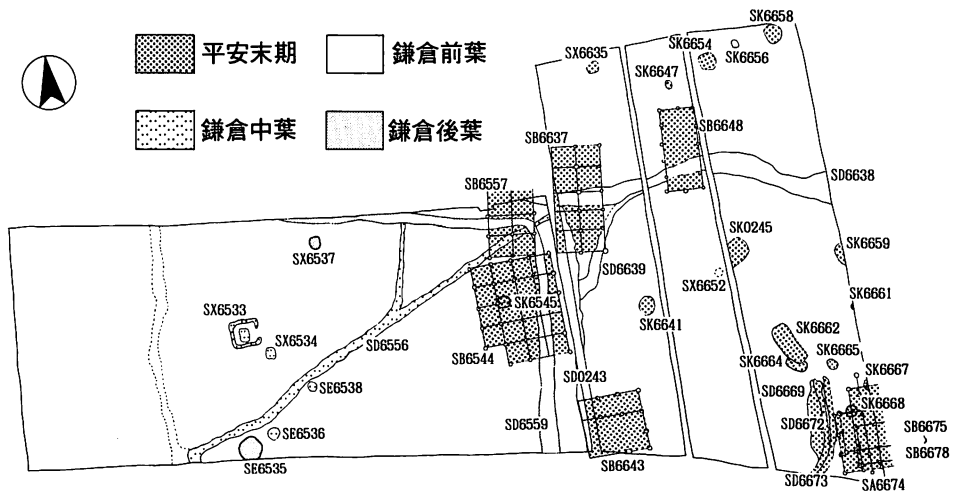
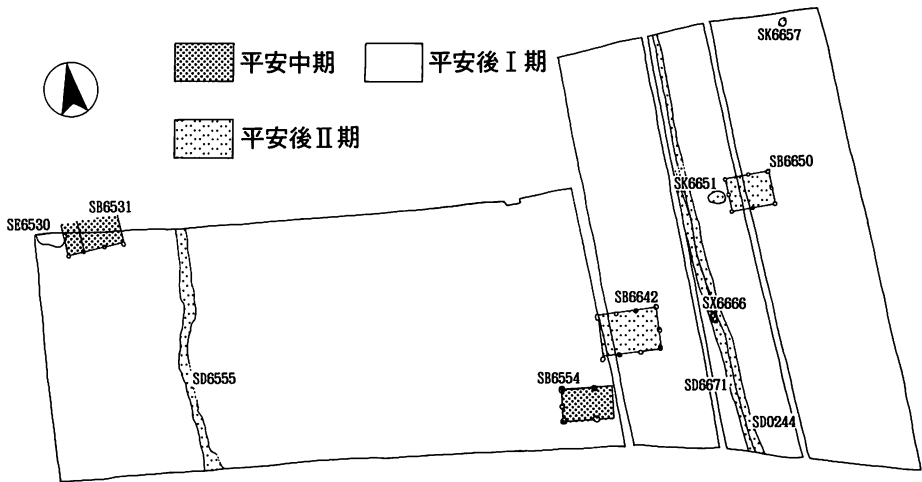
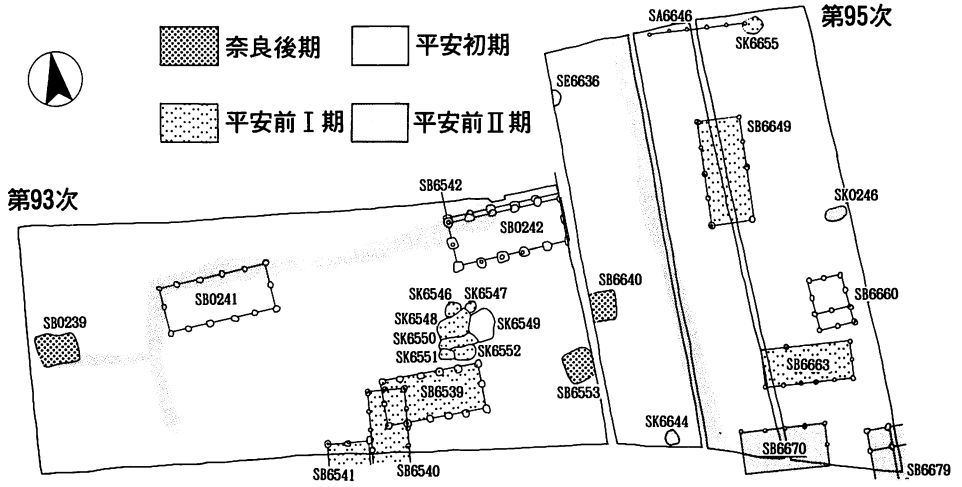


第9図 出土遺物実測 SX6635 : 126~129, SD6671 : 130~133, 157, 158, SK6651 : 134~138,
SK6654 : 139~143, SK6661 : 144, 145, SK6647 : 146, SD0244 : 154~156,
SB6660 : 153, 159, その他の出土遺物 : 147~152 (159のみ 1 : 1)

4. まとめ

昨年度第93次調査に続いて近鉄斎宮駅裏で実施された第95次調査だったが、特に平安時代後半～鎌倉時代の遺構が多く発見され、また10世紀～13世紀の斎宮の土師器編年を考える上で有益な知見を得ることができた。

遺構の上では、平安時代初期のSB6660がN4°Wの棟方向をとる他、平安時代前Ⅱ期以前に遡るとみられる生垣状遺構SA6645および、これを踏襲したとみられる南北方向の区画溝SD6671・SD0244がやはり史跡東部の方格地割に方向を揃えている。西に接する第93次調査



第10図 第93次, 第95次調査区 遺構変遷図 (1:800)

のS B0241・S B0242やL字形の生垣状遺構などもこの方向に沿っており、これらの点からも、区画の上では11世紀代、建物配置の上でも9世紀前葉までは当調査区一帯まで方格地割の規制が生きていたと考えられる。特にS A6645やS D0241などは現在町道坂本・牛葉線にはほぼ重複し、第8-8次調査MトレンチのS D0254を西側側溝とする方格地割の区画道路の約60m西に並行している。これは、方格地割を構成する方形区画の一辺約120mの半分の長さであり、方格地割と無関係ではない事を窺わせる。また、今年度に第95次調査区の南南西で実施された第96-5次調査で、八脚門と柵列による方形区画の存在が確認されており、これともあわせ考えると、外周道路やその側溝または周溝などといったものは現在確認されてはいないものの、方格地割がさらに2ブロック分ほど西に広がる可能性が高くなってきたと言える。

この他、調査区の東南隅から平安時代末期を中心に多数の掘立柱建物と見られる柱穴がみられるが、集中した建て替えの状況は窺われるものの、柱穴の規模の小さい点などから屋敷的な別の機能を考慮する必要があるだろう。また、この段階のものともみられる総柱建物S B6637や第93次調査でのS B6544やS B6557なども同様な性格をもつのではないだろうか。

遺物の上では、S X6666出土の一括土器が平安時代中期の土師器編年を考える上で、貴重な資料を提供したと言えるが、遺構そのものの性格は、銅銭等を納めて蓋をした土師器壺の肩部に穿孔を施すという、周辺地域でも他に例を見ないので、これを墳墓とみるかどうかは慎重な検討が必要とみられる。これが墓とみられるならば、10世紀においても当地域の齋宮寮に対する位置づけを考える上で大きな問題となるだろう。(大川勝宏)

《参考文献》

- ・横田洋三 「出土土師皿編年試案」『平安京跡研究調査報告』第5輯 平安京左京五条三坊十五町 財団法人古代学協会 1981
- ・伊野近富 「かわらけ考」『京都府埋蔵文化財論集』第1集 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1987
- ・伊藤裕偉 「中世前期における伊勢の土師器皿について」『関西大学考古学研究室開設四十周年記念考古学論叢』 1993
- ・「齋宮跡の土師器」『史跡齋宮跡発掘調査概報』 三重県教育委員会・三重県齋宮跡調査事務所 1984
- ・藤澤良祐 「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』 瀬戸市歴史民俗資料館 1982
- ・「(2) 平安時代末葉における土師器の様相」『史跡齋宮跡第37-4次発掘調査報告』 明和町・三重県齋宮跡調査事務所 1985

Ⅲ. 第 97 次 調 査

6 A B G ・ 6 A B I - A, B (古里・中垣内地区)

1. はじめに

古里地区や中垣内地区では、第2～7次調査（古里遺跡A～E地区）や博物館建設に先立つ第68次調査などで奈良時代のS D 4500とそれに続くとみられる溝、史跡北辺を大きくカーブを描いて巡る鎌倉時代の大溝が見つかってきており、現在山林となっている旧竹神社・小倉神社跡地の北部で重複・並走して祓川段丘崖に続くと思われる。

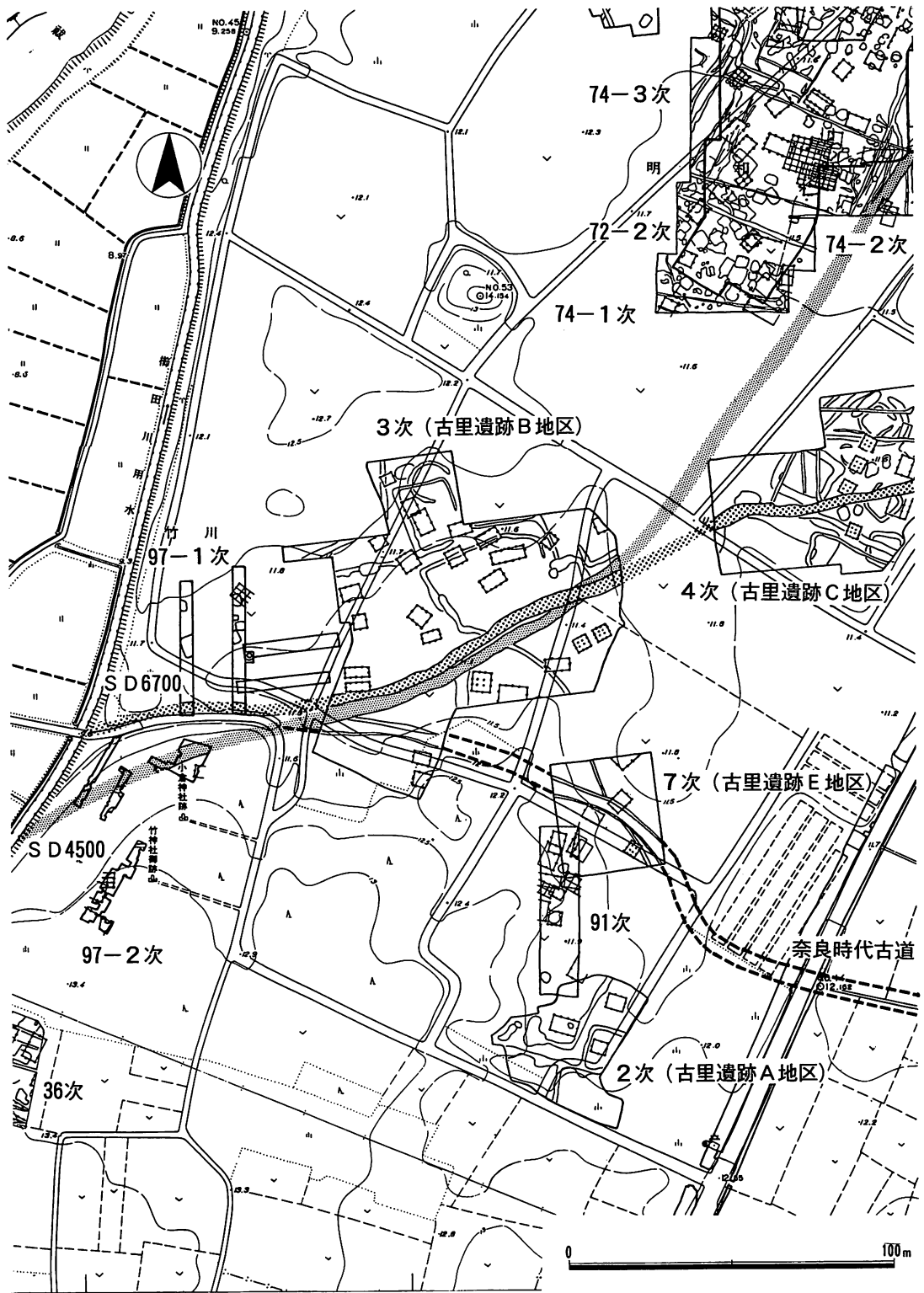
また、昨年度実施した第91次調査では、第49次、第50次、第78次、第88次調査や、県道南藤原・竹川線の道路拡幅工事に先立つ事前調査などで史跡東部から直線的に延びる奈良時代の古道の側溝が調査区内を通らず、この古里地区南部で旧竹神社・小倉神社を北に迂回する形でカーブすることがわかってきている。

第97次調査は、このような状況にある両神社跡地内の性格と遺構の分布状況を明らかにするとともに、奈良・鎌倉時代の溝と奈良時代古道の側溝がどの位置を通して祓川の段丘崖に続くのかを明らかにすることを目的として、平成4年7月8日から9月25日にかけて実施した。

調査地区は、古里地区に含まれる地点に第97-1次として2ヶ所（A区、B区）、その南側の中垣内地区に含まれる竹神社・小倉神社跡地内に第97-2次として4ヶ所（C区～F区）のトレンチを設定した。

		遺 構 の 種 類				
		S B	S K	S D	S X	S E
弥 生 時 代			6 7 1 2			
飛 鳥 時 代		6 7 0 6				
奈 良 時 代		6 6 8 6 6 6 8 8 6 6 9 0 6 6 9 3 6 6 9 4 6 7 0 8 6 7 0 9 6 7 1 3 6 7 1 4	6 6 8 5 6 7 0 3 6 7 0 4 6 7 0 5 6 7 1 0 6 7 1 1	4 5 0 0 6 7 0 2 6 7 0 7		
平 安 時 代	前 II		6 7 1 5			
	末 期			6 7 0 0		
鎌 倉 時 代	前 葉		6 6 8 9 6 6 9 1			
	中 葉		6 6 9 2	6 6 9 7 6 6 9 9		
室 町 時 代				6 6 8 7 6 6 9 8	6 6 9 6	6 6 9 5
時 期 不 明		6 7 0 1				

第 3 表 時 期 別 遺 構 分 類 表



第11図 調査区位置図 (1 : 2,000)

2. 第97-1次調査（A区、B区）

A区、B区は幅4m、長さがそれぞれ42m、46mのトレンチを設定した。それぞれの調査区は南に向かって傾斜しており、地山面での比高差は約1mある。また、調査区の北端部では地山面に通称斎宮台地の礫層が露出しており、その上面に網状細流の痕跡が見られた。

（1）奈良時代前期の遺構

竪穴住居4棟、掘立柱建物1棟、土坑1基がある。

S B 6686は一辺6.6mほどの大型の竪穴住居だが柱穴は確認できなかった。土師器甕片、高蔵寺2号窯式期のものとみられる須恵器の無台杯が出土したが遺物量は少ない。S B 6690は鎌倉時代の土坑に大半が削り落とされているが、一辺3m程度の小規模な竪穴住居とみられる。東壁の南端からカマドの残骸とみられる焼土や土師器長胴甕の破片が集中して出土した。他に土師器皿が出土している。S B 6693は一辺が2.6m程の極めて小規模な竪穴住居で、北壁東端からカマド跡とみられる焼土が検出された。柱穴は明確ではなく、土師器皿・甕片、須恵器の無台杯などが出土している。S B 6694は一辺約3.0mの竪穴住居で、最も遺構の形状が残っている。遺構の中央に直径30cm強で、深さが床面から50cmほどの支柱穴が1つある。北壁やや東寄りからカマド跡とみられる焼土塊が検出された。遺物は床面やや上部に廃棄された形で散在しており、土師器甕類、皿、在地系の土師器碗が出土している。今回見つかった竪穴住居のうちS B 6686は、他の3棟が一辺3m前後の小型のものであるのに対して非常に大型である。遺構埋土も他が灰色系のものに対して茶褐色系とやや様相が異なり、遺構の存続時期や性格について同一には考えるべきではないだろう。

B区のS B 6688は、柱掘形の一辺が約90cm、柱間寸法が1.6mと2.2mを測る総柱建物で、2間×2間分が検出されたが、棟方向が真北に対して大きく傾いているために、正確な規模や棟方向は不明である。

土坑S K 6685はA区の北部で見つかった不整形のもので、岩崎41号窯式期～高蔵寺2号窯式期にかけての須恵器杯・蓋類や土師器杯・甕・蓋・皿などが出土している。第97-1次調査区内では比較的遺物の出土量は多い。

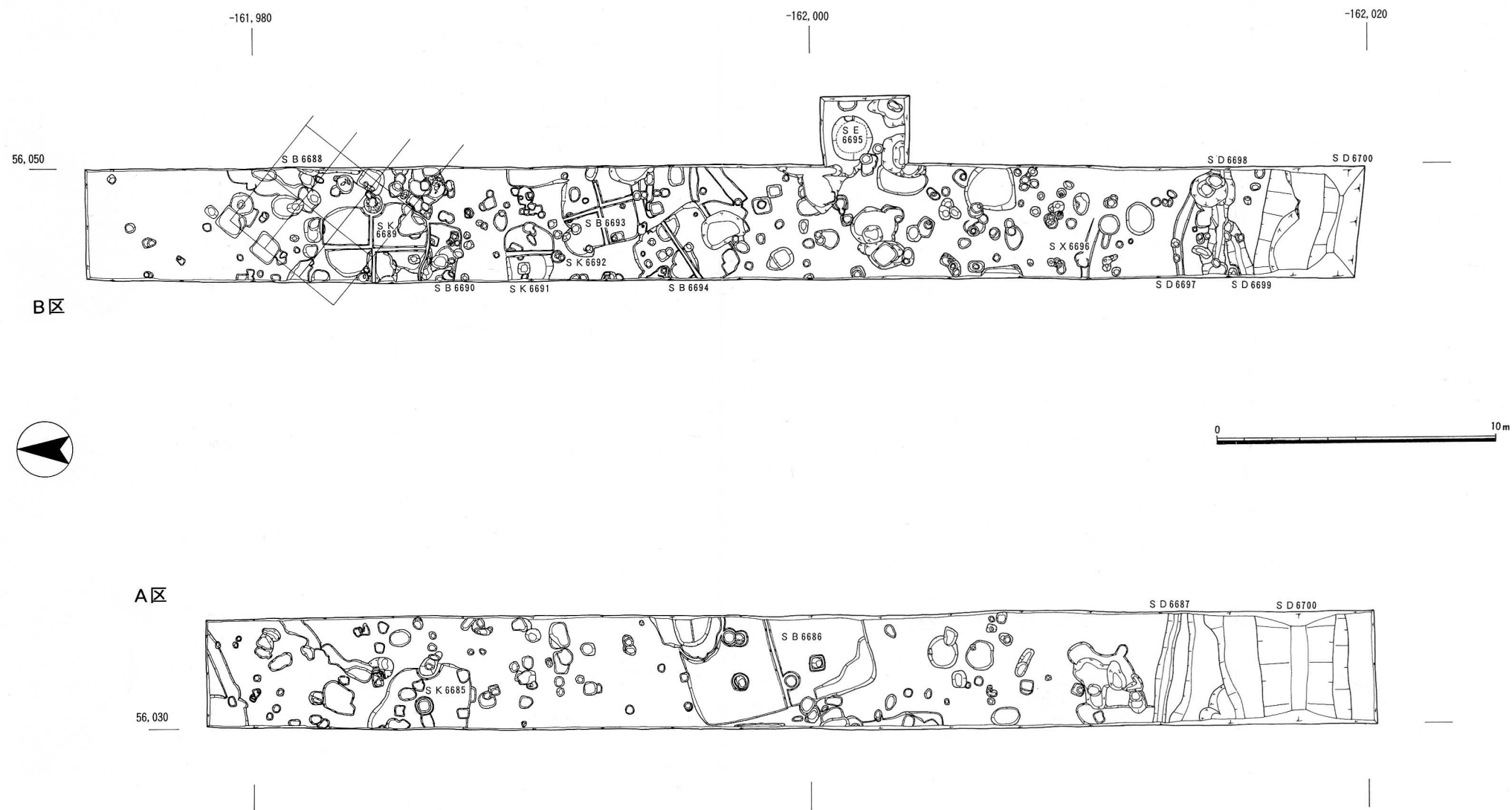
（2）平安時代末期～鎌倉時代の遺構

土坑3基、溝3条がある。

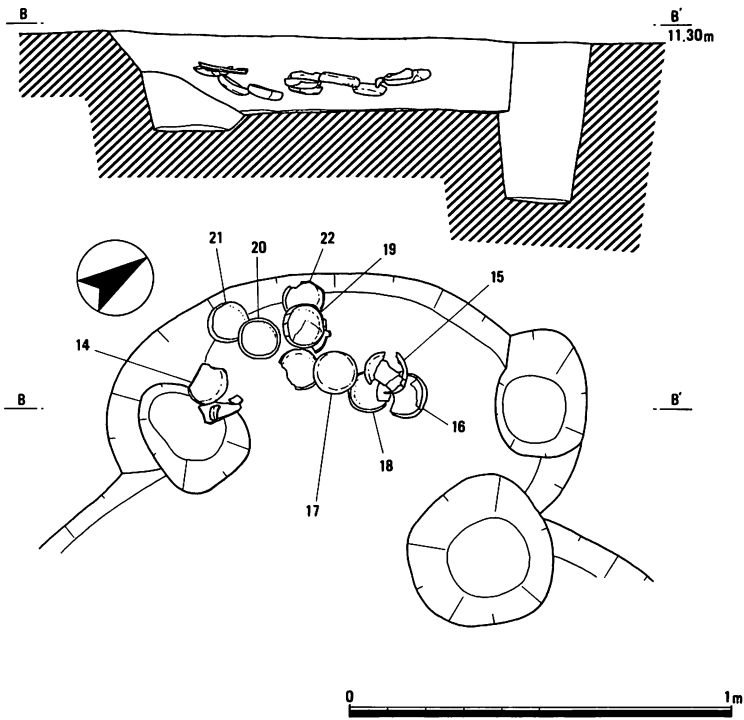
S K 6689はS B 6690に重複する長径4mほどの楕円形土坑、S K 6691は短径1.8mの楕円形土坑で、いずれも地山面の礫層まで掘削しており、土師器鍋片や山茶碗が出土している。13世紀前葉のものと見られる。S K 6692はS B 6693に重複する長径1.3mの小土坑で、土師器皿13枚、土師器鍋1個が埋納されていた。14世紀前葉のものであろう。

A区、B区の南端にまたがって発掘されたS D 6700は、史跡の北辺部を巡る鎌倉時代の大溝

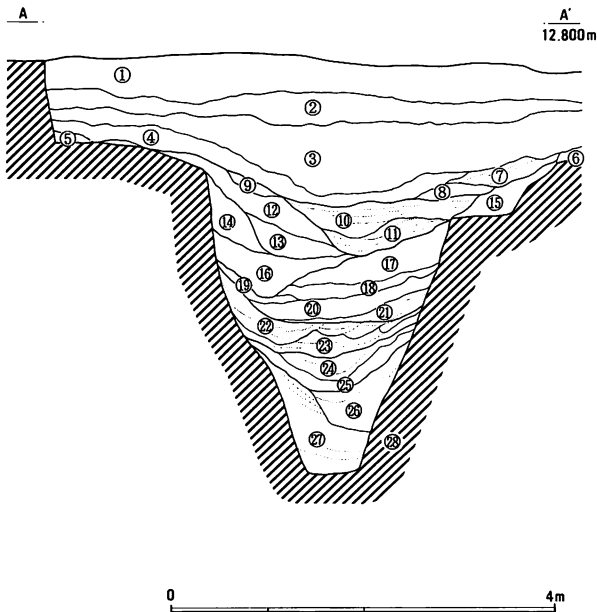
97-1次



第12図 第97-1次調査 遺構実測図 (1 : 200)



第13図 SK6692 遺構実測図 (1 : 20)



第14図 SD6700 土層断面 (B区西壁 1 : 80)

- ① 小円礫を含む灰色壤土 5Y5/1
- ② 小礫を含む灰色壤土 5Y1/4
- ③ 砂質・シルト質のオリブ黒色壤土 5Y3/1
- ④ 黄色砂質土を含む灰色砂質土 5Y1/5
- ⑤ 土器片を含むオリブ黒色粘質土 7.5Y1/3
- ⑥ わずかに黄色土ブロックを含む粘質黒色壤土 5Y2/1
- ⑦ 小円礫を含むオリブ褐色砂質土 2.5Y4/3
- ⑧ 小円礫を多量に含むオリブ褐色砂質土 2.5Y4/4
- ⑨ 5~10cmの円礫を多量に含むオリブ褐色砂質土 2.5Y4/4
- ⑩ 5~10cmの円礫を多量に含むオリブ褐色砂質土 2.5Y4/3
- ⑪ 黄色粘土ブロックと2~3cmの小礫を多量に含む暗灰黄色砂質土 2.5Y2/4
- ⑫ 5cm前後の円礫を多量に含むオリブ黒色砂質土 5Y3/2
- ⑬ 10cm前後の円礫を多量に含むオリブ黒色砂質土 5Y3/2
- ⑭ 5~10cmの円礫を多量に含むオリブ黒色砂質土 5Y2/2
- ⑮ 円礫を多量に含む明黄褐色砂質土 (地山土) 2.5Y6/6 の崩壊土
- ⑯ 10cm前後の円礫を含む灰オリブ色砂質壤土 5Y4/2
- ⑰ 小礫と黄色土を含む灰オリブ色砂質壤土 5Y4/2
- ⑱ 黄色土ブロックが多量に混入するオリブ黒色粘質壤土 5Y3/1
- ⑲ 10cm程度の円礫を多量に含む黒褐色壤土 10YR2/1
- ⑳ 黒色の斑文がはいる粘質黒色土 10YR2/1
- ㉑ 小礫の混入する黒色粘質土 10YR2/1
- ㉒ 1~10cmの円礫を多量に含む黒褐色砂質土 7.5YR2/2
- ㉓ 黄色土ブロックと小礫を含む黒色粘質土 10YR2/1
- ㉔ 黄色土ブロックと小礫を多量に含む暗灰黄色砂質壤土 2.5Y4/2
- ㉕ 砂質を含む黒褐色壤土 7.5YR2/2
- ㉖ 5~10cmの円礫を含む暗オリブ色砂質土 5Y4/3
- ㉗ 5~10cmの円礫と地山黄色土ブロックが多量に混在する黒褐色砂質土 2.5Y3/1
- ㉘ 円礫を多量に含む明黄褐色砂質土 (地山土) 2.5Y6/6

である。幅約3.4m、遺構面からの深さ約3.4mで、断面の形状は底部はやや平坦になるものの鋭いV字形に掘り込まれている。埋没の過程は概ね五段階に区分できる。遺物は第14図で示した埋土中層の⑫～⑭層と下層上部の⑳～㉑層に多いが、特に㉒、㉓層の部分から瀬戸窯編年でⅡ-3～4形式、渥美窯編年でⅡ期に位置づけられる多量の山茶碗と、12世紀後葉の土師器・ロクロ土師器が含まれており、これまで完掘されることがほとんどなかった所謂「鎌倉時代」大溝の掘削年代を12世紀中葉前後に遡らせて考え得る。

S D 6697、S D 6699は深さ6cm～10cm程の浅い溝で、少量の山茶碗片や土師器片が出土している。13世紀代のものとみられる。

(3) 室町時代の遺構

土塚2基、井戸1基、不明遺構1基がある。

溝S D 6687、S D 6698はS D 6700の北側を通る東西溝で、両者は連続する可能性がある。幅50cm～60cm、深さ10cm～20cmで、土師器皿・鍋などの細片が出土している。

井戸S E 6695は、第3次調査(古里遺跡B地区)でも確認されている。今回も調査区間の位置関係を確認するためB地区を一部東に拡張して再検出した。直径約1.6mで、肩部に1段30cm前後の礫を並べているが、以下は素掘りで石組みはみられない。遺構面から約50cmの深さで掘削を中止した。

S X 6696は直径40cm強、深さ約35cmのピットで、内部に土師器鍋2個体を納める。これらはいずれも割れた状態で上下に埋没しており、この内上部に埋められた鍋には二枚貝の殻が入っていた。すべて左右殻が揃うようで、内訳はハマグリ4個体分、アサリ12個体分、シジミ1個体分である。土師器鍋は貝殻を納めた上から口縁部の破片で覆っている。遺構の性格は不明である。

3. 第97-2次調査(C区～F区)

旧竹神社・小倉神社の跡地内は現在区有林となっており、樹木を伐採することができないため、立木の間隙をぬって不整形な調査区を設定することとなった。ただし、調査区内に小地区を作るために、調査区は座標北に対して30°東に振った軸線を設定した。遺構検出面までは深く、最北のC区で約1.1m、最南のF区の南壁でも約1.1mの深さがある。

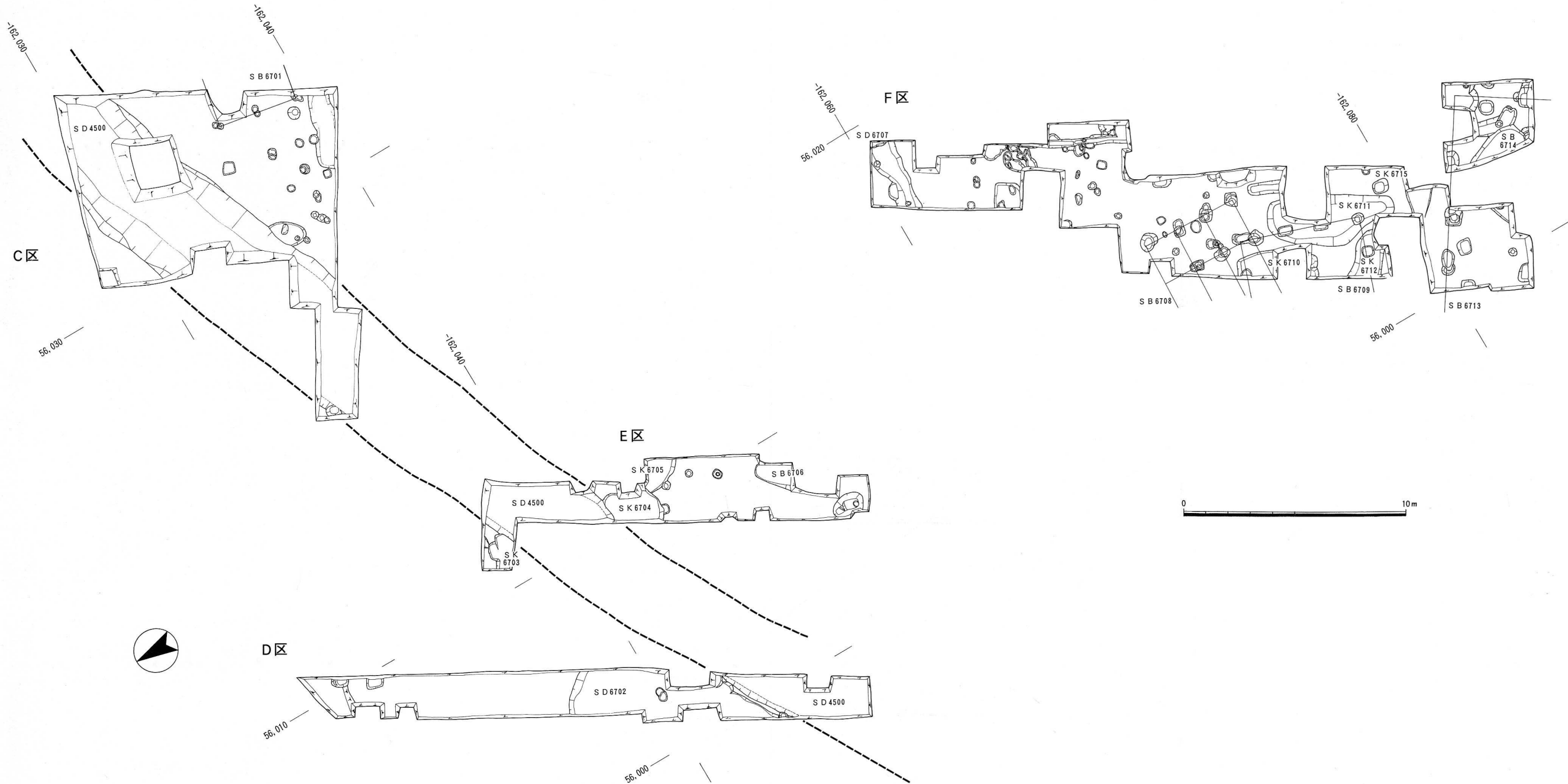
(1) 弥生時代の遺構

F区の土塚S K 6712がある。深さ約20cmの不整形土塚で、弥生土器壺・甕の破片が出土している。また、F区の包含層からは弥生時代中期や後期の土器片も出土しており、周辺にはさらに遺構が分布しているものとみられる。

(2) 飛鳥時代の遺構

E区の竪穴住居S B 6706がある。北辺部を検出したにとどまるが、推定で一辺3.5m程のも

97-2次



第15図 第97-2次調査 遺構実測図 (1:200)

のと思われる。遺構面から約20cmの深さがある。遺物には須恵器平瓶（84）と土師器甕（85）が調査区東壁近くでかたまってお出土したが、検出した床面の直上ではない。須恵器は岩崎17号窯式期に相当すると考えられる。7世紀半ばに位置付けられよう。

（3）奈良時代前期の遺構

掘立柱建物2棟、土塚2基、溝2条がある。

掘立柱建物S B 6709は一辺約50cmの方形の柱掘形を持ち、南北に3間分が確認された。柱穴から土師器杯・甕片が出土している。また、S B 6713は柱間寸法が約2.5mで、東西方向で3間分、南北方向で1間分が想定される。土師器片、須恵器片が出土している。

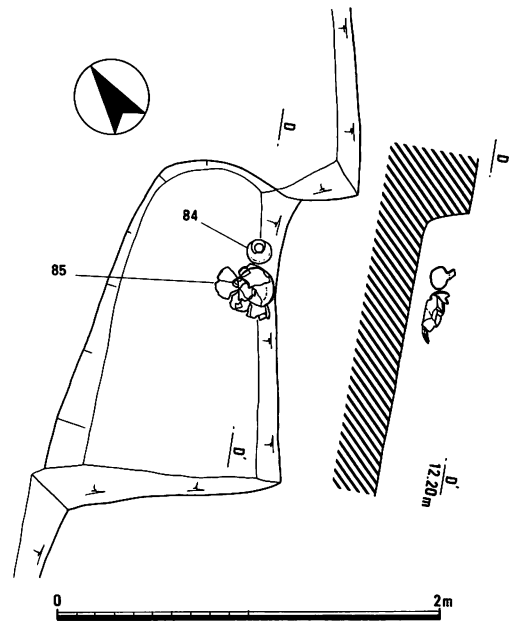
F区のS K 6711は長径5.6m、深さ約30cmの長楕円形土塚で、S B 6709より後出のものである。遺物は少なく土師器片が出土したのみである。

溝S D 4500は古里地区北部の第68次調査で検出され、道路遺構の可能性も指摘されているS D 4500の延長と考えられる。また、第4次調査（古里遺跡C地区）でS D 50とされている溝とも同一のものと考えられる。今回の調査ではC区、D区、E区で確認された。D区とE区は調査範囲が狭いため遺構上面を確認するに止めたが、C区では底部まで完掘した。断面の形状はゆるやかなU字状で、幅約4.6m、深さ約1.8mである。埋土断面の地層から埋没の状況が4段階ほどに分けられるようだが、第17図の⑤層～⑩層で土師器甕類を中心に多量の遺物が出土した。須恵器では岩崎17号窯式期の杯蓋などが出土している。D区のS D 6702はS D 4500に沿って掘削されたもので、最深部で遺構面から30cm強の深さで、底面の形状は平坦である。遺構の規模は明確ではなく、土塚になるものかもしれない。遺物では土師器杯・甕、岩崎17号窯式の古段階に相当するとみられる須恵器杯などが出土している。奈良時代前期でも古相のものともみなしうる。S D 4500やS D 6702は出土遺物からみても、掘削年代は7世紀代に遡らせて考えるべきかもしれない。

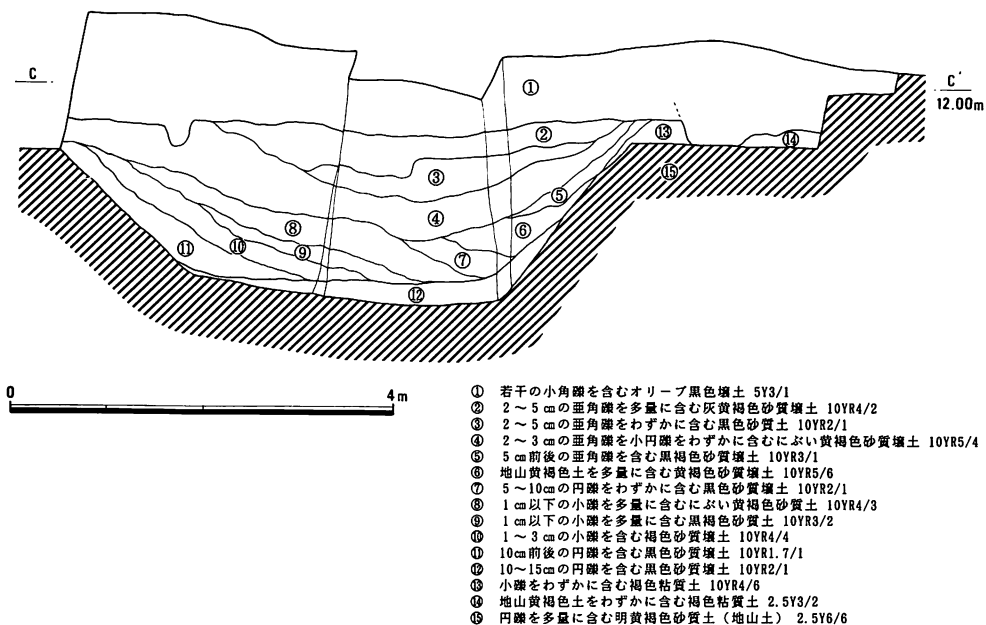
（4）奈良時代中期の遺構

竪穴住居1棟、掘立柱建物1棟、土塚2基、溝1条がある。

建物跡はすべてF区からの検出で、竪穴住居S B 6714は一辺約3.2mの竪穴住居で、遺構面



第16図 S B 6706 遺構実測図（1：40）



第17図 SD4500 土層断面図 (C区西壁 1:80)

から約20cmの深さがある。遺物の出土量は少なく、土師器片などが出土したのみである。調査区の制約もあるが、S B6714からは柱穴を確認することができなかった。掘立柱建物としてはS B6708がある。柱間寸法が約2.0mと約1.5mの総柱建物で南北3間分が検出されている。土師器片が出土しているが、奈良時代中期より若干下る可能性もある。

E区の土塚S K6704からは多量の遺物が出土している。土師器では杯・皿・甕・高杯・カマドなどや平城Ⅲ期の遺物に認められる上面の平らなつまみを持つ杯蓋が、須恵器では杯蓋・長頸瓶・甕や無台杯などが出土している。F区のS K6710は方形の土塚で北東角の部分が発掘された。推定で一辺約3.0mほどの規模と思われる。遺構面からの深さは20cm弱である。床面は明確でないが、堅穴住居の可能性もある。土師器碗・皿・甕・高杯の破片が出土している。

F区のS D6707からは遺物の出土が見られなかったが、他の奈良時代前期～中期の遺構と同様の暗茶褐色土の埋土を持ち、この時期に比定されるものと考えられる。

(5) 奈良時代後期の遺構

この段階には遺構の数は減少する。D区の土塚S K6703は不整形の小規模な土塚だが、土師器甕類を中心として多量の土器類が出土している。

(6) 平安時代前Ⅱ期の遺構

F区の土塚S K6715のみである。70cm×60cmの隅丸方形の土塚で、約30cmの深さがある。土師器杯・甕片や焼成の不十分な須恵器類の他、志摩式製塩土器が出土している。

(7) 時期不明の遺構

F区の掘立柱建物S B 6701がある。柱間寸法は1.8mで、柱穴は直径約25cm、建て替えの可能性もある。遺物はまったく出土しなかったが、近世以降のものと考えられる。

4. 遺物

遺物については第97-1次、第97-2次あわせて概述する。第97次調査全体では整理箱で55箱分の遺物が出土している。遺構同様に奈良時代と鎌倉時代の土器類が大半を占める。

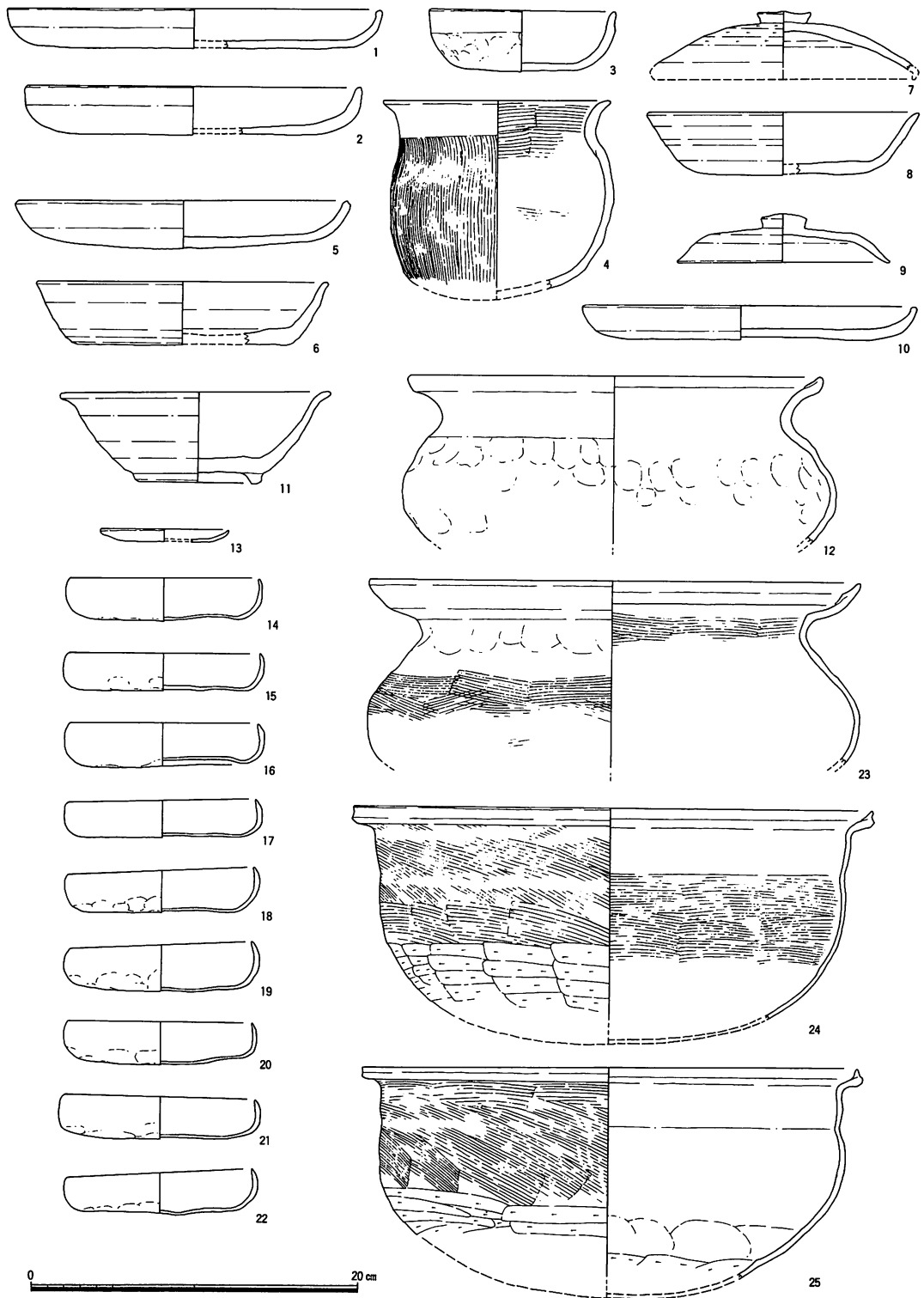
飛鳥時代の遺物として、S B 6716出土の土器がある。(84)は岩崎17号窯式期に相当すると考えられる。共伴の土師器甕(85)は、口径14.6cm、器高26.9cmのもので、この胴部最大径に対し口径が小さいタイプのものでは大型である。これらは飛鳥・藤原京の土器編年で飛鳥Ⅱ期、7世紀の第2四半期に位置づけられるものとする。

奈良時代前期では、まず第97-2次調査区のS D 4500の⑤層～⑩層から、土師器甕類を中心とした土器が出土している。在地系土師器碗の(54)、(55)は口径が12cm程と小型で口縁部を2cm程度ヨコナデしe手法による調整で、また甕類は口縁部の端部を外方につまみだすものが多く、胴部最大径に対して口径の小さい(57)～(59)や(62)など、奈良時代でも古い要素を残している。須恵器では、弱いかえりを持つ杯蓋(64)などがあり、岩崎17号窯式期に相当すると考えられる。S D 6702からも口縁部のたちあがりがかろうじて残る須恵器の杯身(66)や横瓶(67)が出土しており、これらは7世紀の半ばから末葉のものが中心になると考えられる。これに後続するとみられるものとして、第97-1次調査区のS B 6686から出土した内面に放射状暗文を施す土師器皿や、底部をヘラ切りする高蔵寺2号窯式期に相当するとみられる須恵器無台杯の小片などがある。S B 6690からもb手法による土師器皿などがみられ、ほぼ同様の時期と考えられる。土塚ではS K 6685から高蔵寺2号窯式期とみられる無台杯などが出土した。第97-2次調査区ではS B 6693から高蔵寺2号窯式段階の須恵器杯がみられ、S B 6694からも床面に散乱した状況で土師器類が出土している。これらは8世紀前葉のものと考えられよう。

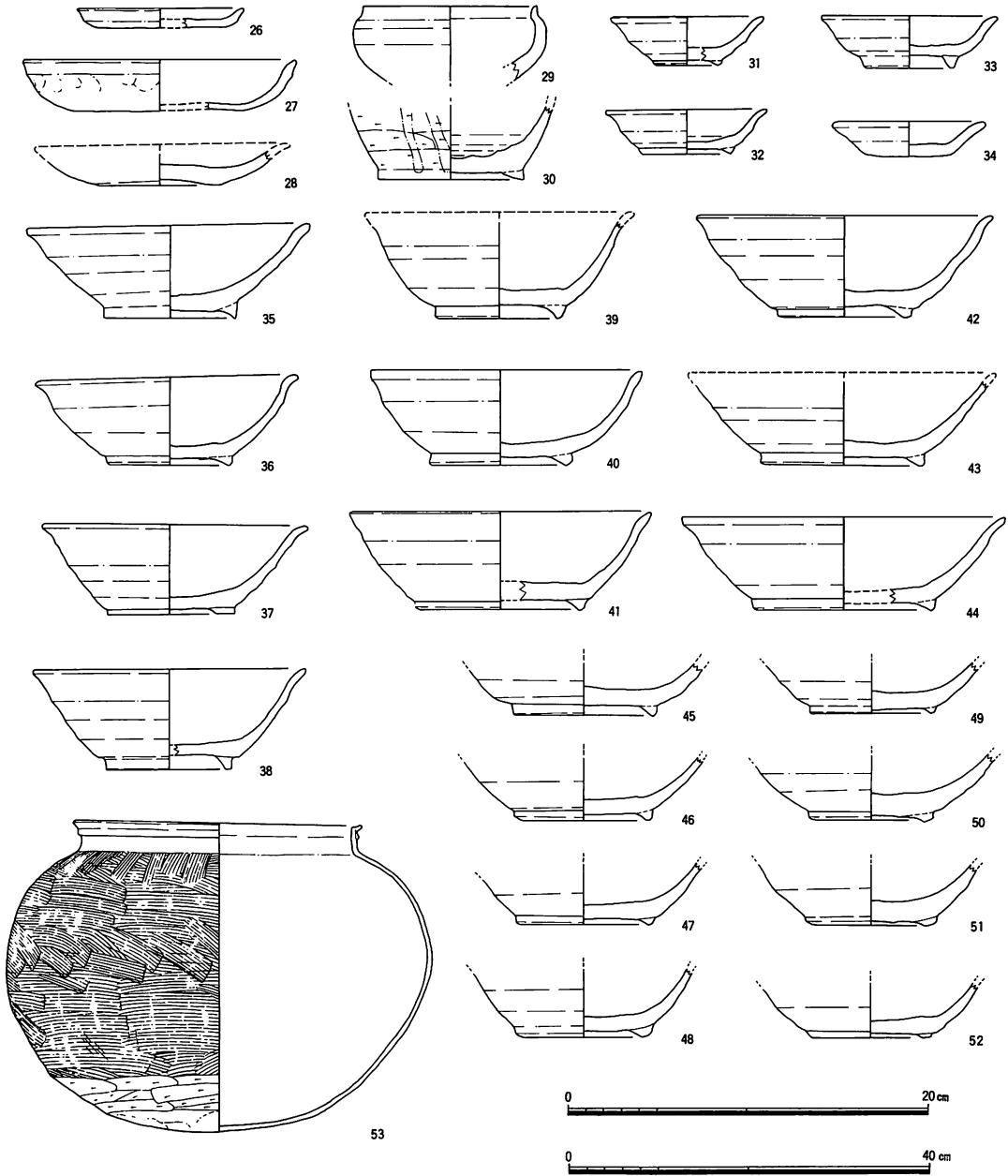
奈良時代中期では、第97-2次調査のS K 6704やS K 6710がある。在地系土師器碗は口径12cm前後で、口縁部を2cmほどの幅でヨコナデする。奈良時代中期でも古相のものとする。土師器皿(83)などはb手法による調整がみられる。

奈良時代後期ではS K 6703から奈良時代後期の土師器が出土している。在地系土師器碗は口径12cm～14cmで、皿と同様に口縁部を1cmほどの幅で狭くヨコナデするe手法によっている。共伴する土師器皿(70)もe手法による調整である。

平安時代の遺物として、前Ⅱ期に相当するS K 6715の土器がある。土師器杯は口径13cm前後で、e手法によっている。この他口径13.8cmの製塩土器の大破片(89)や焼成が不十分な須恵器壺の底部が出土している。また、平安時代末期～鎌倉時代初頭のものとして所謂「鎌倉大溝」

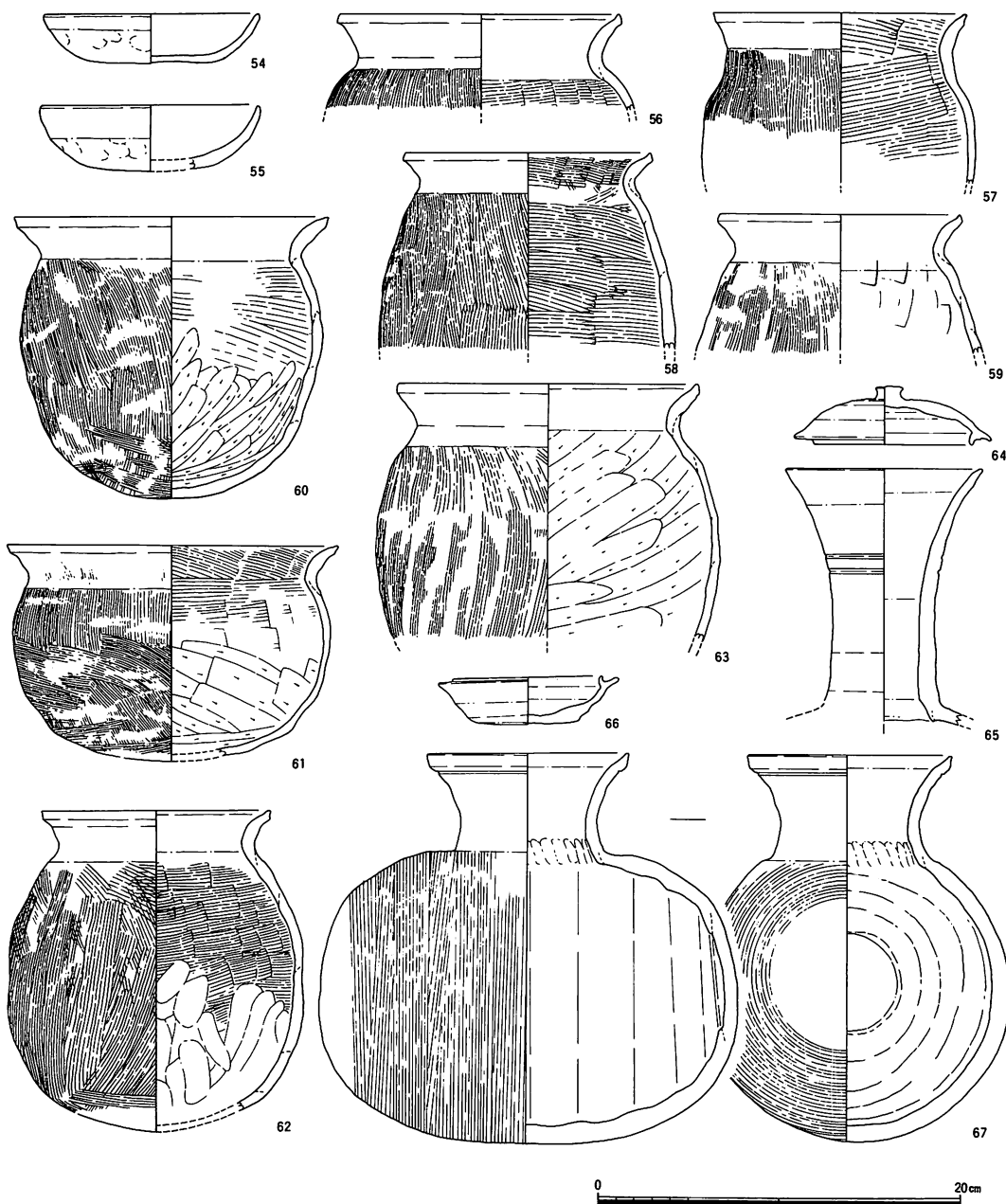


第18図 第97-1次調査 出土遺物実測図 SB6693 : 1~4, SB6690 : 5, SB6686 : 6, SK6685 : 7~10,
SK6689 : 11,12, SK6692 : 13~23, SX6696 : 24,25



第19図 第97-1次調査 出土遺物実測図 S D6700 : 26~52, 包含層 : 53 (1 : 8)

と呼称されてきたS D6700の遺物がある。埋土下層上部からは瀬戸窯の山茶碗編年でⅡ-3~4形式、渥美窯の編年でⅡ期に位置づけられる山茶碗が多量に出土しており、共伴する土師器やロクロ土師器の皿なども年代観の上で齟齬はないと思われる。また、中層以上からは瀬戸窯編年でⅢ-5~6形式の山茶碗が出土している点から、当調査区のS D6700は13世紀前半には



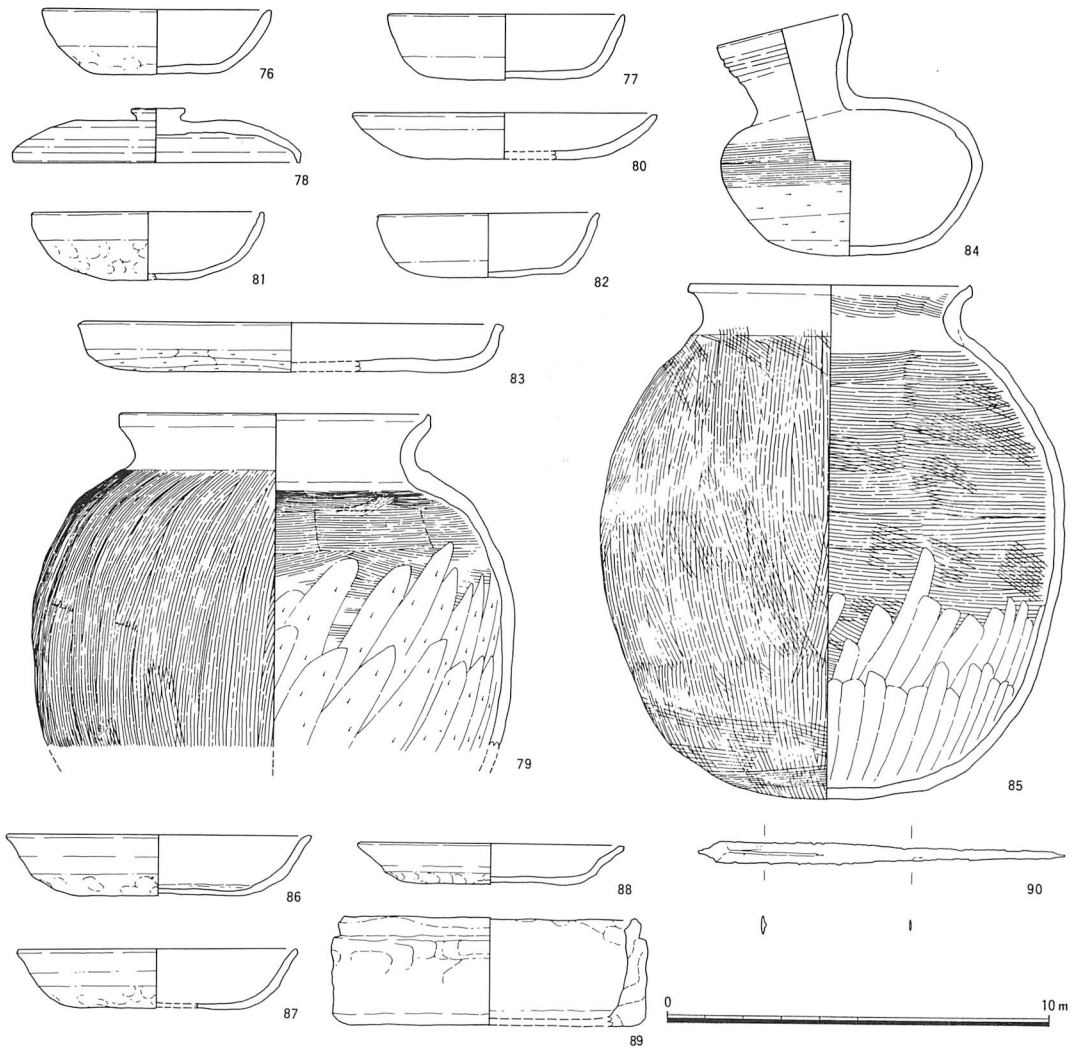
第20図 第97-2次調査 出土遺物実測図 SD4500 : 54~65, SD6702 : 66,67

大半が埋没していたとみることができる。

鎌倉時代の遺物としては他に S K 6689 と S K 6692 出土の遺物がある。S K 6689 からは伊藤氏の編年で第 1 段階 b 型式の土師器鍋や渥美編年で II 段階の中葉とみられる山茶椀があり、13 世紀前半のものである。13 枚の土師器皿が出土した S K 6692 には伊藤氏編年で第 3 段階 a 型式の



第21図 第97-2次調査 出土遺物実測図 SK 6703 : 68~75



第22図 第97-2次調査 出土遺物実測図 SK 6704 : 76~79, SK 6710 : 80~83, SB 6706 : 84,85, SK 6715 : 86~89, 包含層 : 90

土師器鍋の破片が上面に混入しており、これらは概ね14世紀代に位置づけられる。

室町時代の遺物ではS X 6696の土師器鍋があるが、伊藤氏編年の第4段階の範疇に入る。15世紀後半以後のものと考えられる。また、包含層ながら大型の土師器鍋（53）がA区から出土している。口径31.4cm、器高35.0cmで、ほぼ完形に復元された。

特殊遺物としては、細片のみながら緑釉陶器が4片出土している点は、平安時代の遺構の乏しい当地域にあっては注意されるべきかもしれない。輸入陶磁ではA区、B区から同安窯系の青磁椀、玉縁口縁の白磁椀が出土している。また、包含層から青銅製の簪（90）が出土している。詳細は不明だが、近世のものであろうか。

5. まとめ

今回発掘した遺構でまず注目されるのは奈良時代の大溝 S D 4500 である。第 68 次調査では幅 3.5m、深さ 0.1m～0.2m で底部が平坦であり、また、第 3 次調査（古里遺跡 B 地区）で見つかった奈良時代大溝の北端も同様な形状をしているため、これらは同一溝とみられており、道路跡の可能性も指摘されている。これらの溝底部のレベルをみると、第 68 次で北から 10.35m～10.20m、今回調査の F 区内で約 9.7m で、南西に向かって傾斜してきていることがわかる。しかし、側溝などの施設は確認されておらず、また、第 3 次調査の南半や今回発掘された部分は北部とは異なり U 字形の断面を呈しており、底部の形状や埋土の状況から明らかな流水の痕跡が見いだせなかったものの、道路遺構とするには躊躇する結果となった。

また、この大溝に第 3 次調査区内でその側溝が合流するといわれる奈良時代の古道は、A 区・B 区で見つかった平安時代末期の S D 6700 の南を並走し、現在の農道とほぼ重複するものと考えられる。

もう一つの大溝 S D 6700 は、これまでの調査で史跡北部の各地で確認されている所謂「鎌倉時代」大溝の西端にあたる。しかしながら従来溝底まで完全に掘削されて確認される例は少なく、その機能などの詳細な性格はいまだに不明な点が多い。しかしながら今回の調査で、溝の比較的底部から出土した土器類の編年観から、この大溝の掘削年代が 12 世紀中頃、平安時代末期に求めうる可能性が考えられるようになった。この時期の齋宮における大規模な土木工事としては、平信範の長承元年（1132）から承安元年（1171）までの日記である「兵範記」の紙背文書の「平行光申文」に記載がある。これは、久安六年（1150）以前に「齋宮寮溝渟二十余町」を成功の対象として掘削させるべきところ「全以要人無」いため、内舎人の成功によりこれを請け負わせるという宣旨が出されたのを受けて、平行光なる人物がこれを掘削したので、内舎人の拜任を請う、という仁安三年（1168）の申文である。この溝渟は 20 余町（約 2 km 以上）という大きな規模からも、この S D 6700 がこれに相当する可能性が高く、この史料からもこの溝渟を掘削する理由や実際の掘削の規模などは窺えないが、発掘された遺構と文献史料が一致しうる可能性を持つ、齋宮では数少ない例と言えるだろう。この大溝の機能を考える材料はまだ多いとは言えないが、溝底部まで完掘された少ない調査例では、これまでに第 3 次調査（古里遺跡 B 地区）、第 4 次調査（古里遺跡 C 地区）、第 37-4 次調査、第 37-7 次調査、第 41 次調査などで全体あるいは部分的に完掘されている。溝底レベルをみてみると、東部の第 37-4 次で標高が 8.3m、史跡中央部の第 37-7 次と第 41 次でそれぞれ 8.6m、7.8m、第 97 次調査の A 区で 8.0m ほどになっており、全長 2 km 以上の遺構としては溝底の高低差は僅かであり、不規則でもある。取水の面からみても現在の祇川沖積平野の標高は、この S D 6700 の西端付近で 9.3m あるが、実際の水位はさらに下がるので、溝が大規模な割には効率は決してよいとはいえない。また、

今回のS D6700の底部は円礫を多量に含む砂質土である。これは斎宮台地を構成する基盤層として広範囲にみられるもので透水性は高く、この大溝が巡る地域全般に広がっている。この二点からこのS D6700は流水・滞水していた状況は考え難く、用水や運搬などの機能は認められない。次に考えられるのは区画溝としての性格だが、先の「平行光申文」でもこの溝を「斎宮寮四保内溝渚」と呼んでおり、大きく史跡地内を囲むようにカーブする形状からも、むしろ当時伝統的に理解されてきていた斎宮寮のエリアを確定する施設として、この大溝が必要な状況があったと考えることができるのではなかろうか。なお、遺構の上では確認されていないが、この掘削に伴う排土の量を考えると、大溝の南北いずれにかは土塁状の高まりを作っていたものとみておきたい。こうした中世城郭にも匹敵するような大規模な区画溝を掘削する背景には当時の斎宮寮と伊勢神宮あるいは神領との関連という重要な問題が絡むとみられる。この点については、さらに多面的な検討を要する。今後の課題としたい。

次に飛鳥時代～奈良時代の建物跡についてみてみたい。第97次調査全体では5棟の竪穴住居と3棟の掘建柱建物が見つかった。特に竪穴住居については5棟が一辺3m前後で、主柱穴も不明瞭である。古里・中垣内地区でこれまで確認されている竪穴住居をみるとこれまでに飛鳥時代のものが40棟、奈良時代のもので80棟余りの竪穴住居が調査されているが、飛鳥時代には長辺で4.0m～5.0mのものが約50%を占めるが、奈良時代になると3.0m～4.0mのものが55%を占めるようになり規模の縮小化が認められる。奈良時代には一辺3m余りの小規模な竪穴住居が散在していたことになる。また、掘立柱建物は、位置的な重複はあるものの、棟方向や規模に統一性はみられない。今回調査できなかった立木の部分にも遺構が分布するとみられるが、現在の段階では、奈良時代の個別の時期決定を詳細に検討していないため、集落の在り方の面でも、今後の問題提起をしておくにとどめたい。

(大川勝宏)

《参考文献》

- ・藤澤良祐 「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』 瀬戸市歴史民俗資料館 1982
- ・吉田早苗 「『兵範記』紙背文書にみえる官職申文(中)」『東京大学史料編纂所報』第24号 東京大学史料編纂所 1988

『平行光申文』

□六位上平朝臣行光誠惶誠恐謹言、
請被殊蒙 天恩、因准先例、依堀進斎宮寮四保内溝渚功、拜□内舍人闕

□行光謹検案内、依成功任要官者、承前之例也、不違羅□、爰行光齡及強仕志在奉公、然間去久安六年十□□日、被下 宣旨備、得斎宮寮溝渚二十余町者、一代一度□榮爵二人之功所令堀也、而近代全以無要人、仍賜内舍□功、欲令致其勤矣者、依請被 宣下之時、勳隨分之□□、終不日之功畢、爾降久雖送年序、空以漏雨露、倩考旧貫、神社成功抽賞異他、何況於太神宮事乎、就中□其功程已是過分也、望請 天恩、因准先例、被拜任件□者、知成功之不空、行光誠惶誠恐謹言、

仁安三年八月八日正六位上平朝臣行光

IV. 第98次調査

6AFM-C・E（鍛冶山地区）

1. はじめに

本年度最後の計画調査として実施した第98次調査は、史跡東部、通称中町裏の鍛冶山地区で竹神社東方約150m、近鉄山田線の北側にあたる。当地区には明治2年に全焼した寺跡（蓮光寺）が存在し、明治15年からは斎宮尋常小学校を設置した場所と伝承される。また、本調査地の中央付近には、第29次調査として南北方向に幅4mのトレンチ（6AFM-C・E・F・G）調査が実施されている。調査期間は平成4年9月28日から5年3月4日までで、東西約45m×南北約30mの範囲を対象に調査区を設定し、調査面積は1,150㎡である。

これまでの調査で史跡東部には碁盤目状に区画された地割りとして、一辺約120mごとに幅約12mの区画道路が東西南北に整然と続き、東西5列、南北4列、合計20区画の存在が知られ、このような方格地割は奈良時代後期から平安時代初期にかけて造営されたものと考えられている。しかしながらこの方格地割の東から3列目の南北列の区画については道路の両側側溝から内々で一辺約130mとその他の区画とは規模が異なっており中心的区画としての位置づけがなされてきたところでもある。さらに年度末の3月には史跡現状変更に伴う第96-5次調査で八脚門SB6850とそれに取り付く東西柵列SA6849が発見され、方格地割が西へ2列広がり、最大で東西7列、南北4列と考えられるようになった。

今回の調査地はこの方格地割の北から3列目、東から3列目の区画の北東角にあたり、周辺の発掘調査も近年かなり進んでいる地域であるが、計画調査としてはいずれも近鉄沿線の北側に限られている。当調査区の東隣では第92次、21-1次、46次、88次調査が実施されており、奈良時代古道及び平安時代初期の区画道路側溝や建物を取り囲む大規模な柵列を検出している。さらに現道を挟んだ北西側では第83次、84次調査において平安時代初期の掘立柱建物SB5780・5820やそれを取り囲む柵列SA5840と溝SD5832が発見されている。

今回の調査では第46次、88次、92次調査で確認された柵列SA2800の西への延長部分とその柵列に囲まれた区画内の建物を検出することが調査の主たる目的とされた。次に史跡西部古里地区から東部鍛冶山地区まで奈良時代古道が直線的に延びていることも第88次、92次調査で判明しており、方格地割に先行する古道の確認も期待される場所であった。

基本的層序としては、Ⅰ：表土（耕作土）、Ⅱ：灰黄褐色土（遺物包含層）、Ⅲ：地山（黄褐色土または黒色土）である。調査区北端では地山面は黒色土で、それ以南は黄褐色土の上面で遺構検出を行った。地山面までの深さは南端で約40cm、北端で約60cmであり、調査区南辺で標高約9.6m、北辺で約9.4mと北へ向かって緩やかに傾斜し、その差は約20cmである。

2. 遺 構

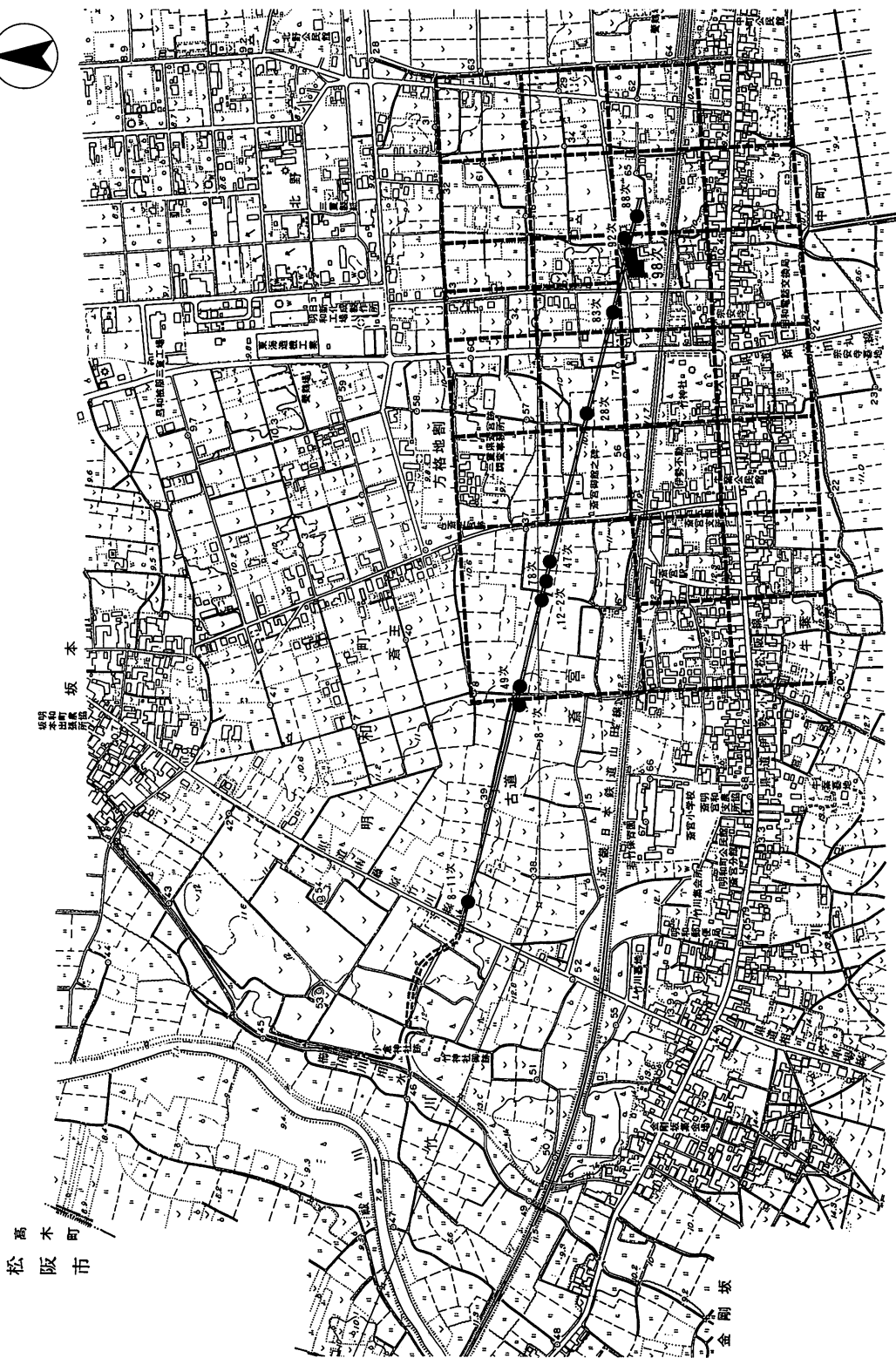
調査の結果、検出した遺構は柵列5条、掘立柱建物24棟、土坑49基、溝19条等があり、期的には奈良時代から近世に及ぶが、奈良時代後期～平安時代前期の掘立柱建物が中心となる。

(1) 奈良時代前期の遺構

この時期の遺構には道路S F 6800とその両側に溝S D 6801・6802があり、調査区北西部に位置する。道路の北側溝と考えるS D 6801は部分的にしか確認できなかったが、幅0.7m～0.9mを測る。深さは10cm～30cmで断面は浅いU字形を呈しているが、やや深く掘り下げた部分も見られる。溝方向はE15°Sでほぼ直線的に走るが、溝底の絶対高は西で標高9.2m、東で標高8.9mを測るが、柵列S A 6760との交差部付近では標高9.3mとやや高くなる。S D 6802はS D 6801に並走する道路の南側溝であり、調査区内でほぼ連続して検出された。西半では断面は深い逆台形で幅0.7m～0.9m、深さは35cm～45cmを測るが、東半では幅0.7m～1.0m、深さ10cm～25cmとやや浅い。溝底の絶対高は西で標高8.8m、東で9.2mとなるが、溝S D 6810の交差部では9.0m前後を測り、この付近を境に西・東に下るものと考えられる。溝埋土はいずれも黒褐色土で遺物は皆無であるが、第88次調査で検出された北側溝S D 2404と南側溝S D 6252の延長部分に相当することから当該時期の道路として位置づけられる。なお、S D 6801とS D 6802に挟まれた部分は道路遺構と考えられ、両側溝の心々間を計測すると8.8m～9.0mを測る。

		遺 構 の 種 類											
		S	K	S F	S D	S B		S A					
奈良時代	前期			6800	6801	6802							
	中期	6755	6766	6769									
		6806	6807	6808									
	後期	6809	6811	6812									
		6813	6814										
		6747	6756	6757									
		6763											
平安時代	初期	6744	6753	6759		6775	6776	6723	A	6720	6721	6760	
		6815				6777		6724		6722	6730	6770	
								6745		6731	6740		6805
	前I期	6764	6765	6767		6785	6804	6727	B	6725	6726	6780	
		6783	6784	6789						6735	6736	6790	
		6791	6792	6793									
		6794											
	前II期	6743	6746	6758		6748	6749						
		6763	6771	6772		6786	6787						
		6773	6788			6810							
	中期	6751	6752			6750				6728	6729		
										6732	6733		
										6734	6737		
										6738	6739		
	時期不明	6754	6761	6762		6795	6796			6741	6742		
		6774	6778	6779		6797	6798						
		6781	6782	6816		6799	6803						
		6817											

第4表 時期別遺構分類表



第23図 奈良時代古道関連調査区配置図 (1 : 10,000)

(2) 奈良時代中期の遺構

調査区南西部に集中する土坑 S K 6755・6766・6769・6811～6814は、長径1.8m～2.2m、短径1.2m～1.5mの略長方形を呈し、深さは完掘できた S K 6755で80cm、S K 6766では60cmを測る。S K 6769は平面長楕円形で長径5.8m、短径3.2m、深さは南半の掘り下げた所で80cmを測る。上面では S B 6730～6732の北西隅の柱穴が検出されている。調査区北辺部の S D 6797の溝底で検出した S K 6806～6809は長径約4m×短径約2mで不定形な楕円形を呈する。いずれも埋土は黒色粘質土で遺物はほとんど出土していない。埋土の切合い関係では柵列 S A 6760より古く、奈良時代古道の側溝より新しいことから当該時期を想定する。

(3) 奈良時代後期～平安時代前Ⅱ期の遺構

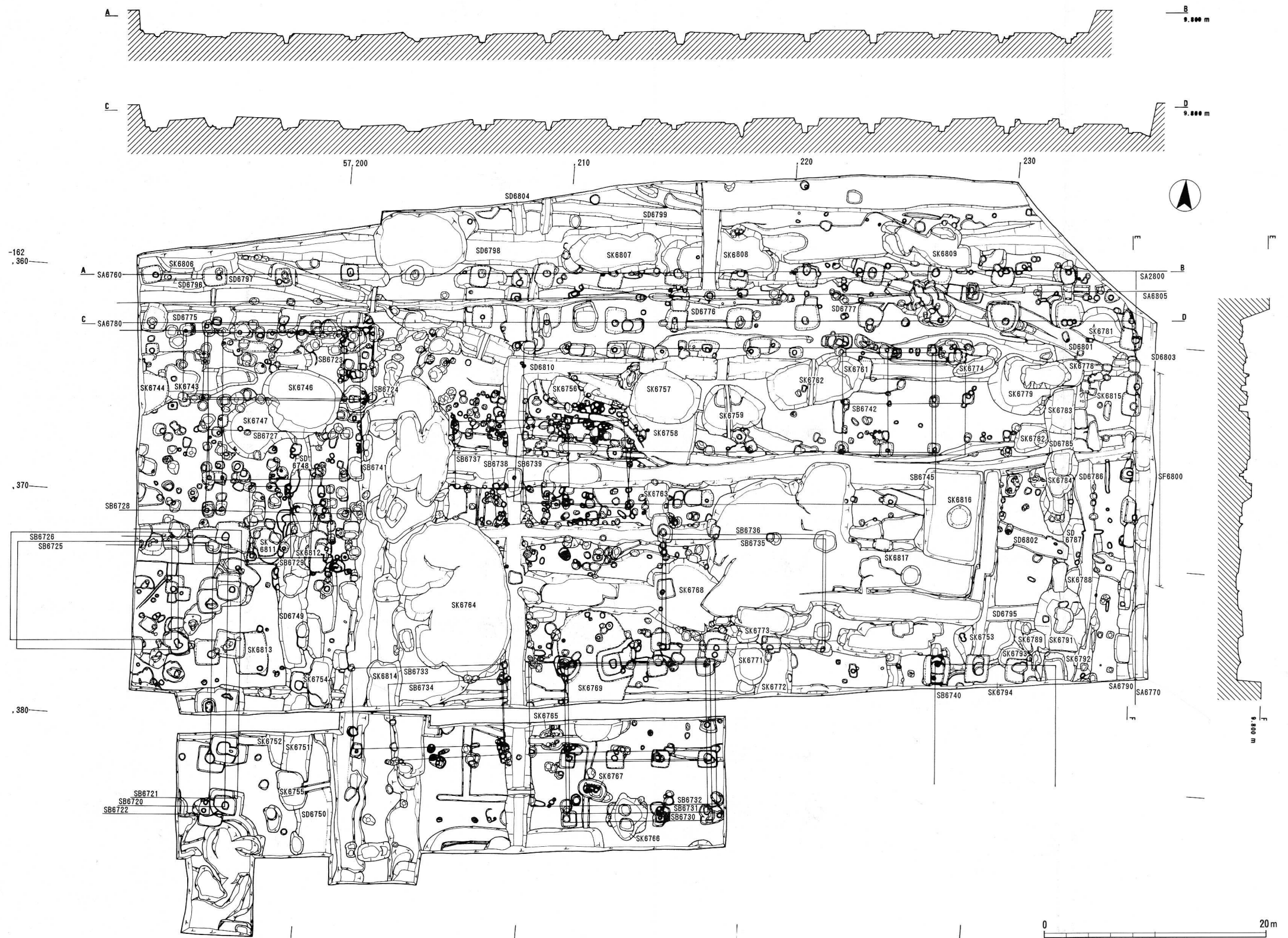
この時期の遺構には、柵列5条、掘立柱建物14棟、土坑26基、溝10条等があるが、柵列や掘立柱建物については柱穴からの出土遺物が乏しく、しかも建替え等で時期区分を明確にできないため柵列と掘立柱建物の新旧関係と配置をもとにA、Bの二つの配置を想定して概述する。

・配置Aに属するもの (S A 6760・6770、S B 6720・6721・6722・6730・6731・6740)

東西柵列 S A 6760は調査区北辺で検出したが、この柵列は第46次調査で S A 2800として北東角部を確認し、東西4間以上、南北4間以上であることが判明している。第88次調査ではさらに南へ7間分延長することがわかり、第92次調査では西側延長部分として4間分が検出され、延べ14間以上西側へ続くことが確認された。今回の調査区内ではさらに西側延長部分として14間分(41.2m)検出し、北東角から31間以上延びることがわかった。柵列の方位はE 4°Nを示し、方格地割の道路側溝と並行する。柱列の北半は溝 S D 6797と重複するが、柱掘形は一辺0.8m～1.0mの方形で確認した深さは50cm前後である。埋土は黒褐色土で直径25cm～30cmの柱痕跡を検出した。柱間は2.94m(10尺)を基準としてほぼ一定である。

S A 6770は調査区東端で確認した南北柵列で5間分(15.0m)を検出した。この柵列は調査区外で確認できなかったが、柱穴が北側へ1間分延びて S A 6760と接続し、S A 2800の北東角からは16間目にあたる。柱穴は溝 S D 6803によって東半が削平され、完全な形では検出できなかったが、確認した柱掘形では一辺約1.0mの方形を呈し、深さは40cm～50cm、柱痕跡は直径約30cmを測る。埋土は黒褐色土と黄褐色土を基本とした2種類がある。柱間は3.0m(10尺)等間を測り、柱列の方向は S A 6760に直交してN 4°Wを示す。

掘立柱建物 S B 6720～6722は調査区南西部で検出した最大規模の南北棟建物で、少なくとも3回の建替えが見られる。梁行は1間分しか確認できなかったが、さらに西側に延びるものと考え、桁行5間×梁行2間を想定する。柱間は2.4m等間で棟方向はN 4°Wを示す。柱掘形は一辺約1.2mの方形で深さは約70cm、柱痕跡は直径約40cmを測り、柱穴としては最大級である。建物の新旧関係は柱穴の切合いより古い方から S B 6722→S B 6721→S B 6720である。



第24図 遺構実測図 (1 : 200)

調査区南辺部で確認した東西棟の S B 6730・6731 は 2 回の建替えが考えられ、桁行 3 間×梁行 2 間の身舎で南に庇が付く。身舎は桁行、梁行の柱間が 2.1m、2.15m、棟方向は E 5° N であるが、それぞれの庇出は 2.7m、2.4m と異なる。柱掘形は一辺約 0.6m の方形で深さ約 50cm、柱痕跡は直径 20cm を測る。S B 6730 の南面庇の柱通りは S B 6720 の南妻柱筋とほぼ同じであり、同時期に併存するものと考えられる。新旧関係は古い方から S B 6730→S B 6731 である。

掘立柱建物 S B 6740 は調査区南東部で桁行 3 間分のみ検出し、さらに南へ延びるものと考えられる。この柱通りは S B 6730 の北桁行筋と合致しており同時期に建ち並ぶものと考えられる。柱間は 1.8m 等間、柱掘形は一辺約 1.2m の方形で深さ約 60cm を測り、柱痕跡も直径約 40cm と大きい。

・配置 B に属するもの (S A 6780・6790、S B 6725・6726・6735・6736)

今回新たに発見した東西柵列 S A 6780 は S A 6760 の南側約 2.0m に並行する。検出した柱列は 15 間分 (44.2m) で柱間は 2.94m (10尺) 等間である。柱掘形は S A 6760 よりもやや大きく、一辺約 1.1m の方形で深さは 50cm～70cm、柱痕跡は直径約 30cm を測る。

S A 6790 は調査区東端で検出した S A 6780 の柱穴を北東角として南折する南北柵列で 5 間分 (14.7m) を確認した。柱穴は S A 6770 の北側を切っており、新旧関係としては S A 6770 よりも新しい。柱間は 2.94m (10尺) 等間で柱穴の規模も S A 6790 とほぼ同規模である。

掘立柱建物 S B 6725・6726 は調査区西辺部で梁行 2 間分のみを検出し、少なくとも 2 回の建替えが見られる。新旧関係は古いほうから S B 6726→S B 6725 である。柱間は 2.4m 等間でさらに西側に広がる 3 間×2 間の東西棟で棟方向は E 4° N と考えられる。この柱穴の掘形は一辺 50cm～60cm の方形、深さは約 50cm で直径約 20cm の柱痕跡が見られる。

S B 6735・6736 は東西棟の桁行 3 間×梁行 2 間で棟方向は E 4° N を示し、新旧関係は古いほうから S B 6736→S B 6735 である。桁行の柱間は 2.4m、梁行の柱間は 2.5m を測る。完全な形で検出された柱掘形では一辺 60cm～80cm の方形で深さは 50cm を測り、柱痕跡も直径 20cm 程である。S B 6735・6736 と S B 6725・6726 はほぼ同規模で約 21.6m の間隔をおいて並び建ち、また北桁行筋の柱通りも通すことから同時期に併存したものと考えられる。

・奈良時代後期の遺構

奈良時代古道の南側溝を切る土塚 S K 6756・6757 や S K 6747・6763 がある。S K 6756 は直径約 1.7m、深さ約 20cm、S K 6757 は深さ約 60cm で 3.0m×2.4m の長円形を呈する。S K 6747 は直径約 2.4m、深さ約 30cm の円形土塚で東辺を S K 6746 に切られる。S K 6763 は 1.6m×1.0m の略長方形で深さ約 30cm を測り、南辺は S B 6735・6736 の北東角の柱穴に切られる。

・平安時代初期の遺構

S A 6805 は S A 6760 と S A 6780 のほぼ中間に位置する東西柵列で、溝 S D 6775～6777 の北辺で接し、14 間分 (41.2m) を確認した。柱間は 2.94m (10尺) 等間であるが、柱穴の直径は約 30

cm、深さは約30cmと小さい。柵列の方向はS A 6760・6780と同様にE 4°Nを示す。

S D 6775～6777は連続的に続く東西溝でS A 6805の北辺で重複し、幅30cm～40cm、深さ15cm～40cmを測るが、溝底を5cm～10cmさらに深く掘り下げた掘削痕が残存する部分も見られる。東端は攪乱土塚のために明瞭でないが、溝の確認延長は約35mに及び、S D 6776とS D 6777では2.6mの間隔をあける。これらの溝と柵列S A 6780、6805の新旧関係では溝の方が古い。

掘立柱建物S B 6745は、調査区北東部で確認した東西棟の桁行9間×梁行2間で南面に庇が付く。棟方向はE 4°Nで桁行、梁行の柱間はそれぞれ2.1m、2.3m、南庇出は2.4mを測る。柱掘形は一辺約60cmで深さは約40cm、柱痕跡は直径約20cmである。この建物はS A 6760、6805、6780の南側でそれぞれ3.6m、2.4m、1.2mと間隔をあけるが、位置関係から少なくともS A 6770に先行するものでS A 6760あるいはS A 6805との関連性が窺われる。

調査区北西部で検出したS B 6723は3間×2間、S B 6724は4間×2間でいずれも東西棟である。柱穴は直径20cm～50cm、深さ35cm～60cmと均一でない。

調査区南東隅の土塚S K 6753は遺構検出時には直径約3mの範囲で拡がっていたが、木炭・炭化物を含む焼土や拳大の石礫及び土師器杯・皿等の完形品が多量に出土した。底面及び土器には被火された痕が見られないことから他の場所で焼かれた後、炭化物や焼土と共に土器を一括して投棄したものと考えられる。その形状は約2.8m×約2.1mの不定円形を呈し、深さは5cm～10cmと浅い。また、北・南端でS D 6795・S B 6740の埋土を切っている。

調査区北西隅のS K 6744はS K 6743の底面で検出した直径約2mの円形土塚であるが、井戸の可能性もあって約20cm掘り下げたのみで完掘できなかった。S K 6759は奈良時代古道の南側溝S D 6802を切る土塚で長径2.7m×短径2.3m、深さ約50cmを測る。埋土からは完形に近い土師器杯・皿が出土する。S K 6815は西半をS D 6785に切られており全体規模は明らかでないが、深さ約30cm、一辺約1.3mの方形土塚と考えられる。埋土からは須恵器長頸壺一個体分出土した。

・平安時代前I期の遺構

調査区北西部のS B 6727は東西棟の3間×2間で柱間隔は桁間2.1m、梁間1.8mを測る。北側柱の一部がS K 6746に切られるため確認した柱穴は、直径約40cm、深さは50cm前後である。

S D 6810の南北溝に切られるS K 6764は7.2m×4.8mの平面楕円形を呈する大型土塚として捉えたが、上面は近世以降の攪乱を受けており複数の土塚が重複したものと考える。S K 6765・6767は調査区南辺付近で検出した小土塚でいずれも遺構上面を攪乱の溝に切られるが、完形に近い土師器杯・皿等が一括して出土した。S K 6765は一辺約1mの隅丸方形で深さ10cm程の浅い土坑である。S K 6767は平面形は1.4m×0.9mの長方形で深さ約30cm、底部に直径40cm～50cm、深さ15cm前後の小穴が2箇所確認された。

調査区東辺部のS D 6785は北端をS K 6778・6979に切られる南北溝で確認長6.5m、幅1.2m、

深さ30cmを測り、溝底からS K 6783・6784が検出された。調査区南東隅で検出したS K 6789・6791～6794は、長径1.5m～2.8mの不定形な円形土坑が重複しており規模全体は明確でないが、平安時代前I期の土師器杯・皿片が出土する。埋土の切合いからS K 6753より新しくS D 6786より古い。S K 6793は長径2.8m×短径2.3mの楕円形で深さ約1mのすり鉢状を呈する。

S D 6804は調査区中央部北端で検出した南北溝で幅約60cm、深さ約30cmを測る。S D 6798に切られるが、S D 6810の南北溝の北延長線上に位置するものである。

・平安時代前II期の遺構

調査区東半部のS D 6810は北東隅を角とする「」形状の区画溝で、溝方向は東西でS A 6780、南北ではS A 6790とそれぞれ並行する。遺構検出時では「」形状を呈したが、東端はS K 6778・6779に切れ不明瞭となる。確認した溝全長は東西約28m、南北約22mで南へさらに延びる。溝幅は1m前後で断面逆台形を呈し、検出面からの深さは東西溝で約30cmである。南北溝は南端で深さ約80cmを測るが、検出面より約30cm下では5cm～8cm厚の黄色粘土で固められ、上・下層で2時期の溝が考えられる。遺物は少量で下層溝底から須恵器甕片が出土した。溝底の絶対高は東西、南北方向のいずれもほぼ平坦であり、排水的機能を有するとは考えがたい。

調査区東辺部ではS D 6786・6787、S K 6788がある。S D 6787は北端でS D 6785に接する幅1.8m前後、深さ10cm程の浅い南北溝で調査区外へ続くものである。下層でS K 6788、S D 6786が重複して検出され、埋土の切合いより新→旧はS D 6787→S K 6788→S D 6786である。S D 6786は溝幅60cm～80cmで奈良時代古道の南側溝S D 6802との交差付近を頂点（標高9.2m）として北及び南へ斜行するが、その比高差は20cm、30cmとなる。この溝は区画溝S D 6810と比べると浅く明瞭でないが、S D 6810の東辺部となる可能性も窺える。

調査区中央部で土坑S K 6758・6768・6771～6773がある。S K 6758は北半でS K 6557と重複し、長径4.5m×短径3.0mの長円形で深さは約30cmを測る。S K 6768は直径約3mの円形土坑で深さ約30cmを測るが、底面からS B 6735・6736の柱穴が検出された。S K 6771～6773は遺構検出時では直径約3mの単独土坑と考えたが、掘り下げた結果3基の土坑で埋土からは土師器杯・皿等の破片が遺物整理箱4箱分出土した。S K 6771は長径1.9m×短径1.5mの長円形で深さは60cm程である。S K 6772は深さ約40cm、長径2.4m以上×短径1.8mの長円形で南端は調査区外に延びる。S K 6773は北半を攪乱土坑に切られるが、一辺約1mの方形土坑と考える。S K 6771～6773はS B 6735・6736の柱穴と重複するが、埋土の切合いからいずれも新しい。

調査区西辺部では南北方向に連続的に延びる溝S D 6748・6749やS K 6746がある。S D 6748は北端をS K 6746に切られるが、幅約1m、深さ約40cmで南端の溝底には不定形な土坑状の浅い掘り込みが見られるなどS D 6749との新旧関係は不明瞭である。S D 6749はS K 6811・6812と重複するやや浅い溝で幅約1.3m、深さ25cm前後を測る。S K 6746は南辺でS K 6747と重複す

るが、直径3m前後の円形で深さ約90cmを測る。S B 6723・6724・6727の柱穴がこの上面では確認されていないことからさらに古いものとする。

調査区北西隅で検出した土坑S K 6743は、当初東西方向に延びる浅い溝と考えたが、西端で平安時代初期の土坑S K 6744を検出するなど、東西約1.8m×南北約1m、深さ30cm前後の土器溜であることが判明し、遺構上面から土師器片を中心に遺物整理箱4箱分が出土した。底面では土師器杯・皿を中心とした土器68個体分が投棄された状態で検出されたが、単に土器を一括して投げ入れたものでなく、ある程度まとまった形で投棄された様子が窺われる。第25図に模式的に表示したその特徴は下記のとおりである。

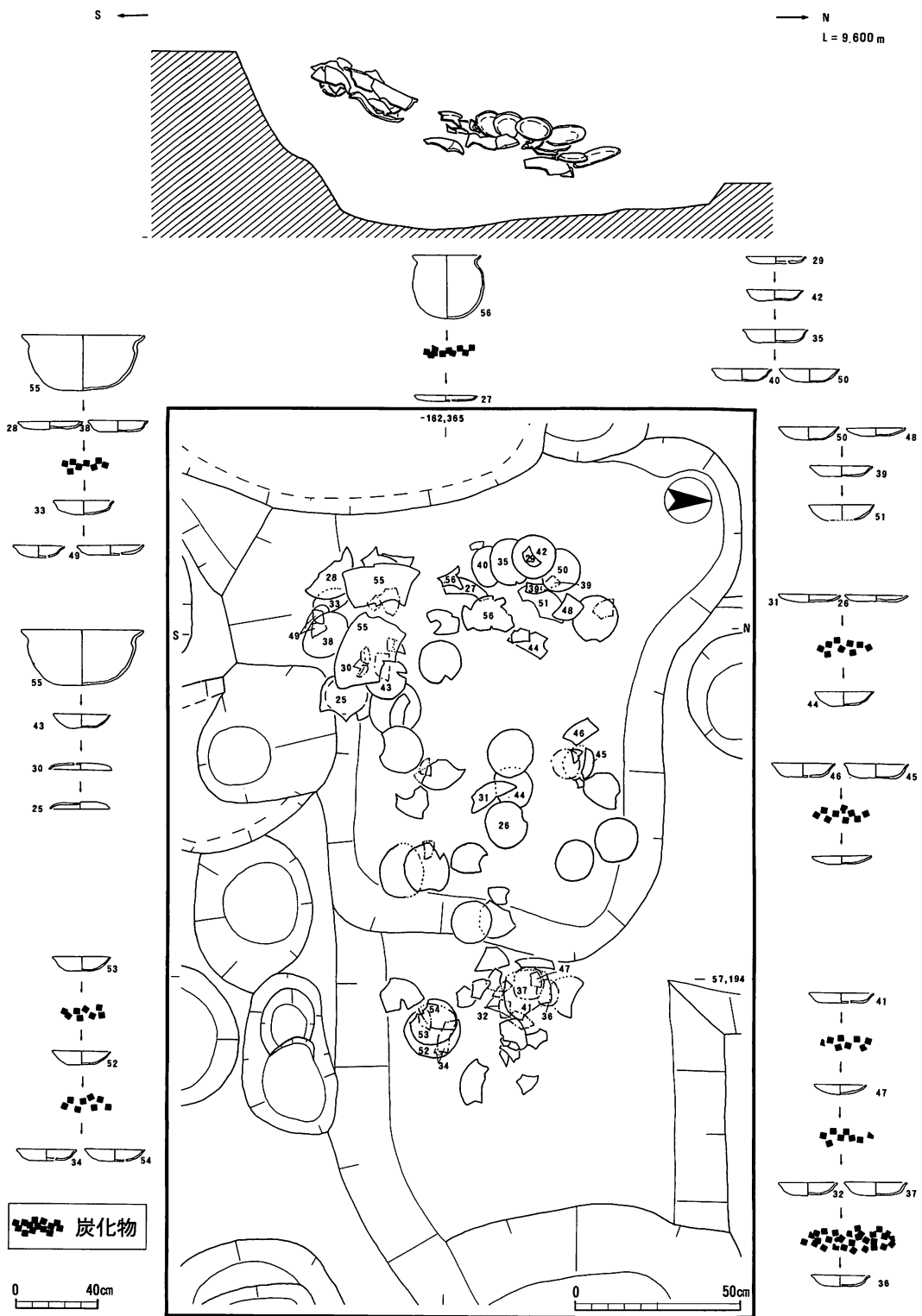
- ① やや器高のある杯タイプのもとの器高の浅い皿タイプのをセットとしてほぼ交互に重ねて投棄した場合と、杯タイプばかりを重ねて投棄した場合が見られる。
- ② 口径の近似した杯・皿ばかりをセットにして重ねているため個々の空間ができるが、その空間に炭及び炭化物が緊密に詰まった状態で検出されたセットも見られる。
- ③ 口縁端部等の細部まで類似した土器でセット関係を構成している。
- ④ 全体的に完形近い土器のままでも土器との重なりをよく残した状況で検出される等所謂廃棄土坑とは異なる様相を持っている。

以上、土器に内包物を残したままの状態検出された土器溜は例がなく、隣接調査地（第44次調査）で検出した土坑S K 2650とも違った祭祀的な様相を呈していると思われる。

（4）平安時代中期の遺構

調査区北西部の掘立柱建物S B 6728は南北棟で桁行4間×梁行1間分を検出し、調査区外の西側へ広がるものとする。柱間は桁行2.0m、梁行2.3mを測り、柱掘形は一辺約50cm、深さ45cm前後、柱痕跡は20cm程である。S B 6729は東西棟で2間×2間の総柱建物とする。柱間は桁行1.8m、梁行1.6mで、柱掘形は一辺約45cm、深さ50cm前後、柱痕跡は約20cmを測る。

調査区南半部ではS B 6732・6733・6734を検出した。S B 6732は東西棟の4間×2間で南面に庇が付く。身舎の柱間は梁行2.1m、桁行2.0mで庇出は2.4mを測る。柱穴は直径約30cmと小さく深さも約30cmと浅い。なお、S B 6730・6731と重複するが、西梁行筋が平安前II期の溝S D 6810を切っていることから当該時期とした。S B 6733・6734は東西棟でそれぞれ4間×3間、3間×2間である。柱間はS B 6733が桁行1.7m、梁行1.8m、S B 6734は1.7m等間である。柱穴はいずれも直径30cm前後を測るが、深さは50cm～60cmとやや深い。S D 6810と東梁行筋が重複しており、時期はさらに下るものとする。調査区中央部のS B 6737～6739はいずれも東西棟の3間×2間でS B 6737・6739は柱間が桁行1.7m、梁行1.5m、S B 6738の柱間は桁行2.0m、梁行2.15m、柱穴の直径は30cm～40cm、深さ25cm前後を測る。また、S B 6738・6739の棟方向はE 9°N、E 1°Nで方格地割の東西方向E 4°Nに対してかなり振っている。



第25図 SK6743実測図（1：20）・土器出土状況模式図（1：16）

調査区南西部のS D6750は遺構検出時には1条の溝として捉えたが、溝底でS K6751・6752と重複することが判明した。北端は調査区東西畦畔と接するため明確でないが、南端は調査区外へさらに延びるものと考えられる。溝幅は1.5m～1.7m、深さは15cm～35cmで断面は浅いU字形を呈する。遺構検出時から上面には土師器片が多量に確認され、埋土からは完形に近い平安時代中期の土師器杯・皿を中心に遺物整理箱で13箱分出土した。溝底で検出したS K6751は全長約4m、幅約1.3mの細長い溝状の土塚で深さは30cm程である。S K6752はS K6751に切られており、形状は明らかにできなかった。

(5) 時期不明の遺構

調査区西辺部のS B6741は東西棟の4間×3間で柱間は桁行1.7m、梁行2.2mである。確認された柱穴の柱掘形は一辺約50cm、深さ50cm強、柱痕跡は直径15cm～20cmを測る。S B6745の東半で重複するS B6742は南北棟で2間×2間の総柱建物で東面に1.4mの庇が付くものである。棟方向はN4°W、身舎の柱間は桁行2.3m、梁行2.0mである。柱穴の切合い関係からS B6745より新しい。これらの掘立柱建物が平安時代のどの時期に属するは不明である。

S D6795はS K6753・6791に切られる確認長2.2mの東西溝だが、幅約80cm、深さ約50cmで断面逆台形を呈する。S B6740の北側2.4mに位置することから区画溝としての可能性も窺える。

調査区北半でS D6810の東西溝を切る土塚としてS K6761・6762・6774・6778・6779、奈良時代古道の北側溝を切るS K6781やS K6782がある。S K6762・6779は長径2.7m～3.8m×短径2.0m～2.8mの楕円形で深さは50cm～80cmを測り、S K6762からは平安時代前I期の須恵器盤がほぼ完形で出土した。S K6781・6782は直径約1.5mの不定形な浅い土塚である。

調査区北辺部の東西溝S D6796～6799や調査区東端の南北溝S D6803があり、いずれも方格地割の方向性をほぼ踏襲するものである。S D6797は幅約2.5mで深さは約30cm、北半の大部分がS D6798に切られる。西端の溝底では幅約50cm、深さ約15cmと浅い溝S D6796を検出した。S D6798の溝幅は上面で約1.5m、溝底では50cm～90cmを測り、断面逆台形を呈する。溝底は標高8.8m前後ではほぼ平坦だが、東端では約30cm下がっている。遺物としては、溝上層で完形の把手鋳付茶釜形注口土器を含む近世の陶器片が出土し、下層からは山茶椀・土師器の破片が少量確認された。S D6799は幅60cm～80cm、深さ20cm～30cmの溝でS D6798の北辺を切っている。S D6803は調査区東辺端で全体は確認できなかったが、溝幅は1m以上、深さ60cm前後で断面逆台形を呈するものとする。調査区外で明らかにできなかったが、東端はやや西へカーブしており、溝の規模・形状からS D6798に連結する区画溝と思われる。また、溝底では土塚状の浅い掘り込みが3箇所見られるが、出土遺物はなかった。

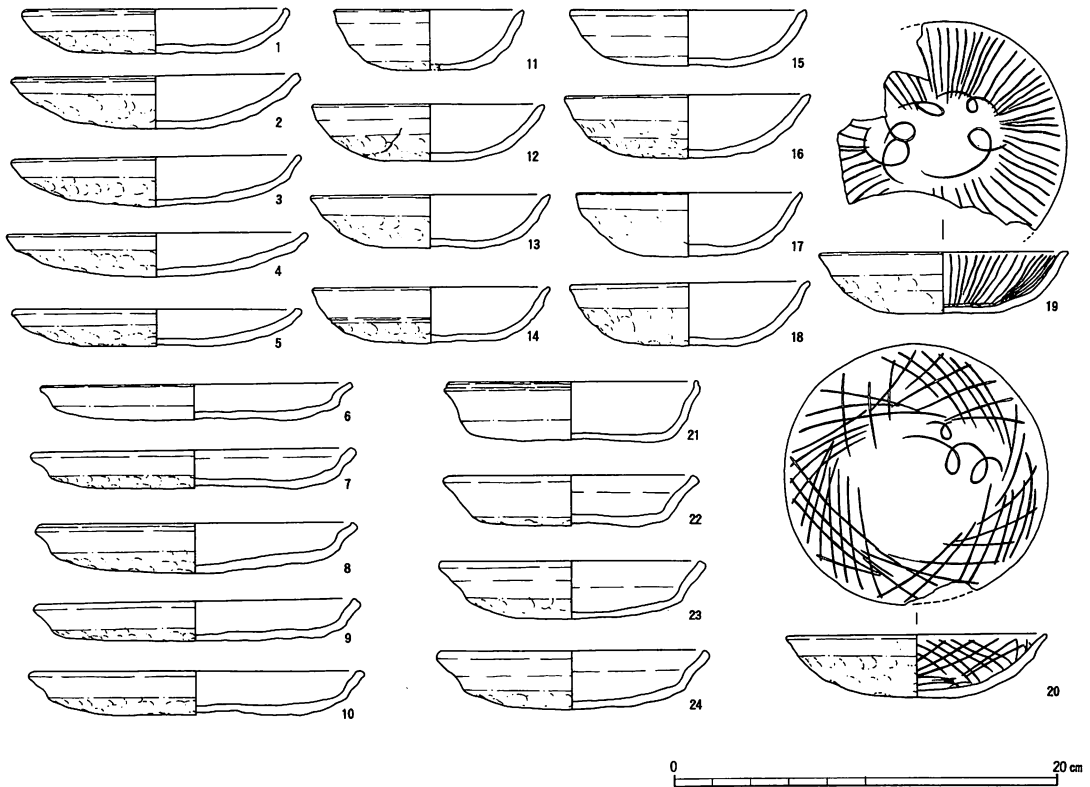
土塚S K6816は完掘できなかったが、深さ1m以上、直径1mの素掘り井戸で近世のものとする。S K6817は約90cm×約50cm、深さ約40cmの方形土坑で近世の陶器瓦片が出土している。

3. 遺物

今回の調査で出土した遺物は整理作業の終了後、台帳登録を経たのちの収蔵段階での整理箱総数で約170箱である。大半は包含層からの出土で、平安時代を中心として近世に至るまでの様々な時期の遺物があるが、ここでは平安時代初期～中期の土坑及び溝から出土の一括資料を中心として概説することとし、加えて特殊な遺物として遺物整理作業の段階でピックアップしている遺物についても若干触れておきたい。

(1) S K 6753出土土器 (1～24)

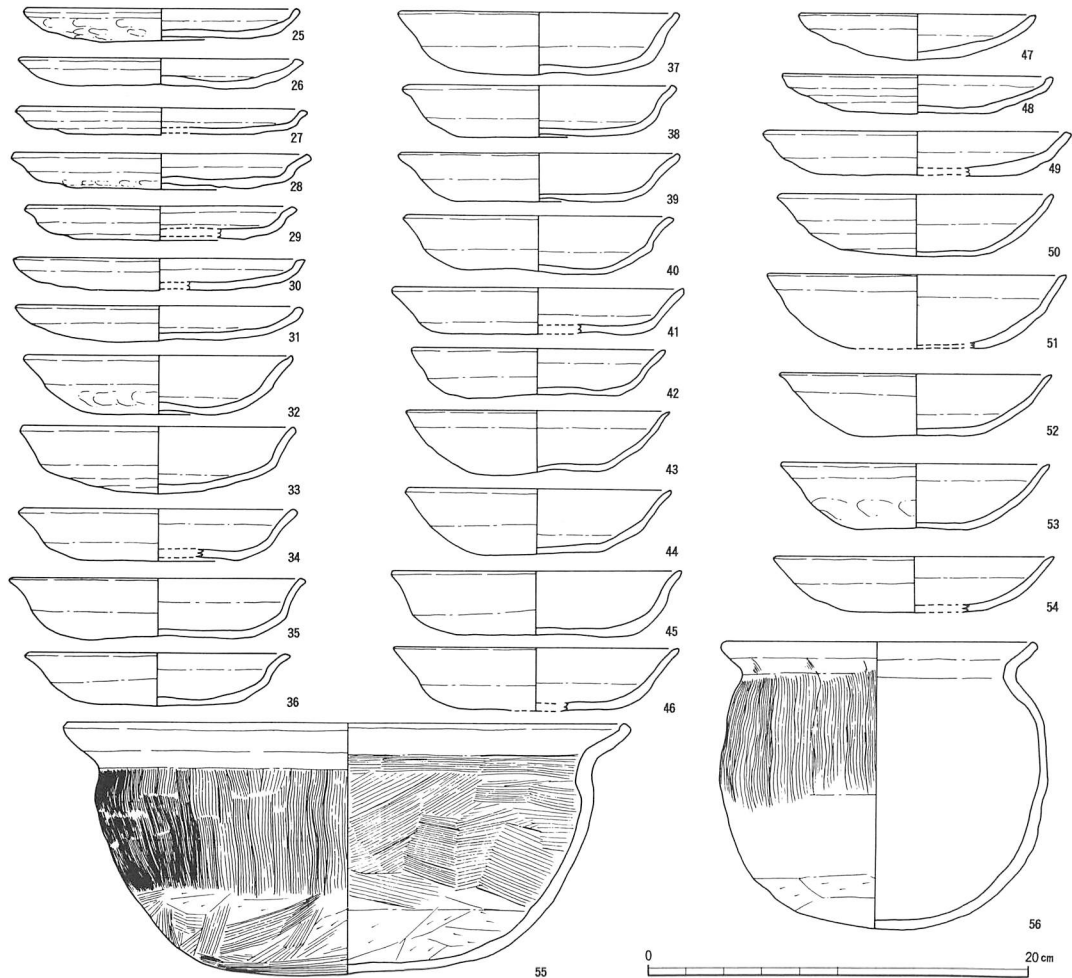
平安時代初期のS K 6753からは土師器杯・皿・甕・壺、須恵器杯・甕、製塩土器等があり、整理箱で8箱分出土している。土師器皿 (1～10) は口径14cm～15cmで口縁部が外方にまっすぐのびるもの (1～5) や口径16cm～17cmで口縁部が外反するもの (6～10) があり、いずれも口縁端部をヨコナデするe手法である。土師器杯 (11～24) には口縁部が外方にまっすぐのびる (11～20) と口縁部が外反気味にたちあがる (21～24) があり、調整はすべてe手法である。(11) は口径9.9cmと小型でやや碗形を呈する。(12～18) は口径12cm前後である。(19・20) は口径13cm前後で内面に放射状暗文及び螺旋状暗文が施される。(21～24) は、口径13cm～14cm、器高3cm前後のもので、(21) は口縁端部がやや内弯する。



第26図 出土遺物実測図 S K 6753 : 1～24

(2) SK6743出土土器 (25~56)

平安時代前Ⅱ期と考える土塚SK6743では、遺構上面で土師器片が多量に出土し、土塚底面からはほぼ完形に近い土師器皿・杯・鉢・甕等が一括して出土した。土師器皿は口径14cm~15cmで、断面弓状になるもの(25・26・30・31・48・49)と口縁端部が外反するもの(27~29)があり、調整はすべてe手法である。土師器杯は底径が小さく口縁部がまっすぐのびるもので口縁端部の形態によって外反するもの(32~43)、まっすぐのびるもの(47・50~54)があり、口径が14cm前後のものとは15cm前後ものがある。器面の調整はいずれもe手法である。土師器鉢(55)は口径29.4cm、器高13.9cmで体部はやや丸みをもつものである。体部外面は細かい縦ハケメで底部もハケメ調整し、内面は体部上半を横方向のハケメ調整して底部はヘラケズリする。土師器甕(56)は、口径16.0cm、器高15.4cmと小型で球形に近いものである。体部外面は細かい縦ハケメ、下半部はヘラケズリを施す。



第27図 出土遺物実測図 SK6743 : 25~56

(3) SK6762出土土器 (57・58)

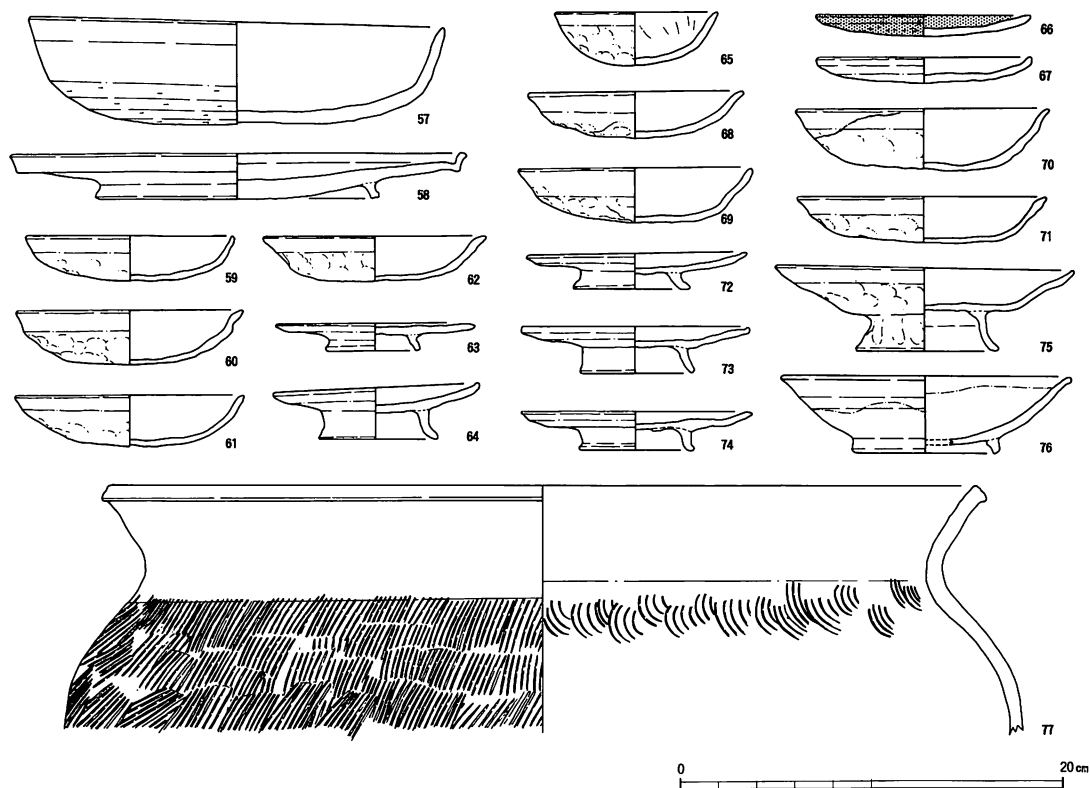
(57) は口径21.9cm、器高5.4cmで底部外面にロクロヘラケズリを施すものである。(58) は、口径24.0cm、器高2.4cmで底部に高台が付く。平安時代初期～前I期とみられる。

(4) SK6752出土土器 (59～65)

平安時代中期のSK6752からは土師器杯・皿・台付皿、灰釉陶器片、緑釉陶器片等が出土している。土師器杯は口縁部がまっすぐのびるもの(59～61)が主体となるが、(62)は口縁端部がやや屈曲し外反するもので調整はすべてe手法である。(65)は口径8.6cm、器高が2.8cmの椀である。台付皿には極めて平坦なもの(63)や高台が付くもの(64)がある。

(5) SD6750出土土器 (66～76)

平安時代中期のSD6750からは土師器杯・皿・台付皿、黒色土器、灰釉陶器・緑釉陶器片等が出土している。黒色土器B類の皿(66)や土師器皿(67)は口径11cm前後で浅い。土師器杯(68～71)は口縁部が外方にほぼまっすぐ開くもので口径は12cm～13cm、器高3cm前後で調整はすべてe手法であるが、口縁部のヨコナデの範囲は器高の3分の1程度と狭い。(72～74)は口径約12cmの土師器台付皿で、(75)は口径15.8cmとやや大型で深い杯部に高台が付くものである。灰釉陶器椀(76)は口径15.2cm、器高4.1cmで灰釉をツケガケするものである。



第28図 出土遺物実測図 SK6762 : 57・58 SK6752 : 59～65 SD6750 : 66～76 SD6810 : 77

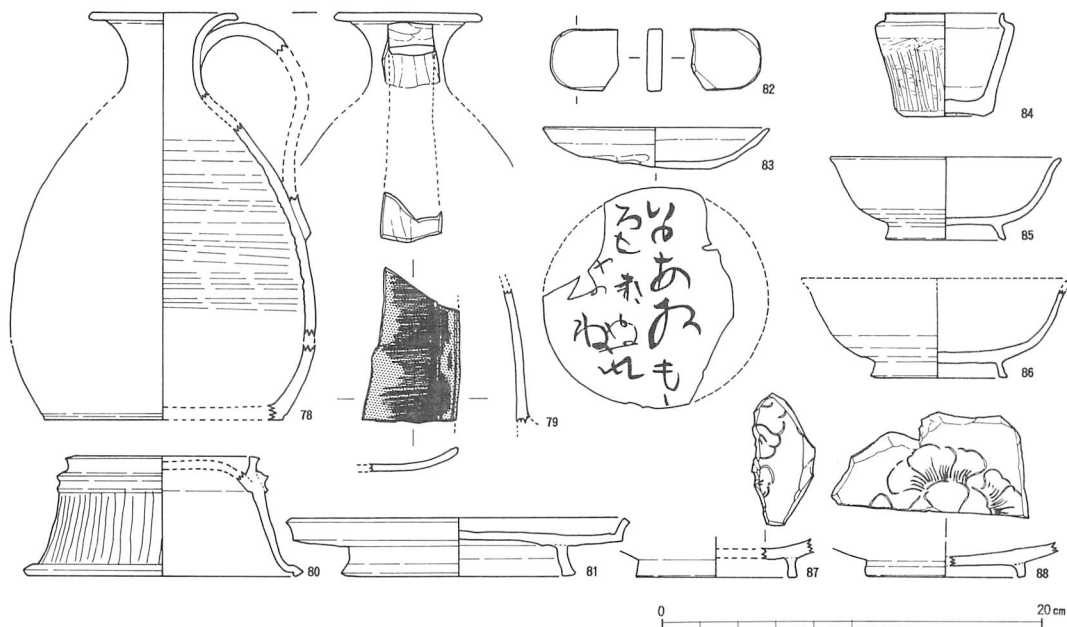
(6) S D6810出土土器 (77)

須恵器甕 (77) は平安時代前Ⅱ期のS D6810から出土したもので、口縁部から体部にかけて約4分の1が残存し、口径は45.2cmである。体部外面は平行タタキ、内面は同心円文タタキ後ナデ調整を施す。

(7) 特殊遺物等 (78~88)

特殊な遺物としては、緑釉陶器74点、円面硯3点、風字硯1点、墨書土器6点、製塩土器6点、青磁片1点、用途不明の銅製金具5点等がある。

緑釉陶器のうち把手付瓶 (78) は、調査区中央付近のピット内を含む周辺の包含層から出土した口縁部、体部、底部の破片13点で同一個体と見られる。口径7.2cm、推定器高21.5cmで猿投産と考えられる。椀 (85・86) は平安時代中期のS D6750、S K6752からの出土で東濃産とみられる。陰刻花文を有する椀 (87・88) はいずれも底部のみで猿投産である。円面硯 (80) は硯面が欠損するが、口径9.2cm、器高6.4cmと小型で脚部外面にヘラ描きによる透しが施される。風字硯 (79) は黒色土器で体部にヘラミガキが施され、脚台の貼付痕跡が見られる。転用硯は4点あるが、(81) は口径17.6cm、器高3.1cmの須恵器台付盤で体部内面を硯面として使用し、墨痕が残る。S D6750から出土した墨書土器 (83) は口径12.0cm、器高2.2cmの土師器杯で底部外面に仮名習書がみられ、判読可能な文字としては「い□あるも□ろ□□□□や□ね」である。S K6753の土師器小型壺 (84) は口径6.2cm、器高5.5cm、体部外面にヘラケズリを施す。石帯 (82) は淡黄色を呈し、幅3.2cmの鈍尾で一部欠損する。



第29図 出土遺物実測図 その他の出土遺物：78~88

4. まとめ

今回の調査では、史跡東部に想定される奈良時代後期から平安時代前半を中心とする方格地割において中枢部とされる方形区画の内側で、2回の建替えに及ぶ大規模な柵列（板塀）や大型の掘立柱建物等が多数検出されるなど、「齋宮内院」を考えるうえでは画期的な成果を得たといえる。また、方格地割の成立以前の奈良時代古道を再確認したことも注目される。

なお、今回の調査結果については、これまでの調査成果もあわせて検討していきたい。

(1) 奈良時代古道

奈良時代古道については、これまで史跡西部から東部までほぼ直線的に伸び、総延長約1km以上に及ぶものとされてきたが、道路の両側溝については、特に南側溝が浅く部分的にしか確認されなかったり、古道の側溝S D0170が南、北いずれの側溝に相当するのかなど、不明瞭な点が多々あった。今回検出した道路S F6800では南、北の側溝が明瞭であり、これまでの調査成果を踏まえて再度検討することとなった。その結果は、第5表及び第23図のとおりである。

S F6800の道路幅は両側溝の心々間で約9.0mを測り、溝方向はE15°Sであるが、第28次・第83次・第92次・第88次調査では、道路の北側溝S D6801の延長上にはS D1327・5855・2404が、また、南側溝S D6802の延長上にはS D1395・5857・6252が位置することがわかった。しかし、第12-2次・第78次・第47次調査で南側溝はほぼS D6802の延長上にあたるが、北側溝までの道路幅がやや狭まり約8.0mとなる。さらに第8-11次・第8-7次・第49次調査では道路幅が約6.0mとかなり狭くなっている。道路幅が第49次調査区と第12-2次・第78次調査区の間で大きく変わっているが、その間は現時点で想定する東西7列、南北4列の方格地割において、北西角の4つの方形区画のほぼ中央に相当し、この区画が存在するならば推定区画道路の交差付近にあたることから古道の存続期間と方格地割の変則的な様相を考えるうえで、問題を提起したといえよう。

調査次数	北側溝	南側溝	道路幅	備考
第8-11次	番号なし	S D0170	6.0m	
第8-7次	S D0220	S D0170	6.0m	
第49次	S D2987	S D0170	6.0m	
第12-2次	番号なし	S D0170	8.0m	
第78次	S D5256・5255	S D5266	8.0m	
第47次	S D2858	S D2862 (S D0170)	8.0m	()可能性有り
第28次	S D1327	S D1395	9.0m	
第83次	S D5855	S D5857	9.0m	
第98次	S D6801	S D6802	9.0m	道路S F6800とする
第92次	S D2404	————	——	南側溝は調査区外
第88次	S D2404	S D6252	9.0m	

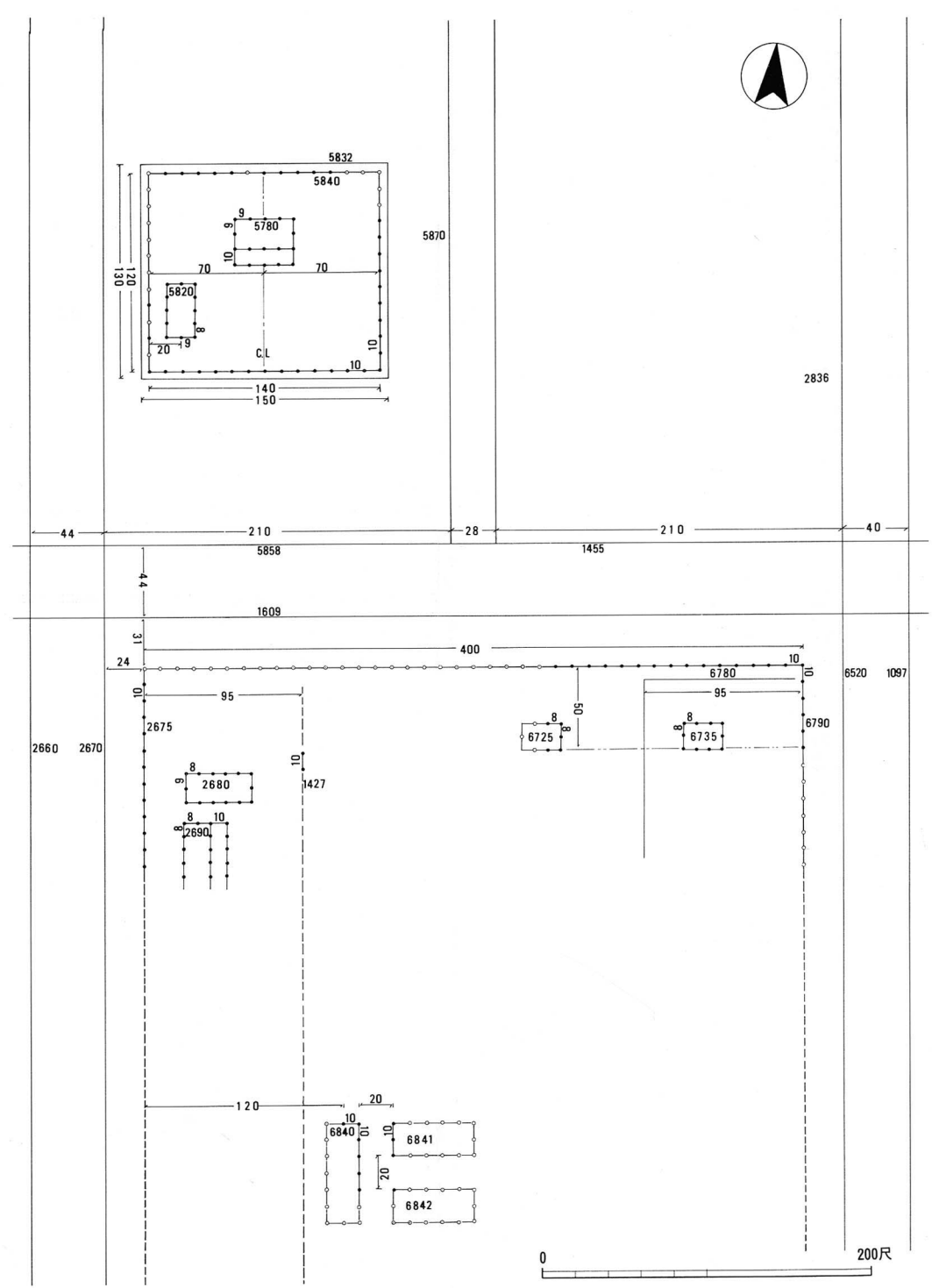
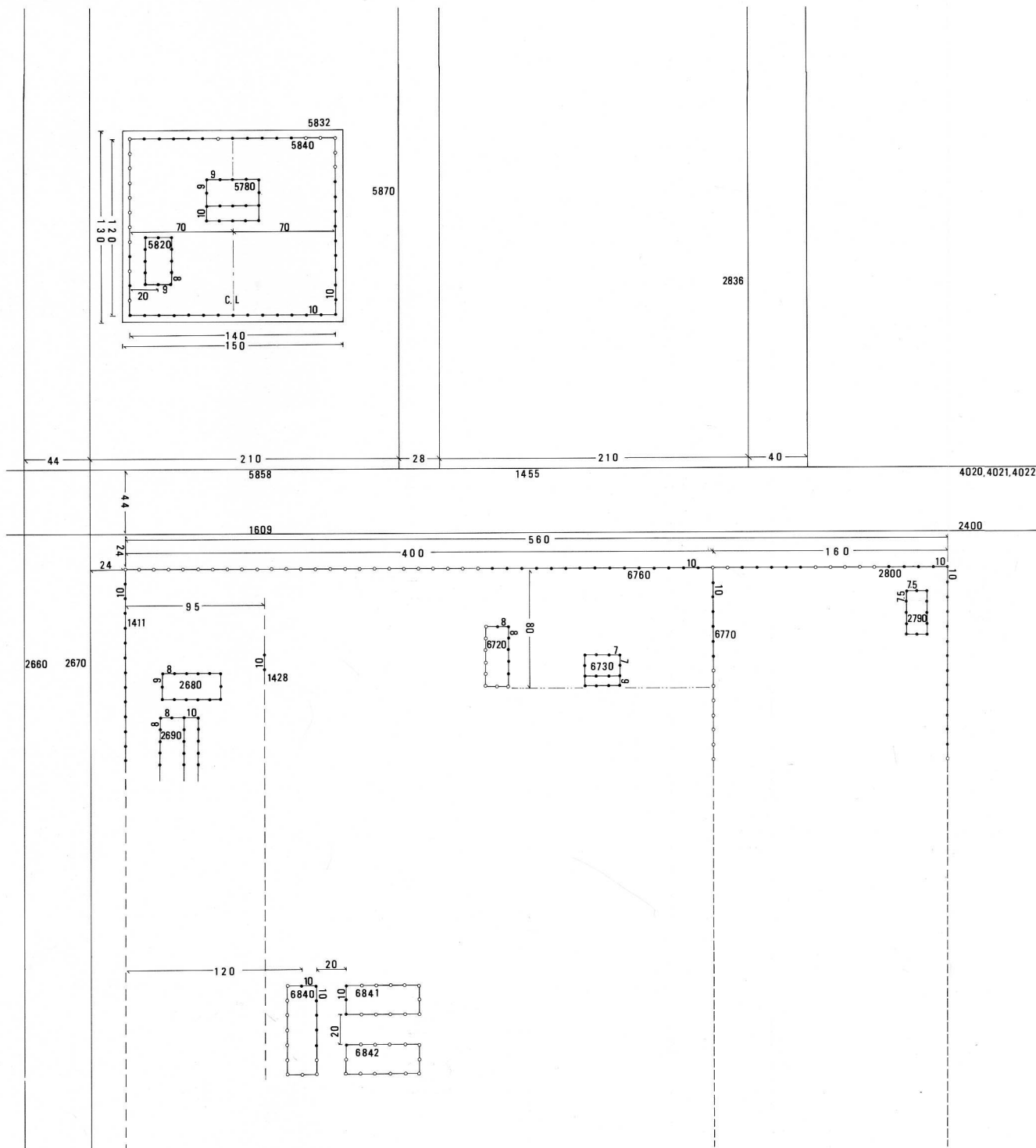
第5表 奈良時代古道検出調査区一覧表

(2) 柵列と掘立柱建物 (配置Aと配置Bについては、第30図参照)

今回の調査で検出した柵列 S A 6760・6770と S A 6780・6790によって、これまで方格地割の中枢部とされた鍛冶山地区で東西辺約130mとする方形区画の変則的な様相が明らかとなった。東西柵列 S A 6760は第88次調査の S A 2800の北東角から西側延長線上に位置し、第44次調査で検出した南北柵列 S A 1411の北端からさらに1間分北の柱穴(未検出)を北西角とすることが判明した。この柵列の総延長は56間分(約165m)に及ぶが、S A 2800の東端から S A 6760が南折する南北柵列 S A 6770までは16間分(約47.5m)で柱間は2.97m(10尺)、S A 6770から S A 1411までは40間分(約117.6m)、柱間は2.94m(10尺)を測る。また、南北柵列 S A 2800・6770・1411は、それぞれ12間、6間、13間以上南側へ延長するが、柱間は S A 2800・6770が3.00m(10尺)であるのに対し、S A 1411では2.95m(10尺)となる。次に、今回新たに確認した東西柵列 S A 6780は S A 6760の建替えと考えられるが、北東角から第44次調査で検出した S A 2675の北西角までは40間分(約117.6m)で柱間は2.94m(10尺)を測る。南北柵列となる S A 6790・2675は、S A 6770・1411と重複しており、それぞれ5間、12間以上南側へ延びるもので柱間はいずれも2.95m(10尺)である。ここで問題となるのは、南北柵列 S A 6770・6790とこれらの東側約7mに並行する南北方向の区画道路である。この道路は第92次調査で西側溝とみる S D 6520が、また第21-1次調査で東側溝 S D 1097が部分的に検出されているが、S D 6520が S A 2800の柱穴を切ること以外時期も明瞭でない。したがって、東西辺約130mとするこの方形区画の内側に2時期の柵列が存在するが、S A 6760を北辺の柵列とする時期には S A 2800によってさらに東側へ張り出す形状を呈するものと考え、配置Aを想定する。しかし、各辺を構成する柵列の柱間においては、構成尺の単位が29.4cm/尺～30.0cm/尺と様々であり、配置Aとした柵列の形状や造営時期を細分することも可能であろう。配置Bにおいては、東辺に相当する南北方向の区画道路が存在し、東西辺約130mの方形区画が構成されるものである。この区画の内側を取り囲む柵列は、西辺が S A 2675、北辺が S A 6780、東辺が S A 6790にあたる。なお、A配置に属する S A 6760・6770の柱穴埋土からの出土遺物としては、わずかな土師器細片だけで時期は不明瞭であるが、B配置に属する S A 6780・6790からは、微量ながら奈良時代後期～平安時代初期の土師器小片が比較的多く認められる。

次に、掘立柱建物については、柱穴からの出土遺物は細片かつ微量であるため、明確な時期区分が困難な状況であったが、棟方向がほぼ柵列の柱筋と同じで、建物配置に規格性をもち、新旧関係が明らかなるものを対象に柵列と対応させ、配置A、Bとしたものである。

配置Aに属する建物では、S B 6720～6722の南妻柱筋が S B 6730・6731の南面庇の柱通りの延長線上に位置する。また、S B 6720～6722の柱穴からは、極少量ながら平安時代初期～前II期の、S B 6730・6731では、平安時代前I期～前II期に及ぶ土師器小片が混在する。



第30図 周辺遺構配置図 (1 : 1,200)

(単位：尺 4桁数字は遺構番号)

配置Bに属する建物では、S B 6725・6726が柱穴の切合いからS B 6720～6722よりも新しく、しかもS B 6735・6736とは同規模で、約21.6mの間隔をおいて並び建つ。S B 6725・6726は平安時代前半の、S B 6735・6736では平安時代前Ⅰ期～前Ⅱ期の土師器小片がわずかながら認められる。したがって柵列の新旧とは直接的な関係を持っておらず、今後の調査の進展によっては配置の細分化も充分ありうるだろう。

さて、これまで配置A、Bの概略を述べたが、やはり問題となるのはその造営時期である。配置Aについては、この初現は史跡西部から東部南東へ直線的に延びる奈良時代古道が史跡東部に方格地割が造営されたため寸断される時期であり、奈良時代後期に遡るものと考えが、存続期間としては平安時代初期までと考えたい。すなわち現在の斎宮の土器編年観では770年頃～815年頃をその目安として想定する。次に、配置Bについては、平安時代初期～前Ⅱ期とやや幅のある期間を考える。大規模な柵列を新たに建替える時期をいつとみるかは現時点では明確にできないが、平安時代前Ⅰ期が造営の中心的時期となるであろう。また、廃絶期については、平安時代中期と考える掘立柱建物が前代のものと比較すると小型でしかも建物配置にも規格性が薄れることから、平安時代前Ⅱ期までとした。

(3) 溝・土壇

調査区東半部に位置する「形状」の区画溝S D 6810は、時期区分としては平安時代前Ⅱ期としたが、その掘削は重複する土壇や出土遺物から検討すると、少なくとも平安時代前Ⅰ期まで遡るものと考えられ、該当する時期から配置Bに属するものと考え。S D 6810の南北方向の溝は配置Bにおける方形区画内の東辺にあたる南北柵列S A 6790と並行し、その間は約28m (95尺)を測る。ここで問題となるのは、この区画内の西辺に相当する南北柵列S A 2670から東へ約28mに並行するS B 1427 (第29次調査)とした1間分の柱列である。この柱列を南北方向へ延びる柵列とみるならば、この区画内で左右対称の位置関係を呈するものであり、その存在が特に注目され、今後この地区の調査が望まれる。

土壇についていえば、S K 6753からは、別の場所で焼いたとみられる炭及び炭化物を含む焼土と共に平安時代初期の土師器杯・皿が出土し、平安時代前Ⅱ期のS K 6743からは炭・炭化物が土器の間に詰まったままでしかも廃棄にセット関係がみられる状態で検出された。炭・炭化物については分析結果を待たねばならないが、土壇の廃棄状態から祭祀形態を考えるうえでは重要な資料となったといえよう。

以上、主要遺構を中心に概述したが、今回の調査では大規模な柵列と大型の掘立柱建物の発見により、方格地割の中核部とされる方形区画北半部の様相や造営時期がかなり明確となったといえる。今後は細部にわたる問題点について検証するため、この区画南半部での発掘調査が展開されることがいっそう期待される。

(野原宏司)

掘立柱建物・柵列一覧表

遺構番号	規模	棟方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法 (m)		時期	備考
					桁行	梁行		

第95次調査 (6ADN)

SB6660	2×2	N4°W	3.6	3.6	1.8	1.8	平安初期	南庇出1.8m
SA6646	5	E2°S	10.5		2.1		平安前I	
SB6649	4×2	N1°E	11.2	4.6	2.8	2.3	〃	
SB6663	5×2	E2°S	9.5	4.0	1.9	2.0	〃	
SB6670	4×(1)	E2°S	8.8	(2.2)	2.2	2.2	平安前II	
SB6679	(1)×(1)	N1°W	(2.3)	(2.3)	2.3	2.3	〃	総柱建物
SB6642	3×2	E2°S	6.6	4.4	2.2	2.2	平安後II	
SB6650	2×2	E2°N	4.6	3.6	2.3	1.8	〃	
SB6637	5×(2)	N4°E	11.5	(5.0)	2.3	2.5	平安末	総柱建物
SB6643	3×2	E7°N	6.9	4.0	2.3	2.0	〃	北庇出2.1m
SB6648	5×2	N2°E	8.5	3.6	1.7	1.8	〃	
SA6674	5	N1°W	10.5		2.1		〃	
SB6675	4×(1)	N0°S	8.0	(2.1)	2.0	2.1	〃	SB6678より古い
SB6676	(2)×2	E1°N	(3.4)	4.2	1.7	2.1	〃	
SB6677	3×(2)	N2°W	6.0	(4.2)	2.0	2.1	〃	
SB6678	(1)×2	E1°S	(2.0)	4.2	2.0	2.1	〃	

第97次調査 (6ABG・6ABI-A・B)

SB6713	(3)×(1)	E33°S	(7.5)	(3.0)	2.5	3.0	奈良前	
SB6709	3×(1)	N19°E	5.4	(1.6)	1.8	1.6	奈良中	
SB6708	(1)×3	E2°S	(2.0)	4.5	2.0	1.5	〃	総柱建物
SB6688	(2)×3	E39°S	(4.4)	4.8	2.2	1.6	室町後	総柱建物
SB6701	-×2	N10°E	-	3.6	-	1.8	不明	

第98次調査 (6AFM-C・E)

SB6720	5×(1)	N4°W	12.0	(2.4)	2.4	2.4	奈良後 ～平安初	
SB6721	5×(1)	N4°W	12.0	(2.4)	2.4	2.4	〃	SB6720より古い
SB6722	5×(1)	N4°W	12.0	(2.4)	2.4	2.4	〃	SB6721より古い
SB6730	3×2	E5°N	6.3	4.3	2.1	2.15	〃	南庇出2.7m
SB6731	3×2	E5°N	6.3	4.3	2.1	2.15	〃	南庇出2.4m SB6730より新しい
SB6740	3×-	E4°N	5.4	-	1.8	-	〃	
SA6760	(14)	E4°N	(41.2)		2.94		〃	14間分検出
SA6770	(5)	N4°W	(15.0)		3.00		〃	5間分検出
SB6723	3×2	E4°N	7.2	3.0	2.4	1.5	平安初	
SB6724	4×2	E3°N	7.6	3.3	1.9	1.6	〃	
SB6745	9×2	E4°N	18.45	4.6	2.05	2.3	〃	南庇出2.4m SB6742より古い
SA6805	(14)	E5°N	(41.2)		2.94		〃	14間分検出
SB6725	-×2	E4°N	-	4.8	-	2.4	平安初～ 平安前II	SB6720より新しい
SB6726	-×2	E4°N	-	4.8	-	2.4	〃	SB6725より古い
SB6735	3×2	E4°N	7.2	5.0	2.4	2.5	〃	
SB6736	3×2	E4°N	7.2	5.0	2.4	2.5	〃	SB6735より古い
SA6780	(15)	E4°N	(44.2)		2.94		〃	15間分検出
SA6790	(5)	N4°W	(14.7)		2.94		〃	5間分検出 SA6770より新しい
SB6727	3×2	E3°N	6.3	3.6	2.1	1.8	平安前I	

遺構番号	規模	棟方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法 (m)		時期	備考
					桁行	梁行		
SB6728	4×(1)	N4°W	8.0	(2.3)	2.0	2.3	平安中	総柱建物 南庇出2.4m SB6731より新しい
SB6729	2×2	E4°N	3.6	3.2	1.8	1.6	〃	
SB6732	4×2	E5°N	8.4	4.0	2.1	2.0	〃	
SB6733	4×2	E6°N	6.8	3.6	1.7	1.8	〃	
SB6734	3×2	E7°N	5.1	3.4	1.7	1.7	〃	
SB6737	3×2	E6°N	5.1	3.0	1.7	1.5	〃	
SB6738	3×2	E9°N	6.0	4.3	2.0	2.15	〃	
SB6739	3×2	E1°N	5.1	3.0	1.7	1.5	〃	
SB6741	4×3	E5°N	6.8	6.6	1.7	2.2	時期不明	東庇出1.4m 総柱建物
SB6742	2×2	N4°W	4.6	4.0	2.3	2.0	〃	

竪穴住居一覧表

遺構番号	規模 (m)	長軸方向	深さ (cm)	柱 穴	カマド	時期	備考
第95次調査 (6ADN)							
SB6640	3.1×-	N6°E	20	-	-	奈良後期	
第97次調査 (6ABG・6ABI-A・B)							
SB6706	-×-	N22°E	20	-	-	飛 鳥	
SB6686	6.6×-	N17°W	15	-	-	奈良前期	
SB6690	-×-	N14°E	10	○	東 壁	〃	
SB6693	2.6×(2.5)	N14°W	20	-	北 壁	〃	
SB6694	3.0×3.0	N33°W	25	○	北 壁	〃	
SB6714	(3.2)×-	N33°E	28	-	-	奈良中期	

遺物（土器）観察表

第95次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色	陶	残存度	備考	登録番号
1	S X 6666	土師器杯	(口径) 11.6cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質を含むが密	良好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/4	約90%		R63
2	S X 6666	土師器杯	(口径) 12.4cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/4	ほぼ完全	強くヨコナデ成形した際の砂がみがある	R52
3	S X 6666	土師器杯	(口径) 12.5cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質を含むが密	良好	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/3	ほぼ完全	粘土接合痕残る	R55
4	S X 6666	土師器杯	(口径) 13.2cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/3	約70%		R53
5	S X 6666	土師器杯	(口径) 12.3cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質を含むが密	良好	内：淡黄 外： にぶい黄	2.5Y 8/3 2.5Y 6/4	約90%	焼成前にできた大きな砂がみがある	R62
6	S X 6666	土師器杯	(口径) 12.8cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質を含むが密	良好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/4	完全	粘土接合痕残る	R54
7	S X 6666	土師器杯	(口径) 12.4cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質を含むが密	良好	内：にぶい黄 外： "	7.5YR 7/4	ほぼ完全		R58
8	S X 6666	土師器杯	(口径) 12.5cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質を含むが密	良好	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/3	ほぼ完全	口縁部と底部の境がヨコナデの際強く砂がむ	R57
9	S X 6666	土師器杯	(口径) 12.4cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質を含むが密	良好	内：淡黄 外： "	2.5Y 7/3	ほぼ完全		R61
10	S X 6666	土師器杯	(口径) 13.0cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質を含むが密	良好	内：淡黄 外： "	2.5Y 7/3	ほぼ完全		R56
11	S X 6666	土師器杯	(口径) 14.0cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄 外： "	2.5Y 6/3	約80%		R64
12	S X 6666	土師器杯	(口径) 13.2cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質を含むが密	堅緻	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/3	約90%	蓋の蓋として使用	R59
13	S X 6666	土師器壺	(口径) 13.8cm (器高) 11.8cm (底径) 10.2cm	外面粗いハケ、ナデ・オサエ、内面ナデ・ケズリ、刷下半部に棒状工具の沈線	緻密	良好	内：オリーブ風色 外： 白色の付着物あり	5Y 3/1	完全		R60
18	S D 0244	土師器小皿	(口径) 9.5cm (器高) 2.0cm	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	1mm前後の砂粒を多量に含む	軟質	内：にぶい黄褐色 外： 黄	10YR 7/4 2.5YR 6/6	ほぼ完全		R15
19	S D 0244	土師器小皿	(口径) 9.0cm (器高) 2.1cm	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	1mm前後の砂粒を多量に含む	軟質	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/3	約50%	粘土接合痕残る	R17
20	S D 0244	土師器小皿	(口径) 9.3cm (器高) 2.1cm	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	1mm前後の砂粒を多量に含む	軟質	内：淡黄 外： 淡黄褐色	2.5Y 8/3	完全		R16
21	S D 0244	土師器小皿	(口径) 8.5cm (器高) 1.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含むが密	良好	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/3	口径の1/4		R20
22	S D 0244	土師器小皿	(口径) 9.6cm (器高) 1.1cm	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	微細な砂粒を多量に含む	ややあまい	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4	口径の1/4		R24
23	S D 0244	ロクロ土師器杯	(口径) 9.3cm (器高) 2.5cm	内外面ロクロナデ、底部に回転糸切り痕	微細な砂粒を多量に含む	軟質	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/3	完全	砂がみが大きく、器表面の磨耗が著しい	R18
24	S D 0244	ロクロ土師器杯	(口径) 9.2cm (器高) 2.3cm	内外面ロクロナデ、底部に回転糸切り痕	微細な砂粒を多量に含むが密	堅緻	内：灰白 外： "	2.5Y 8/2	ほぼ完全		R10
25	S D 0244	ロクロ土師器杯	(口径) 9.8cm (器高) 2.3cm	内外面ロクロナデ、底部に回転糸切り痕	微細な砂粒を含み比較的均質で密	良好	内：黄 外： "	7.5YR 7/6	約70%		R9
26	S D 0244	ロクロ土師器杯	(口径) 9.5cm (器高) 2.7cm	内外面ロクロナデ、底部に回転糸切り痕	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/3	約70%		R8
27	S D 0244	ロクロ土師器杯	(口径) 9.2cm (器高) 2.0cm	内外面ロクロナデ、底部に回転糸切り痕	微細な砂粒を多量に含むが密	良好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/3	約65%		R12
28	S D 0244	ロクロ土師器杯	(口径) 9.5cm (器高) 1.8cm	内外面ロクロナデ、底部に回転糸切り痕	微細な砂粒を多量に含む	やや軟質	内：淡黄 外： "	2.5Y 3/8	ほぼ完全		R19
29	S D 0244	ロクロ土師器杯	(口径) 9.2cm (器高) 2.3cm	内外面ロクロナデ、底部に回転糸切り痕	微細な砂粒を含むが密	堅緻	内：灰白 外： "	5Y 7/2	約65%		R13
30	S D 0244	ロクロ土師器杯	(口径) 9.5cm (器高) 1.9cm	内外面ロクロナデ、底部に回転糸切り痕	微細な砂粒を含むが密	良好	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/2	約80%		R11
31	S D 0244	ロクロ土師器杯	(口径) 9.2cm (器高) 1.6cm	内外面ロクロナデ、底部に回転糸切り痕	微細な砂粒を多量に含むが密	良好	内：灰 外： "	5Y 6/1	口径の1/4		R32
32	S D 0244	ロクロ土師器杯	(口径) 9.1cm (器高) 2.0cm	内外面ロクロナデ、底部に回転糸切り痕	微細な砂粒を含むが密	良好	内：淡黄褐色 外： "	7.5YR 8/4	約95%		R14
33	S D 0244	土師器台付杯	(台径) 9.6cm (残高) 2.8cm	高台貼付後ヨコナデ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	やや軟質	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/4	約40%		R25
34	S D 0244	陶器碗	(口径) 10.6cm (器高) 4.6cm	内外面ロクロナデ、口縁部ヨコナデ、貼付高台	密	良好	内：灰白 外： 灰オリーブ	5Y 7/1 5Y 6/2	約40%	口縁部に2本1単位の輪花の表現	R29
35	S D 0244	土師器皿	(口径) 13.4cm (器高) 3.4cm	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ、底部に円形に指頭圧痕	微細な砂粒を多量に含む	ややあまい	内：灰白 外： "	2.5Y 8/2	ほぼ完全	器表面の磨耗が著しい、螺旋状に粘土接合痕	R7
36	S D 0244	土師器皿	(口径) 14.2cm (器高) 3.6cm	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ、底部に円形に指頭圧痕	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4	約90%		R6
37	S D 0244	土師器杯	(口径) 14.4cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂粒を多量に含む	軟固	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/3	約95%	粘土接合痕残る	R27
38	S D 0244	土師器杯	(口径) 15.4cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂粒を含みやや粗	ややあまい	内：灰白 外： "	2.5Y 8/2	約30%		R28
39	S D 0244	土師器杯	(口径) 14.1cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	径1～3mmの小石・砂粒を含む	良好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/3	約80%		R5

No.	出土遺構	器 種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残存度	備 考	登録番号	
40	S D 0244	ロクロ土 師器 杯	(口径) 14.3cm (器高) 3.3cm	内外面ロクロナデ、底部に 回転糸切り痕	微細な砂粒を多量に 含む	良 好	内：淡 黄 外： "	2.5Y 8/3 "	完 存	口縁部に断続的に黒色物 (油煙) が付着	R 3
41	S D 0244	ロクロ土 師器 杯	(口径) 14.4cm (器高) 3.9cm	内外面ロクロナデ、底部に 回転糸切り痕	径1mm以下の砂 粒を多量に含む	良 好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/3 "	約65%		R 1
42	S D 0244	ロクロ土 師器 杯	(口径) 14.4cm (器高) 4.0cm	内外面ロクロナデ、底部に 回転糸切り痕	径1mm以下の砂 粒を多量に含む	良 好	内：灰 黄 外： "	2.5Y 7/2 "	約70%		R 2
43	S D 0244	ロクロ土 師器 杯	(口径) 14.3cm (器高) 4.2cm	内外面ロクロナデ、底部に 回転糸切り痕	微細な砂粒を多量に 含む	良 好	内：淡 黄 外： "	2.5Y 8/3 "	約80%		R 4
44	S D 0244	土師器 台付杯	(口径) 15.2cm (台径) 7.2cm (器高) 4.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：淡 黄 外：淡 黄	2.5Y 8/3 2.5Y 7/3	約70%		R26
45	S K 6658	灰釉陶器 碗	(口径) 15.5cm (器高) 5.2cm	内外面ロクロナデ、口縁部 ヨコナデ、貼付け高台	緻密	堅 緻	内：灰 白 外： "	5Y 7/1 "	約65%	内面に皿焼き痕残る	R132
46	S K 6658	土師器 甕	(口径) 19.4cm (器高) 8.0cm	口縁部ヨコナデ、内外面ナ デ	微細な砂粒を多量に 含むみやや粗	ややあまい	内：にぶい褐色 外：淡黄褐色	7.5YR 6/4 10YR 8/4	口径の1/4	外面に一部炭化物付着、 内外面剝離が著しい	R140
47	S K 6658	土師器 小皿	(口径) 9.1cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含むみやや粗	良 好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 6/4 "	完 存		R134
48	S K 6658	土師器 小皿	(口径) 8.8cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含む	ややあまい	内：淡 黄 外： "	2.5Y 8/3 "	ほぼ完存	粘土接合痕残る	R143
49	S K 6658	土師器 小皿	(口径) 9.5cm (器高) 2.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含むみやや粗	ややあまい	内：明黄褐色 外： "	10YR 7/6 "	約70%	底部外面に棒状工具の大き なキズがある	R142
50	S K 6658	土師器 小皿	(口径) 9.4cm (器高) 2.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含むみやや粗	ややあまい	内：にぶい褐色 外： "	7.5YR 7/4 "	完 存		R135
51	S K 6658	土師器 小皿	(口径) 9.4cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含むみやや粗	ややあまい	内：淡 黄 外： "	2.5Y 8/3 "	ほぼ完存		R144
52	S K 6658	土師器 小皿	(口径) 10.0cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含む	良 好	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/3 "	ほぼ完存	内面に黒色物 (油煙) が 付着	R136
53	S K 6658	土師器 皿	(口径) 13.5cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含むみやや粗	ややあまい	内：褐色 外： "	5YR 6/6 "	約90%	器表面の磨耗が著しい	R127
54	S K 6658	土師器 皿	(口径) 13.4cm (器高) 4.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	微細な砂粒を多量に 含むみやや粗	ややあまい	内：灰 白 外： "	5Y 8/1 "	細片だが接 合で完存	器表面の磨耗が著しい	R126
55	S K 6658	土師器 皿	(口径) 14.2cm (器高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含むみやや粗	ややあまい	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/3 "	ほぼ完存	粘土接合痕が残り、器表 面の磨耗が著しい	R128
56	S K 6658	土師器 皿	(口径) 14.9cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	微細な砂粒を多量に 含む	ややあまい	内：淡 黄 外：黄 灰	2.5Y 8/3 2.5Y 5/1	約40%	内面に黒色物 (油煙) が 付着	R133
57	S K 6658	土師器 皿	(口径) 14.2cm (器高) 4.0cm	口縁部幅広いヨコナデ、体 部ナデ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含む	ややあまい	内：灰 白 外： "	2.5Y 8/2 "	約90%		R131
58	S K 6658	土師器 皿	(口径) 13.8cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	砂粒や径5mmの 小石を含む	ややあまい	内：褐色 外： "	5YR 6/6 "	約80%		R141
59	S K 6658	土師器 皿	(口径) 14.8cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含む	ややあまい	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4 "	約70%	器表面の磨耗が著しい	R129
60	S K 6658	土師器 皿	(口径) 14.8cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含む	ややあまい	内：淡 黄 外： "	2.5Y 8/3 "	約40%		R130
61	S K 6662	ロクロ土 師器小杯	(口径) 8.1cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ 底部に回転糸切り痕残る	微細な砂粒を多量に 含む	ややあまい	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4 "	約70%		R166
62	S K 6662	土師器 皿	(口径) 14.8cm (器高) 3.3cm	全面ナデ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含むみやや粗	ややあまい	内：淡 黄 外： "	2.5Y 8/4 "	約80%	破断面黒色	R164
63	S K 6662	土師器 皿	(口径) 15.4cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含む	ややあまい	内：淡黄褐色 外： "	7.5YR 8/4 "	約60%		R165
64	S K 6662	土師器 皿	(口径) 14.8cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒多量 に含むが密	良 好	内：褐色 外： "	7.5YR 7/6 "	約50%		R169
65	S K 6662	土師器 皿	(口径) 15.2cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含む	良 好	内：褐色 外： "	5YR 7/6 "	約50%		R168
66	S K 6662	土師器 皿	(口径) 14.5cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含む	ややあまい	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4 "	約50%		R167
67	S K 6665	土師器 小皿	(口径) 8.5cm (器高) 1.7cm	全面ナデ・オサエ	微細な砂粒を多量に 含む	ややあまい	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4 "	約90%		R161
68	S K 6665	土師器 皿	(口径) 13.8cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	微細な砂粒多量 に含むが密	良 好	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4 "	約90%		R160
69	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 6.8cm (器高) 1.4cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい褐色 外： "	7.5YR 6/4 "	約80%		R96
70	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.0cm (器高) 1.2cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：褐色 外： "	5YR 7/6 "	ほぼ完存		R110
71	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.2cm (器高) 0.8cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：褐色 外： "	7.5YR 7/6 "	完 存		R108
72	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.0cm (器高) 1.2cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：褐色 外： "	7.5YR 7/6 "	約50%		R104
73	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.3cm (器高) 1.1cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：褐色 外： "	7.5YR 7/6 "	約70%		R91
74	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.5cm (器高) 1.2cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい褐色 外： "	7.5YR 7/4 "	約60%		R87
75	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.2cm (器高) 1.1cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：褐色 外： "	7.5YR 7/6 "	約60%		R97
76	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.1cm (器高) 0.9cm	口縁部ナデ、体部ナデ・オ サエ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：褐色 外： "	7.5YR 6/6 "	約90%		R89

No.	出土遺構	器 種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残存度	備 考	登録番号
77	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.5cm (器高) 1.0cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	約80%		R98
78	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.4cm (器高) 1.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 6/6 外： ” ”	完 存		R107
79	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.3cm (器高) 1.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい橙色 7.5YR 7/4 外： ” ”	約70%		R101
80	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.5cm (器高) 1.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい橙色 7.5YR 7/4 外： ” ”	約70%		R124
81	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.2cm (器高) 1.1cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 6/6 外： ” ”	約80%		R106
82	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.5cm (器高) 1.2cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	完 存		R90
83	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 8.0cm (器高) 1.0cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：淡黄褐色 7.5YR 8/4 外： ” ”	約50%		R132
84	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.7cm (器高) 1.6cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	ほぼ完存	ゆがみが大きい	R111
85	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.5cm (器高) 1.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい橙色 7.5YR 7/4 外： ” ”	ほぼ完存		R116
86	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.0cm (器高) 1.4cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	約50%		R123
87	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.0cm (器高) 1.6cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	ほぼ完存		R100
88	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.5cm (器高) 1.6cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい橙色 7.5YR 6/4 外： ” ”	約90%		R88
89	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.2cm (器高) 1.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい橙色 7.5YR 7/4 外： ” ”	完 存		R103
90	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.2cm (器高) 1.1cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい橙色 7.5YR 7/4 外： ” ”	ほぼ完存		R119
91	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.2cm (器高) 1.1cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：淡黄褐色 7.5YR 8/4 外： ” ”	約60%		R121
92	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.1cm (器高) 0.9cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 6/6 外： ” ”	約70%		R99
93	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 6.3cm (器高) 1.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	約90%		R105
94	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.4cm (器高) 1.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 6/6 外： ” ”	ほぼ完存		R94
95	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.2cm (器高) 1.2cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：淡黄褐色 10YR 8/4 外： ” ”	ほぼ完存		R109
96	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.8cm (器高) 1.2cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	約70%		R102
97	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.6cm (器高) 1.2cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	約70%	外面の磨耗著しい	R114
98	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.6cm (器高) 1.1cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	約70%		R115
99	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.6cm (器高) 1.0cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 5YR 7/6 外： ” ”	約60%		R93
100	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.6cm (器高) 1.5cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 5YR 7/6 外： ” ”	約70%	ゆがみが大きい	R92
101	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.6cm (器高) 1.0cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	約90%		R117
102	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.8cm (器高) 1.2cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	完 存		R112
103	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 8.2cm (器高) 1.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	完 存		R86
104	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 8.0cm (器高) 1.0cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	約90%		R95
105	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 8.8cm (器高) 1.0cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい橙色 7.5YR 7/4 外： ” ”	ほぼ完存		R113
106	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 7.6cm (器高) 1.1cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	約70%		R115
107	S X 6652	土師器 小皿	(口径) 8.0cm (器高) 1.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：淡黄褐色 7.5YR 8/4 外： ” ”	約50%		R120
108	S X 6652	ロクロ土 師器	(口径) 7.2cm (器高) 1.9cm	外面ヨコナデ、内面ナデ 底部に糸切り痕ナデ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：淡黄色 2.5Y 8/3 外： ” ”	約60%		R125
109	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.0cm (器高) 3.1cm	口縁部ケズリ、外内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	約40%		R84
110	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.5cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、外面ナ デ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：橙 色 7.5YR 7/6 外： ” ”	ほぼ完存		R70
111	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.8cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、外面ナ デ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい橙色 7.5YR 7/4 外： ” ”	ほぼ完存		R69
112	S X 6652	土師器 皿	(口径) 13.0cm (器高) 2.7cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい橙色 7.5YR 7/3 外： ” ”	約50%		R83
113	S X 6652	土師器 皿	(口径) 13.0cm (器高) 2.8cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	微細な砂粒含む が密	良 好	内：にぶい橙色 5YR 7/4 外： ” ”	約30%		R85

No.	出土遺構	器種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残存度	備 考	登録番号
114	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.5cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：にぶい褐色 外： "	10YR 7/4 約70%		R76
115	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.3cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：褐色 外： "	5YR 7/6 ほぼ完存		R71
116	S X 6652	土師器 皿	(口径) 13.0cm (器高) 3.0cm	外面オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/4 約90%		R72
117	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.9cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/4 約60%		R73
118	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.8cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：褐色 外： "	7.5YR 7/6 約50%		R81
119	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.8cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/4 約60%		R75
120	S X 6652	土師器 皿	(口径) 13.0cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/4 約95%		R74
121	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.5cm (器高) 2.4cm	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/3 完 存		R79
122	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.6cm (器高) 2.5cm	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：褐色 外： "	7.5YR 7/6 約70%		R78
123	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.4cm (器高) 2.3cm	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：明黄褐色 外： "	10YR 6/6 約50%		R82
124	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.6cm (器高) 2.5cm	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/4 完 存		R77
125	S X 6652	土師器 皿	(口径) 12.6cm (器高) 2.1cm	外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：褐色 外： "	7.5YR 7/6 約95%		R80
126	S X 6635	土師器 小皿	(口径) 9.8cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	ややあまい	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4 完 存	連続する指頭圧痕	R65
127	S X 6635	土師器 小皿	(口径) 8.35cm (器高) 2.1cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	ややあまい	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4 完 存		R66
128	S X 6635	土師器 小皿	(口径) 9.4cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	ややあまい	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4 約80%	連続する指頭圧痕	R67
129	S X 6635	土師器 小皿	(口径) 9.3cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	ややあまい	内：淡黄褐色 外： "	10YR 8/4 約95%		R68
130	S D 6671	土師器 皿	(口径) 8.95cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、外内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良 好	内：淡黄色 外： "	2.5YR 8/3 完 存	粘土板接合痕	R49
131	S D 6671	土師器 椀	(口径) 14.1cm (器高) 4.0cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	ややあまい	内：にごった淡黄褐色 外： "	10YR 8/4 ほぼ完存	口縁部と見込み部に油煙の黒色物付着	R50
132	S D 6671	土師器 椀	(口径) 14.2cm (器高) 4.0cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	径1~2cm以下の砂粒多量に含む	ややあまい	内：にごった黄褐色 外： "	10YR 7/3 約70%		R51
133	S D 6671	土師器 壺	(口径) 18.4cm (器高) 9.5cm	口縁部ヨコナデ、外内面ナデ	径1cm以下の砂粒を多量に含むが密	やや軟弱	内：淡黄色 外： "	2.5Y 7/4 口縁の1/4 約40%		R48
134	S K 6651	土師器 小皿	(口径) 9.5cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、外内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	ややあまい	内：灰白色 外： "	2.5Y 8/2 約90%		R157
135	S K 6654	ロクロ土 師器小皿	(口径) 9.5cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、外内面ロクロナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：淡黄色 外： "	2.5Y 8/3 約70%	底部回転糸切り痕、ロクロ右回転	R145
136	S K 6651	ロクロ土 師器小皿	(口径) 9.2cm (器高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、外内面ロクロナデ	密	良 好	内：灰白色 外： "	2.5Y 8/2 約60%	底部回転糸切り痕	R154
137	S K 6651	ロクロ土 師器 合付皿	(口径) 8.1cm (器高) 2.5cm (台径) 4.0cm	口縁部ヨコナデ、外面ロクロナデ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良 好	内：灰白色 外： "	2.5Y 8/2 約70%	底部回転糸切り痕	R155
138	S K 6651	土師器 台付椀	(口径) 6.6cm (器高) 3.0cm	貼付高台部ロクロヨコナデ、外内面ロクロナデ	密	良 好	内：淡黄色 外： "	2.5Y 8/3 高台部のみ 完 存		R156
139	S K 6654	土師器 皿	(口径) 13.5cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、外内面ナデ	密	良 好	内：淡黄色 外： "	2.5Y 8/3 不 明	口縁端部を内側に丸め、肥厚させる	R148
140	S K 6654	土師器 皿	(口径) 14.6cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良 好	内：淡黄色 外： "	2.5Y 8/3 約60%		R149
141	S K 6651	土師器 杯	(口径) 9.6cm (器高) 1.9cm	口縁部ロクロヨコナデ、外内面ロクロナデ	密	良 好	内：灰白色 外： "	2.5Y 8/2 約60%	底部回転糸切り痕	R153
142	S K 6654	土師器 小皿	(口径) 9.2cm (器高) 1.5cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良 好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/4 約50%	底部外面全体に砂粒痕のこる	R147
143	S K 6654	土師器 小皿	(口径) 9.5cm (器高) 1.3cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良 好	内：にぶい黄褐色 外： "	10YR 7/4 完 存	底部外面全体に砂粒痕のこる	R146
144	S K 6661	土師器 皿	(口径) 15.3cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・オサエ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良 好	内：淡黄褐色 外： "	7.5YR 8/3 完 存		R150
145	S K 6661	土師器 皿	(口径) 12.0cm (器高) 2.2cm	外面ナデオサエ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	ややあまい	内：褐色 外： "	7.5YR 7/6 約50%		R151
146	S K 6647	ロクロ土 師器 台付椀	(口径) 14.4cm (器高) 5.5cm (台径) 6.2cm	口縁部・貼付高台ロクロヨコナデ、外内面ロクロナデ	微細な砂粒含むが密	ややあまい	内：淡黄色 外： "	2.5Y 8/4 約60%	底部静止(?)糸切り痕 山茶碗写	R158
147	J - 27 包含層	須恵器 内面硯	(口径) 15.8cm (器高) 3.9cm	体部ロクロナデ、脚台部に細い方形透かし、縁部に円形浮文	若干の小石粒含むが密	良 好	内：くすんだ灰白色 外： "	5Y 7/1 口縁の1/4 約30%		R181
148	J - 25 包含層	須恵器 内面硯	(口径) 10.4cm (器高) 3.4cm	体部ロクロナデ、貼付突帯	密	良 好	内：灰白 外： "	5Y 8/2 口縁の1/8		R182

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色 調	残存度	備 考	登録番号
149	N-31 包含層	緑釉陶器 唾 壺	(口径) 5.8cm (器高) 1.8cm	外内面ロクロナデ	密	良好 素地 軟質	釉: 淡黄緑色 胎土: 淡黄 5Y 8/2	底部のみ		R171
150	表土	青 磁 碗	(口径) 12.2cm (器高) 2.7cm (底径) 5.3cm	削出し高台、内底面に弱い 絞	密	堅 緻	内: 灰褐色 外: " 胎土: 灰白 5Y 7/1	約40%	全面施釉 越州蓋茶	R173
151	S D 0244	青 磁 碗	(口径) 6.5cm (器高) 4.3cm	削出し高台、内面に目痕有 り	密	堅 緻	内: 灰褐色 外: " 胎土: 灰19-7 5Y 6/2	底部の1/4	全面施釉 越州蓋茶	R174
152	Q-32 Pit-9	緑釉陶器 台付碗	(口径) 8.0cm (器高) 1.7cm	外面ロクロナデ 内面ヘラミガキ	密	良好 素地 軟質	釉: 淡黄緑色 胎土: 灰白 5Y 8/1	底部の1/3		R172
153	S B 6660	灰釉陶器 広口壺	(口径) 29.5cm (器高) 14.5cm	外面ナデ 内面ロクロナデ	密	良好	釉: 胴部内面をのぞき灰褐色 胎土: 灰白 5Y 7/1	口縁の1/4		R170
154	S D 0244	土 甌	(残長) 4.1cm (残幅) 1.9cm (残重) 8.8g	表面ナデ	密	良好	淡黄 2.5Y7/3 ~ 黄灰 2.5Y5/1	完 存		R175
155	S D 0244	土 甌	(残長) 4.1cm (残幅) 1.4cm (残重) 5.5g	表面ナデ	密	良好	にぶい黄橙 10YR 6/3	完 存		R177
156	S D 0244	土 甌	(残長) 4.1cm (残幅) 1.1cm (残重) 3.7g	表面ナデ	密	良好	灰 5Y 4/1	完 存		R176
157	S D 6671	土 甌	(残長) 5.1cm (残幅) 1.2cm (残重) 5.9g	表面ナデ	密	良好	黄灰 2.5Y4/1 ~ 淡黄 2.5Y8/3	完 存		R178
158	S D 6671	土 甌	(残長) 6.2cm (残幅) 1.9cm (残重) 18.2g	表面ナデ	密	良好	にぶい黄橙 10YR 7/4	完 存		R179

第 9 7 次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色 調	残存度	備 考	登録番号
1	S B 6694	土師器 皿	(口径) 22.8cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、内外面ナ デ	緻密	良好	内: 橙色 外: " 7.5YR 7/6	約50%残存		R 2
2	S B 6694	土師器 皿	(口径) 20.5cm (器高) 3.0cm	b手法か? 磨耗のため表面 剥離不明	緻密	良好	内: 橙色 外: " 5YR 7/5	約50%残存		R 1
3	S B 6694	土師器 杯	(口径) 11.4cm (器高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 外面ナデ・オサエ	緻密	良好	内: 黒褐色 外: にぶい黄褐色 10YR 4/1 10YR 6/4	約70%残存	内面に黒色物付着	R 3
4	S B 6694	土師器 甕	(口径) 14.1cm (残高) 11.4cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコ チナデ、外面ナデ	緻密な砂粒含み やや粗	良好	内: にぶい橙色 外: " 5YR 6/4	約60%残存	一部黒色物付着	R 5
5	S B 6690	土師器 皿	(口径) 28.0cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 外面ヘラズリ方向等不明	密	良好	内: 橙色 外: " 5YR 6/6	約40%残存		R 7
6	S B 6686	須恵器 杯	(口径) 17.5cm (器高) 3.9cm (底径) 12.4cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部ヘラズリ	密	良好	内: 灰色 外: オリーブ黒色 N 4/0 10Y 3/2	口縁の1/4		R 6
7	S B 6685	須恵器 杯蓋	(残高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、外面ロク ロケズリ、内面ナデ	密	良好	内: オリーブ灰色 外: " 2.5G 5/1	約40%残存	つまみ貼付	R 8
8	S B 6685	須恵器 杯	(口径) 16.4cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、内外面ナ デ	密	あまく軟質	内: 灰オリーブ色 外: " 5Y 6/2	約50%残存		R 9
9	S B 6685	土師器 杯蓋	(口径) 12.8cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、内外面ナ デ	密	良好	内: 明赤褐色 外: " 2.5YR 5/8	約40%残存	つまみ貼付	R11
10	S B 6685	土師器 皿	(口径) 20.0cm (器高) 2.1cm	口縁部ヨコナデ、内外面ナ デ	密	良好	内: 橙色 外: " 5YR 6/8	約40%残存	全面磨耗著しい	R10
11	S K 6689	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 16.0cm (器高) 5.7cm	口縁部ヨコナデ、外面ロク ロナデ、内面ナデ、底面ヨ コナデ	密	良好	内: 灰白色 外: " 5YR 7/1	約60%残存	内面見込み部付近に黒色 物付着	R14
12	S K 6689	土師器 鉢	(口径) 25.0cm (残高) 10.2cm	口縁部ヨコナデ、内外面ナ デ・オサエ	径1mm以下の砂 粒を多量に含む	良好	内: 淡黄色 外: 灰黄褐色 2.5Y 7/3 10YR 5/2	口縁の1/4	外面ス付着	R15
13	S K 6692	土師器 小皿	(口径) 7.8cm (器高) 0.9cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ エ	密	良好	内: 淡黄色 外: " 2.5Y 8/3	約70%残存		R25
14	S K 6692	土師器 皿	(口径) 11.6cm (器高) 2.7cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ エ	密	良好	内: 淡黄色 外: " 2.5Y 8/3	約60%残存	同心円状に指頭圧痕	R16
15	S K 6692	土師器 皿	(口径) 11.8cm (器高) 2.3cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ エ	密	良好	内: 淡黄色 外: " 2.5Y 8/3	約70%残存		R17
16	S K 6692	土師器 皿	(口径) 11.6cm (器高) 2.8cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ エ	密	良好	内: 淡黄色 外: " 2.5Y 8/3	ほぼ完了		R18
17	S K 6692	土師器 皿	(口径) 11.6cm (器高) 2.4cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ エ	密	良好	内: 淡黄色 外: " 2.5Y 8/3	ほぼ完了		R19
18	S K 6692	土師器 皿	(口径) 11.4cm (器高) 2.8cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ エ	密	良好	内: 淡黄色 外: " 2.5Y 8/3	完 了		R20
19	S K 6692	土師器 皿	(口径) 11.6cm (器高) 3.1cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ エ	密	良好	内: 淡黄色 外: " 2.5Y 8/3	ほぼ完了		R21
20	S K 6692	土師器 皿	(口径) 11.3cm (器高) 2.6cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ エ	密	良好	内: 淡黄色 外: " 2.5Y 8/3	約80%残存		R22
21	S K 6692	土師器 皿	(口径) 11.6cm (器高) 2.7cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ エ	密	良好	内: 淡黄色 外: " 2.5Y 8/3	約60%残存		R23
22	S K 6692	土師器 皿	(口径) 11.3cm (器高) 2.9cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ エ	密	良好	内: 淡黄色 外: " 2.5Y 8/3	約90%残存		R24

No.	出土遺構	器種	法量	留整・技法の特徴	胎土	焼成	色 調	残存度	備 考	登録番号
23	S K 6692	土師器 鉢	(口径) 30.0cm (器高) 11.2cm	口縁ヨコナデ、内外面ナデ ・オサエ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：にぶい黄褐色 外：黒褐色 10YR 7/3 10YR 3/1	口縁の1/8		R26
24	S X 6696	土師器 鉢	(口径) 31.8cm (器高) 12.9cm	口縁ヨコナデ、内面ナデ	緻密	良好	内：にぶい黄褐色 外：～灰黄褐色 10YR 7/3 10YR 4/2	約40%残存 口縁の90%	内面にうすく黒色物付着	R52
25	S X 6696	土師器 鉢	(口径) 32.2cm (器高) 13.2cm	口縁ヨコナデ、内面ナデ	緻密	良好	内：にぶい黄褐色 外：～灰褐色 10YR 6/2 10YR 4/1 10YR 6/2	約50%残存 口縁の90%	外面に多量にスス付着	R53
26	S D 6700	土師器 小皿	(口径) 9.1cm (器高) 1.1cm	口縁ヨコナデ、内外面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：にぶい黄褐色 外：～	10YR 5/4	約30%残存	R41
27	S D 6700	土師器 皿	(口径) 15.1cm (器高) 2.9cm	口縁ヨコナデ、内面ナデ 外面ナデ・オサエ	微細な砂粒を多量に含む	ややあまい	内：淡黄色 外：～ 2.5Y 8/3	約30%残存		R32
28	S D 6700	ロクロ土 師器 皿	(口径) 2.9cm (器高) 6.6cm	内外面ロクロナデ	密	良好	内：淡黄褐色 外：～ 10YR 8/4	約50%残存	底部回転糸切痕	R39
29	S D 6700	陶器 小型壺	(口径) 9.8cm (器高) 4.2cm	口縁ヨコナデ、内外面ロ クロナデ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：にぶい赤褐色 外：灰白色 5YR 4/4 5Y 8/1	口縁の1/4	内面酸化鉄付着	R40
30	S D 6700	陶器 壺	(口径) 4.1cm (台径) 8.0cm	内面ロクロナデ、底部ナデ	微細な砂粒多量に含む	良好	内：灰白色 外：～ 5Y 8/1	低径の1/2	外面自然釉のタレあり	R51
31	S D 6700	陶器 小皿 (山皿)	(口径) 8.3cm (器高) 2.7cm (台径) 3.3cm	口縁ヨコナデ、内外面ロ クロナデ	微細な砂粒多量に含むが固結度高い	良好	内：灰白色 外：～ 2.5Y 8/1	約40%残存		R48
32	S D 6700	陶器 小皿 (山皿)	(口径) 8.8cm (器高) 2.5cm (台径) 4.8cm	口縁ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部ナデ	微細な砂粒多量に含む	良好	内：灰白色 外：～ 5Y 8/1	約40%残存	内面鉄分付着	R42
33	S D 6700	陶器 小皿 (山皿)	(口径) 9.6cm (器高) 2.9cm (台径) 4.6cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部静止糸切痕	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：灰白 外：～ 2.5Y 8/1	約50%		R50
34	S D 6700	陶器 小皿 (山皿)	(口径) 8.0cm (器高) 2.0cm (台径) 4.7cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部回転糸切痕	微細な砂粒多量に含む	良好	内：灰白 外：～ 5Y 7/1	約60%	口縁端部上面に一部自然釉付着	R47
35	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 15.3cm (器高) 5.3cm (台径) 7.3cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部静止糸切痕	微細な砂粒多量に含むが密	ややあまい	内：灰黄 外：～ 一部赤変する 2.5Y 7/2	約60%		R27
36	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 14.2cm (器高) 5.1cm (台径) 6.5cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部回転糸切痕 親ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：灰白 外：～ 2.5Y 7/1	約60%		R33
37	S D 6700 上部	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 14.5cm (器高) 5.2cm (台径) 7.1cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部ナデ	微細な砂粒含む み溶融した長石 粒等含む	良好	内：やや白い灰白 外：～ 2.5Y 7/1	約60%		R91
38	S D 6700 上部	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 15.2cm (器高) 5.6cm (台径) 6.4cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部ナデ	微細な砂粒や径 3mm程度の長石 粒等含むが密	良好	内：やや暗い灰白 外：～ 2.5Y 8/1	約40%	内面に自然釉の釉タレ	R92
39	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 5.4cm (台径) 6.1cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：灰 外：～ 5Y 6/1	約50%		R36
40	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 15.2cm (器高) 5.4cm (台径) 7.5cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 外面ロクロナデ、底部ナデ	微細な砂粒多量に含む	良好	内：灰白 外：～ 5Y 7/1	約70%		R28
41	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 16.6cm (器高) 5.5cm (台径) 9.0cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部回転糸切痕	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：灰白 外：～ 7.5Y 8/1	約50%		R29
42	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 16.0cm (器高) 5.8cm (台径) 6.5cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：灰黄 外：～ 2.5Y 7/2	約50%	見込み部、外面下半に茶褐色物付着	R34
43	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 4.8cm (台径) 8.5cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部ナデ、底部 回転糸切痕	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：灰白 外：～ 5Y 7/1	約60%		R31
44	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 18.0cm (器高) 5.2cm (台径) 9.6cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：淡緑灰色の自然釉 外：灰白 5Y 7/1	約30%		R30
45	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 3.0cm (台径) 7.7cm	内外面ロクロナデ、底部静 止糸切痕	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：淡黄 外：～ 2.5Y 7/3	約40%		R49
46	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 3.5cm (台径) 7.0cm	内外面ロクロナデ、底部ナ デ	微細な砂粒や径 2.5mm程度の長石 粒などを含む	良好	内：灰 外：～ 5Y 6/1	約50%		R37
47	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 3.4cm (台径) 7.0cm	内外面ロクロナデ、底部ナ デ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：灰白 外：～ 5Y 7/2	約50%	内面に一部黒褐色の付着物	R35
48	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 3.8cm (台径) 6.7cm	内外面ロクロナデ、底部回 転糸切痕	微細な砂粒多量に含む	良好	内：黄灰 外：～ 2.5Y 6/1	約40%		R46
49	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 2.9cm (台径) 6.7cm	内外面ロクロナデ、底部ナ デ	微細な砂粒を多量に含むが固結 度高い	良好	内：灰白 外：～ 7.5Y 8/1	約40%	内面に自然釉付着	R45
50	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 3.9cm (台径) 5.9cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：灰白 外：～ 5Y 7/1	約50%	内面に黒色物付着	R43
51	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 3.4cm (台径) 6.2cm	内外面ロクロナデ、底部回 転糸切痕	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：灰白 外：～ 5Y 7/1	約50%	口縁部欠損後灯明皿として使われ、内面から破断面に黒色の炭化物が多量に付着する	R44
52	S D 6700	陶器 碗 (山茶碗)	(口径) 3.1cm (台径) 6.1cm	内外面ロクロナデ、底部ナ デ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：灰白 外：～ 5Y 7/1	約40%		R38

No.	出土遺構	器 種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残存度	備 考	登録番号	
53	A区 I-3 包含層	土師器 罎	(口径) 31.4cm (器高) 35.0cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 外面ハケ、底部外面ケズリ	微細な砂粒含む が緻密	良好	内：橙 外： "	7.5YR 6/6	約50%	R54	
54	S D4500	土師器 杯	(口径) 11.8cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 外面平滑ナデ	径1~2mmの砂 粒含むが密	良好	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/3	約60%	R60	
55	S D4500	土師器 杯	(口径) 12.0cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 外面全面平滑ナデ	緻密	良好	内：橙 外： "	7.5YR 6/6	約30%	R61	
56	S D4500	土師器 壺	(口径) 15.5cm (残高) 5.3cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコ ハケ、外面タテハケ	密	良好	内：にぶい黄橙 外： "	10YR 7/4	口径の約60%	R63	
57	S D4500	土師器 壺	(口径) 14.0cm (残高) 9.3cm	口縁部ヨコナデ	密	良好	内：淡黄橙 外：にぶい黄橙	10YR 8/4 10YR 7/3	口径の1/2	内面に炭化物付着 二次焼成により赤変	R59
58	S D4500	土師器 壺	(口径) 13.8cm (器高) 10.9cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコ ハケ、外面タテハケ	微細な砂粒含む が密	良好	内：にぶい黄橙 外：灰黄褐	10YR 7/2 10YR 5/2	口径の約70%	R65	
59	S D4500	土師器 壺	(口径) 13.2cm (残高) 7.6cm	口縁部ヨコナデ、内面板ナ デ、外面タテハケ	密	良好	内：にぶい黄橙 外： "	10YR 7/4	口径の約70%	R64	
60	S D4500	土師器 壺	(口径) 17.2cm (器高) 15.6cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコハ ケ、外面タテハケ	微細な砂粒含む が密	良好	内：淡黄橙 外： "	10YR 8/4	約40%	R57	
61	S D4500	土師器 壺	(口径) 18.4cm (残高) 11.6cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコハ ケ、外面タテハケ	微細な砂粒含む が密	良好	内：淡黄橙 外： "	10YR 8/3	約30%	R58	
62	S D4500	土師器 壺	(口径) 12.6cm (器高) 16.7cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコ ハケ、外面タテハケ	やや粗	良好	内：淡黄橙 外： "	10YR 8/4	約30%	R62	
63	S D4500	土師器 壺	(口径) 16.8cm (残高) 14.2cm	口縁部ヨコナデ、内面ケズ リ、外面タテハケ	微細な砂粒含む が密	良好	内：淡黄橙 外：黒褐色スス付着	10YR 8/4 2.5Y 5/1	口径の約70%	外面に多量にスス付着	R66
64	S D4500	須恵器 杯蓋	(口径) 8.6cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ	密	良好	内：灰 (やや赤味がかかる) 外： "	N 4/0 N 5/0	ほぼ完存	外面上部全体に灰がかり があり黄灰~灰色のゴミ 状になる	R55
65	S D4500	須恵器 長頸壺	(口径) 10.8cm (残高) 14.2cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ	密 黒色粒をわ ずかに含む	良好	内：灰 外：オリブ灰	7.5Y 6/1 2.5Y 5/1	口頸部のみ 残存	頸部に2条の横穴沈着	R56
66	S D6702	須恵器 杯	(口径) 8.3cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロ クロナデ、底部ナデ	径1~2mmの白 色粒含む	良好	内：灰 外： "	7.5Y 6/1	約90%	R67	
67	S D6702	須恵器 模範	(口径) 11.2cm (器高) 21.8cm (胴長径) 23.2cm (胴短径) 17.2cm	口縁部ヨコナデ、内面ロク ロナデ、外面カキ目	微細な砂粒含む が密	なま焼けで 軟質	内：灰白 外： "	5Y 8/1	約60%	R68	
68	S K6703	土師器 杯	(口径) 12.5cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 外面ナデ・オサエ	微細な砂粒含む が密	良好	内：淡黄橙 外： "	10YR 8/3	約80%	R72	
69	S K6703	土師器 杯	(口径) 14.1cm (器高) 4.1cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 底部ナデ・オサエ	微細な砂粒含む が密	良好	内：にぶい黄橙 外：にぶい橙	10YR 6/3 7.5YR 6/4	約90%	内面に黒色物付着	R73
70	S K6703	土師器 皿	(口径) 18.8cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 底部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外： "	7.5YR 6/6	約50%	R74	
71	S K6703	土師器 壺	(口径) 16.5cm (器高) 13.9cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコ ハケ・ナデ、外面タテハケ	微細な砂粒を多 量に含む	良好	内：にぶい赤褐 外：橙	5YR 5/4 2.5Y 6/6	約70%	外面二次焼成でやや赤変	R77
72	S K6703	土師器 壺	(口径) 23.0cm (残高) 14.7cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコハ ケ、外面タテハケ	微細な砂粒を多 量に含むが密	良好	内：にぶい黄橙 外：灰	10YR 7/4 5Y 5/4	口径の約80%	R75	
73	S K6703	土師器 長脚壺	(口径) 24.5cm (残高) 25.5cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコハ ケ、外面タテハケ	微細な砂粒含む が密	良好	内：にぶい黄褐 外： "	10YR 5/3	口径の約50%	内面に黒色物付着	R76
74	S K6703	土師器 長脚壺	(口径) 25.0cm (残高) 33.9cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 外面タテハケ	微細な砂粒含む が密	良好	内：にぶい黄褐 外：にごった淡黄	10YR 5/4 2.5YR 8/4	約40%	内面に黒色物付着	R78
75	S K6703	土師器 長脚壺	(口径) 25.6cm (残高) 35.2cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 外面タテハケ	微細な砂粒を多 量に含むが密	良好	内：にぶい黄橙 外： "	10YR 6/4	約40%	内面に一部炭化物付着	R71
76	S K6704	土師器 杯	(口径) 11.8cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 底部ナデ・オサエ	微細な砂粒多量 に含む	良好	内：にぶい黄橙 外： "	10YR 7/4	約40%	R81	
77	S K6704	土師器 杯	(口径) 12.6cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 底部ナデ・オサエ	微細な砂粒含む が密	良好	内：やや明るい橙 外： "	7.5YR 7/6	約40%	R80	
78	S K6704	須恵器 杯蓋	(口径) 15.0cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 外面ロクロナデ	径1~2mmの長 石粒等含むが密	良好	内：灰 外：オリブ灰	5Y 6/1 2.5YR 5/1	約50%	R79	
79	S K6704	土師器 壺	(口径) 16.0cm (残高) 17.5cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコハ ケ、外面タテハケ	微細な砂粒含む が密	良好	内：淡黄橙 外： "	10YR 8/4	口径の2/3	R82	
80	S K6710	土師器 皿	(口径) 16.2cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、内外面ナ デ	緻密	良好	内：橙 外： "	5YR 6/8	口径の1/2	R86	
81	S K6710	土師器 杯	(口径) 12.0cm (器高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 底部ナデ・オサエ	微細な砂粒含む が密	良好	内：淡黄 外： "	2.5Y 8/3	約40%	R84	
82	S K6710	土師器 杯	(口径) 11.6cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、内外面ナ デ	微細な砂粒を多 量に含む	良好	内：淡黄橙 外： "	10Y 8/3	約60%	粘土板接合痕残る	R83
83	S K6710	土師器 皿	(口径) 21.6cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ	緻密	良好	内：橙 外： "	5YR 7/8	口径の1/4	R85	
84	S B6706	須恵器 平蓋	(口径) 6.7cm (器高) 12.7cm	口縁部ヨコナデ	微細な砂粒や径 3mm程度の小石 を含む	良好	外上半：にぶい灰白 外下半：黄灰色	5Y 7/1 2.5Y 4/1	口縁部の一 部が欠失	灰かぶりにより胴上半が ゴミ目状になる	R69
85	S B6706	土師器 壺	(口径) 14.6cm (器高) 26.9cm	口縁部ヨコナデ、内面ヨコハ ケ、外面タテハケ	微細な砂粒含む が密	良好	内：にぶい黄橙 外： "	10YR 6/4	約70%	R70	
86	S K6715	土師器 杯	(口径) 15.8cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 底部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外： "	7.5YR 7/6	約60%	内面に整形時のゆがみがある	R88
87	S K6715	土師器 杯	(口径) 14.4cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 底部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 外： "	7.5YR 6/4	約50%	内面にモミ圧痕	R87
88	S K6715	土師器 杯	(口径) 13.6cm (器高) 2.1cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ 底部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外： "	7.5YR 7/6	約60%	R89	
89	F区 0-2 Pit-2	土師器 製土器	(口径) 13.8cm (器高) 5.7cm	外面ナデ・オサエ、内面ナ デ	1mm以下の砂粒 を多量に含む	並	内：にぶい明赤褐 外： "	5YR 5/8	口径の1/4 弱	R93	

第98次調査

No.	出土遺構	器 種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残存度	備 考	登録番号	
1	S K 6753	土師器 皿	(口径) 13.6cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：＃	5YR 6/8	約90%	器表面の磨耗ややすすむ	R18
2	S K 6753	土師器 皿	(口径) 14.7cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：にぶい橙 外：橙	7.5YR 6/4 7.5YR 6/6	ほぼ完存		R17
3	S K 6753	土師器 皿	(口径) 14.9cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：淡黄橙	5YR 7/8 7.5YR 8/6	ほぼ完存	粘土接合痕残る	R 9
4	S K 6753	土師器 皿	(口径) 15.6cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄橙 外：＃	10YR 8/4	約80%	全面磨耗やすすむ	R41
5	S K 6753	土師器 皿	(口径) 14.7cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：橙	5YR 6/8 2.5YR 6/8	ほぼ完存	底部外面に二次焼成による赤化がみとめられる	R19
6	S K 6753	土師器 皿	(口径) 16.5cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄橙 外：＃	7.5YR 8/6	ほぼ完存		R53
7	S K 6753	土師器 皿	(口径) 16.6cm (器高) 2.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：黄 橙	5YR 6/8 7.5YR 7/8	約60%		R21
8	S K 6753	土師器 皿	(口径) 16.3cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：淡黄橙 外：＃	10YR 8/4	約90%		R15
9	S K 6753	土師器 皿	(口径) 16.6cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：＃	5YR 6/8	ほぼ完存	底部外面に同心円状の連続指頭圧痕が残る	R31
10	S K 6753	土師器 皿	(口径) 17.0cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：＃	5YR 6/8	約85%		R45
11	S K 6753	土師器 杯	(口径) 9.9cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：＃	5YR 6/6	約40%		R52
12	S K 6753	土師器 杯	(口径) 12.2cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：にぶい橙 外：橙	7.5YR 7/4 7.5YR 6/8	約95%	粘土接合痕残る	R36
13	S K 6753	土師器 杯	(口径) 12.5cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：橙	5YR 6/8 7.5YR 7/6	完存		R28
14	S K 6753	土師器 杯	(口径) 12.4cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：淡黄橙 外：橙	7.5YR 8/4 5YR 7/8	完存		R11
15	S K 6753	土師器 杯	(口径) 12.3cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：＃	5YR 6/8	ほぼ完存	外面に黒色物が若干付着	R50
16	S K 6753	土師器 杯	(口径) 12.8cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：＃	5YR 6/6	ほぼ完存	外面に成形時に螺旋状に強くナデた痕跡が残る	R 6
17	S K 6753	土師器 杯	(口径) 11.7cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：黄 橙 外：＃	7.5YR 7/8	約90%		R27
18	S K 6753	土師器 杯	(口径) 12.5cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：＃	5YR 6/8	ほぼ完存		R25
19	S K 6753	土師器 杯	(口径) 12.9cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：＃	5YR 6/8	約80%	内面に放射・螺旋状の暗文	R47
20	S K 6753	土師器 杯	(口径) 13.5cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄橙 外：＃	10YR 8/4	ほぼ完存	内面に格子状の放射暗文と螺旋状暗文、内面に黒色物がゴマメ状に付着	R26
21	S K 6753	土師器 杯	(口径) 13.4cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄橙 外：淡 黄	7.5YR 8/6 2.5Y 8/3	ほぼ完存		R54
22	S K 6753	土師器 杯	(口径) 12.9cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：＃	5YR 7/8	ほぼ完存		R 1
23	S K 6753	土師器 杯	(口径) 13.6cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：にぶい橙 外：橙	7.5YR 5/3 7.5YR 6/6	ほぼ完存		R37
24	S K 6753	土師器 杯	(口径) 13.8cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄橙 外：＃	7.5YR 8/6	ほぼ完存	内面に黒色物がゴマメ状に付着	R 3
25	S K 6743	土師器 皿	(口径) 14.2cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：＃	7.5YR 7/6	ほぼ完存		R58
26	S K 6743	土師器 皿	(口径) 14.4cm (器高) 1.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：＃	5YR 6/8	完存		R74
27	S K 6743	土師器 皿	(口径) 14.8cm (器高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：＃	5YR 6/8	約30%		R62
28	S K 6743	土師器 皿	(口径) 15.5cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：＃	5YR 7/6	約70%		R57
29	S K 6743	土師器 皿	(口径) 13.8cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	5YR 6/8	約30%		R64
30	S K 6743	土師器 皿	(口径) 14.8cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	5YR 7/6	約30%		R65
31	S K 6743	土師器 皿	(口径) 14.8cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	5YR 7/6	約80%		R73
32	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.0cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	7.5YR 7/6	約50%		R102
33	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.2cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：＃	5YR 7/8	約70%		R93
34	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.2cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：黄 橙 外：＃	10YR 8/6	約40%		R103
35	S K 6743	土師器 杯	(口径) 15.2cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	7.5YR 6/6	完存		R87
36	S K 6743	土師器 杯	(口径) 13.5cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：黄 橙 外：＃	10YR 8/8	完存		R104

No.	出土遺構	器 種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残存度	備 考	登録番号
37	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.8cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	良好	内：橙 外：＃	7.5YR 7/6 ＃	完存	R101
38	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.1cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	7.5YR 7/6 ＃	ほぼ完存	R89
39	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.6cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	クサリ礫やや多 量に含む	あまい	内：橙 外：＃	2.5YR 6/8 ＃	約25%	R90
40	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.0cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	ややあまい	内：淡黄橙 外：＃	7.5YR 8/6 ＃	完存	R88
41	S K 6743	土師器 杯	(口径) 15.2cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	砂粒多量に含む やや粗	あまい	内：橙 外：＃	7.5YR 7/1 ＃	約70%	R99
42	S K 6743	土師器 杯	(口径) 13.2cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	クサリ礫多量に 含む	あまい	内：明赤褐 外：＃	2.5YR 5/8 ＃	完存	器形のゆがみ大きく、器 表面の剝離著しい R86
43	S K 6743	土師器 杯	(口径) 13.8cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	クサリ礫多量に 含む	ややあまい	内：橙 外：＃	5YR 7/1 7.5YR 7/6	完存	R106
44	S K 6743	土師器 杯	(口径) 13.9cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	5YR 7/8 ＃	完存	R114
45	S K 6743	土師器 杯	(口径) 15.0cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	ややあまい	内：黄 橙 外：＃	7.5YR 8/8 ＃	ほぼ完存	R95
46	S K 6743	土師器 杯	(口径) 15.0cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	あまい	内：橙 外：＃	5YR 7/8 ＃	約20%	R94
47	S K 6743	土師器 杯	(口径) 12.2cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	5YR 6/8 ＃	約40%	R84
48	S K 6743	土師器 皿	(口径) 14.2cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	良好	内：橙 外：＃	7.5YR 7/6 ＃	約70%	R61
49	S K 6743	土師器 皿	(口径) 15.6cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	5YR 7/6 ＃	約30%	R68
50	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.2cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：橙	5YR 7/6 7.5YR 7/6	完存	R105
51	S K 6743	土師器 杯	(口径) 15.6cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	良好	内：橙 外：＃	5YR 6/8 ＃	約30%	R110
52	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.2cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	5YR 6/8 ＃	ほぼ完存	R120
53	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.0cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	良好	内：橙 外：＃	7.5YR 7/6 ＃	ほぼ完存	R119
54	S K 6743	土師器 杯	(口径) 14.4cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 外：＃	5YR 7/8 ＃	約20%	R121
55	S K 6743	土師器 鉢	(口径) 29.4cm (器高) 13.6cm	体部14本/3.4cmのハケ、下 半部ケズリ	密	良好	内：黄 橙 外：＃	10YR 8/6 ＃	約50%	R124
56	S K 6743	土師器 甕	(口径) 16.0cm (器高) 15.4cm	体部7本/1.6cmのハケ、内 面ナデ、下半部ケズリ	密	ややあまい	内：淡黄橙 外：＃	10YR 8/4 ＃	約80%	体部外面にスズ付着、内 面に暗茶褐色の付着物 R123
57	S K 6762	須恵器 盤	(口径) 21.9cm (器高) 5.4cm	体部ロクロナデ、内面ナデ 底部外面ロクロケズリ	密	良好	内：灰 外：オリーブ灰	7.5Y 6/1 2.5GY 6/1	約80%	ロクロ右回転 R210
58	S K 6762	須恵器 盤	(口径) 24.0cm (台径) 14.9cm (器高) 2.4cm	体部ロクロナデ、内面ナデ 口縁部ヨコナデ、底部外面 ロクロケズリ、貼付高台	密	良好	内：にぶい黄橙 外：＃	10YR 7/3 ＃	約70%	ロクロ右回転 R209
59	S K 6752	土師器 杯	(口径) 11.2cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	良好	内：淡黄橙 外：＃	10YR 8/4 ＃	約90%	器形のゆがみ大 R179
60	S K 6752	土師器 杯	(口径) 12.0cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 外：淡黄橙	10YR 7/4 10YR 8/4	完存	R177
61	S K 6752	土師器 杯	(口径) 12.1cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	良好	内：淡黄橙 外：＃	10YR 7/6 10YR 8/4	ほぼ完存	R173
62	S K 6752	土師器 杯	(口径) 11.6cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	緻密	良好	内：淡 黄 外：＃	2.5Y 8/4 ＃	約90%	R175
63	S K 6752	土師器 台付皿	(口径) 10.2cm (台径) 4.8cm (器高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ、貼付高台	密	良好	内：橙 外：＃	5YR 7/6 ＃	完存	R172
64	S K 6752	土師器 台付皿	(口径) 10.7cm (台径) 6.2cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ、貼付高台	密	良好	内：にぶい橙 外：＃	7.5YR 7/4 ＃	約60%	R174
65	S K 6752	土師器 杯	(口径) 8.6cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	良好	内：淡黄橙 外：橙	7.5YR 8/6 5YR 7/6	約70%	内面にヘラ当たり痕 R187
66	S D 6750	黒色土器 皿	(口径) 11.2cm (器高) 1.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	緻密	良好	内：黒 外：オリーブ黒	7.5Y 2/1 5Y 3/1	約40%	黒色土器B類 R227
67	S D 6750	土師器 皿	(口径) 11.3cm (器高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 外：淡黄橙	10YR 7/3 10YR 8/3	約50%	R185
68	S D 6750	土師器 杯	(口径) 11.6cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄橙 外：淡 黄	10YR 8/3 2.5Y 8/3	約70%	R192
69	S D 6750	土師器 杯	(口径) 12.4cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄橙 外：灰 白	10YR 8/4 10YR 8/2	約70%	R193
70	S D 6750	土師器 杯	(口径) 13.3cm (器高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄橙 外：灰 白	10YR 8/4 7.5YR 7/3	約80%	粘土接合痕あり R181
71	S D 6750	土師器 杯	(口径) 12.8cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ	密	良好	内：淡黄橙 外：＃	10YR 8/3 ＃	約80%	R191
72	S D 6750	土師器 台付皿	(口径) 11.7cm (台径) 6.1cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ ・オサエ、貼付高台	密	良好	内：淡黄橙 外：＃	7.5YR 8/4 ＃	約70%	R184

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
73	S D 6750	土師器 台付皿	(口径) 11.9cm (台径) 5.8cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ、貼付高台	緻密	良好	内：黄 橙 7.5YR 8/8 外： "	約60%		R196
74	S D 6750	土師器 台付皿	(口径) 12.2cm (台径) 6.0cm (器高) 2.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ、貼付高台	密	良好	内：淡黄橙 7.5YR 8/3 外： "	約70%		R200
75	S D 6750	土師器 台付杯	(口径) 15.8cm (台径) 7.2cm (器高) 4.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ、貼付高台	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR 7/4 外：淡黄橙 10YR 8/4	約60%		R182
76	S D 6750	灰釉陶器 椀	(口径) 15.2cm (台径) 7.7cm (器高) 4.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部ナデ、貼付高台、灰釉陶器ツケガケ	密	良好	釉：明オリーブ灰 2.5GY 7/1 胎土：淡 黄 2.5Y 7/3	約40%		R183
77	S D 6810	須恵器 壺	(口径) 45.2cm (残高) 13.0cm	外面平行タタキ、内面同心円文タタキ後ナデ、口縁部ロクロナデ	緻密	良好	内：灰 5Y 6/1 外：灰 白 5Y 7/1	口径の1/4		R167
78	H G-12 Pit-22他	緑釉陶器 把手付瓶	(口径) 7.2cm (底径) 12.4cm (器高) 21.5cm	外面でいねいなミガキ、内面ロクロナデ、ケズリ、口縁部ヨコナデ	緻密	良好	釉：淡緑灰～明黄橙 5Y 6/1 胎土：灰	約20%	ロクロ右回転か？ 猿投産、細片になる	R219
79	G-7 包含層II	黒色土器 風字硯	(口径) — (器高) —	側縁端部に凹輪と縦方向ミガキ、体部横方向ミガキ、貼付高台の痕跡	緻密	良好	内：黒 7.5Y 2/1 外： "	約30%		R226
80	S K 6746 S K 6747 他	須恵器 円面硯	(口径) 9.2cm (台径) 14.0cm (器高) 6.4cm	体部ロクロナデ、脚台部外面にやや斜行するへら描き沈線文	器表面はややザラつくが密	良好	内：灰 白 5Y 7/1 外： "	約30%		R225
81	S K 6764 他	須恵器 台付盤 (転用硯)	(口径) 17.6cm (台径) 11.2cm (器高) 3.1cm	体部ロクロナデ、口縁部ヨコナデ、底部ロクロケズリ、貼付高台	緻密	良好	内：灰 N 6/0 外： " やや赤みがかる	約80%	見込み部に曇痕残る	R224
83	S D 6750	土師器 杯	(口径) 12.0cm (器高) 2.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：淡黄橙 10YR 8/4 外： "	約70%	底部外面にかな習書遺書「い□あるも□る□□□□や□ね」	R222
84	S D 6750	土師器 壺	(口径) 6.2cm (底径) 4.3cm (器高) 5.9cm	口縁部ヨコナデ、体部外面へラケズリ、内面ナデ・オサエ、底部ケズリ	緻密	良好	内：橙 5YR 6/8 外： "	約80%		R223
85	S D 6750	緑釉陶器 椀	(口径) 11.8cm (台径) 6.1cm (器高) 4.1cm	口縁部ヨコナデ、体部下半外面ロクロケズリ、見込み部ミガキ、貼付高台	緻密	良好	釉：暗灰緑 7.5Y 5/1 胎土：灰	約50%	見込み部に三叉トチン痕 束濁産	R216
86	S K 6752	緑釉陶器 椀	(台径) 6.6cm (残高) 4.6cm	口縁部ヨコナデ、体部下半外面ロクロケズリ、見込み部ナデ、貼付高台	緻密	やや軟質	釉：淡緑灰 5Y 6/1 胎土：灰	約30%	見込み部に三叉トチン痕 束濁産	R217
87	H-13 包含層	緑釉陶器 椀	(台径) 8.4cm (残高) 2.1cm	体部ロクロナデ、貼付高台	緻密	良好	釉：淡緑灰 7.5Y 7/1 胎土：灰 白	台径の1/4	彫刺花文 猿投産	R218
88	E-9 包含層	緑釉陶器 椀	(台径) 7.9cm (残高) 1.9cm	体部ミガキ、底部ミガキ、貼付高台	緻密	やや軟質	釉：淡緑灰 5Y 8/1 胎土：灰 白	台径の1/3	彫刺花文 猿投産	R220

注) ○ Naは本書遺物実測図の番号と一致する。

○ 器種の項では、それぞれ「～形土器」の表現を省略した。

○ 法量の「口径」は口縁端部の最高点を結んだ長さを示す。

○ 色調は農林水産省農林水産技術会議事務局他監修の『新版標準土色帖』（1988年度版）を参照した。

○ 登録番号は遺物・図面の整理及び管理上の番号で、各調査回数ごとに実測された遺物すべてに通して付されている。

齋宮跡発掘次数一覧表

次	年度	調 査 地 区	次	年度	調 査 地 区
1	S45	試掘	13-6	51	中垣内375-1(南)
2	46	古里A地区	13-7		東 裏328(小川)
3		◇ B地区	13-8		西加座2771-1(細井)
4	47	◇ C地区	13-9		◇ 2773(細井)
5	48	◇ D地区	13-10		東 裏362-1(児島)
6-1		Aトレンチ	13-11		西加座2681-1(浮田)
6-2		Bトレンチ	13-12		◇ 2721-3, 2724-2(森川)
6-3		Cトレンチ	13-13		東前沖2506-2(宮下)
6-4		Dトレンチ	14-1	52	2 Eトレンチ
6-5		Eトレンチ	14-2		2 Fトレンチ
7	49	古里E地区	14-3		2 Gトレンチ
8-1		Fトレンチ	14-4		2 Hトレンチ
8-2		Gトレンチ	14-5		2 Iトレンチ
8-3		Hトレンチ	15		齋宮小学校
8-4		Iトレンチ	16-1		竹川町道A
8-5		Jトレンチ	16-2		◇ B
8-6		Kトレンチ	16-3		◇ C
8-7		Lトレンチ	16-4		◇ D
8-8		Mトレンチ	16-5		◇ E
8-9		Nトレンチ	16-6		◇ F
8-10		Oトレンチ	17-1		竹神社社務所
8-11		Pトレンチ	17-2		竹神社防火用水
9-1	50	Qトレンチ	17-3		西加座2721-6(西沢)
9-2		Rトレンチ	17-4		楽 殿2894-1(中川)
9-3		Sトレンチ	17-5		◇ 2895-1(西口)
9-4		Tトレンチ	17-6		出在家3237-3(吉川)
9-5		Uトレンチ	17-7		◇ 3237-1(里中)
9-6		Vトレンチ	17-8		楽 殿2894-1(西村)
9-7		Wトレンチ	17-9		東海造機
9-8		Xトレンチ	18	53	6 A E L-E・I(下園)
9-9		Yトレンチ	19		6 A E N-M・N・O(御館)
9-10		Zトレンチ	20		6 A E O-I・J(柳原)
10		広域圏道路	21-1		6 A G N-B(鍛冶山、北山)
11-1		西加座2661-1(山中)	21-2		6 A E I-D(西加座2711-2, 2717-4他、山路)
11-2		◇ 2681-1(山名)	21-3		6 A F D-D(西前沖2649-1、大西)
11-3		東前沖2483-2(前田)	21-4		6 A F H-F(西加座2678, 2679-3、森下)
11-4		下 園2926-9(吉木)	21-5		6 A G D-K(東前沖、渡部)
12-1	51	2 Aトレンチ	21-6		6 A C A-T(古里3269-2、中西)
12-2		2 Bトレンチ	21-7		6 A F E-F(東前沖2631-1、鈴木)
12-3		2 Cトレンチ	21-8		6 A E G-A(楽殿2909-3、大西)
12-4		2 Dトレンチ	21-9		6 A E D-R(篠林3218-3、宇田)
13-1		東加座2436-7(浜口)	22-1		6 A G U
13-2		◇ 2436-4(中村)	22-2		6 A G U
13-3		古 里3283(村上)	22-3		6 A G W
13-4		楽 殿2916~2917(松井)	23	54	6 A E L-B(下園)
13-5		御 館2974-1(川本)	24		6 A G F-D(西加座)

次	年度	調 査 地 区	次	年度	調 査 地 区		
25-1	54	6ADP-K (牛葉3029-1、三重土地ホーム)	37-12	56	6AFH-J (西加座2681-1・3・4、渋谷)		
25-2		6ACA-Y (古里3270、脇田)	37-13		6AGK-F (西加座2385-3、2386-3、竹内)		
25-3		6ADD-F (篠林3139-3、池田)	38		6ACD-S (塚山)		
25-4		6AER-H (牛葉3014、牛葉公民館)	39		6ABD-R・S・T (古里)		
25-5		6AGN-H (鍛冶山2392、丸山)	40		6AGH-L・M (東加座)		
25-6		6AFH-A (西加座2675-5、谷口)	41		6AGJ-J他 (斎宮地内)		
25-7		6AEK-V (下園2926-10、奥田)	42-1		57	6AEI-D・F (楽殿)	
25-8		6AFC-D (西前沖2064-5、山本)	42-2			6AEK-A・B (楽殿)	
25-9		6ACN-C (広頭3387-1、北出)	43-1			6ADC-C (出在家3235-2、永田)	
25-10		6AEV-A (鈴池339-1、永島)	43-2			6ADT-B (木葉山308-1、山本)	
25-11		6ACF-B (東裏364-1、沢)	43-3			6ACP-T (南裏241-1、辻)	
25-12		6AEE-Y (楽殿2892-3、山本)	43-4	6ADS-D (牛葉123-3、西山)			
25-13		6AEJ-E (西加座2766-1、山内)	43-5	6ADE-D (篠林3220-3、澄野)			
26-1		6AFR (中西)	43-6	6AGE (東前沖、町道側溝)			
26-2		6AEX~6ACQ (鈴池、木葉山、南裏)	43-7	6ABD-F (古里588-6、今西)			
26-3		6AEV・W・X (鈴池)	43-8	6ADQ-H (牛葉3025-2、大西)			
26-4		6ACR (木葉山、南裏)	44	6AFL-A・B (鍛冶山2759-1、他)			
27		6ACG-S・T (東裏)	45	6AEG-P・Q (楽殿2904-2、他)			
28		6AEO-D (柳原)	46	6AGN-C・D (鍛冶山2737-1、他)			
29		6AF1、6AFL、6AFK、6AFM、6AGJ	47	6ADJ-D・G他 (西加座、御館、宮ノ前、上園)			
30		55	6ABJ-M・X・W (中垣内)	48-1		58	6AGM-M (広頭3385、斎宮小)
31-1			6ADO-M (内山3038-13、岩見)	48-2			6ADP-Q (牛葉3033-1・2、吉田)
31-2			6ACP-I (南裏227-2、鈴木)	48-3			6ABL-M (中垣内434-6、西川)
31-3			6ABD-A (古里588-4、北薮)	48-4			6AGL-B (東前沖2480、倉田)
31-4			6ADQ-T (牛葉3018-2、百五銀行)	48-5	6AGD~6AFE (東前沖、町道側溝)		
31-5			6ACC-G (塚山3338-3、水谷)	48-6	6AGC-A (西前沖3550-1、今西)		
31-6			6ABO-X (古里576-1、池田)	48-7	6ADT-H (木葉山307、森西)		
31-7			6AGI-L (東加座2427-1、竹内)	48-8	6ACL-E・F・G (東裏334-15、他)		
31-8			6ACN-G (広頭3388-1・5・8・9、森)	48-9	6AEV-J (鈴池341-1、乾)		
31-8	6AGD-L (北野2487-1、中川)		48-10	6AGT (牛葉、町道側溝)			
31-10	6ADM-O (内山3043-3、斎宮駅)		48-11	6ADP-E (鍛冶山2351-1、2352-1、榊原)			
31-11	6ADT-I (木葉山304-2、澄野)		48-12	6AFC-H (西前沖2604-8・9、清水)			
31-12	6ADT-J (木葉山304-7、宇田)		48-13	6ACM-O (東裏、斎宮小)			
32	6ACE-D・E・F (塚山)		48-14	6AET (牛葉、町道側溝)			
33	6ADE-C・D他 (篠林)		49	6ADI-D・U・V・W・X (上園3083、他)			
34	6ADE-F・G・H (西加座)		50	6ACH-H (東裏294、297、山本)			
35	6APE他 (西前沖)		51	6AFF-D (西加座2663-1・4、2664、森下)			
36	56	6ABI-F (中垣内)	52	59	6AGF-D (西加座2703、他)		
37-1		6AFC-M (西前沖2064、日本経木)	53-1		6ACM-P (東裏284、体育館)		
37-2		6ADQ-R (牛葉3021-2、野田)	53-2		6ACA-M (古里3280-2、中西)		
37-3		6AFC-F (西前沖2604-6、神田)	53-3		6ABE (古里573-2、永納)		
37-4		6AFC-M (西前沖2604、日本経木)	53-4		6ACL-S (東裏271-1、田所)		
37-5		6AFC-G (西前沖2064-7、中村)	53-5		6ACR (木葉山97-5、田中)		
37-6		6ABD-A (古里588-2、北薮)	53-6		6AGO (鍛冶山、町道側溝)		
37-7		6AEC-M (苧干2861-2、斎王公民館)	53-7		6ADD-U (篠林3147-3、野呂)		
37-8		6ADR-P (木葉山128-8・13・14、富山)	53-8		6AGE-O (東前沖2470-2、上田)		
37-8		6AGK-E (東加座2355-1、竹内)	53-9		6ACS-O (木葉山95-2、浅尾)		
37-10		6AED-O (楽殿3217-1、渡部)	53-10		6ACA-R (古里3267-1、西川)		
37-11		6ADN-O (内山3043-3、斎宮駅)	53-11		6ADR-W (木葉山131-7、西村)		

次	年度	調 査 地 区	次	年度	調 査 地 区
53-12	59	6 A B L - K (中垣内464-2、沢)	70-10	62	6 A F D - B · D (西前沖2649-4、大西)
53-13		6 A D Q - L (牛葉3022、辻)	70-11		6 A G O - H (鍛冶山2363-2、川合)
53-14		6 A C M - O (東裏287-3、体育庫)	70-12		6 A D D - F · G (篠林3158、長谷川)
53-15		6 A F K - C · D (西加座2721-1、鈴木)	70-13		6 A E C - N · G (苅干、佐藤)
54		6 A F E - N (西前沖2630、他)	70-14		6 A B L - R (中垣内459、北岡)
55		6 A E N - P (柳原、御館2785-1、他)	70-15		6 A F D - A (西前沖2644-1、山本)
56		6 A C H - S (東裏289-1、他)	70-16		6 A C B - A 他 (町道塚山線拡幅)
57	6 A G F - H · I (東加座2441、他)	71	6 A B E (古里501、他)		
58-1	60	6 A F K - C · D (西加座2721-1、鈴木)	72-1	6 A B E (古里500、他)	
58-2		6 A F H - N (西加座2681-8、三村)	72-2	6 A B F (古里523、他)	
58-3		6 A C M - N (東裏3385-2、斎宮小)	72-3	6 A B F (古里551-2、他)	
58-4		6 A B L - A (中垣内4731-1、小家)	72-4	6 A B F (古里528-1、他)	
58-5		6 A D Q - Q (牛葉、町道側溝)	73	6 A F F - B · C · E · G (西加座2663-5、他)	
58-6		6 A D R - V (木葉山131-3、西山)	74-1	6 A B F (古里523、他)	
58-7		6 A G S - G (中西611、山路)	74-2	6 A B F (古里522、他)	
58-8		6 A B M - A (中垣内430-3他、近鉄)	74-3	6 A B E · F (古里524、他)	
59		6 A C J - I (広頭3379-1、他)	74-4	6 A B E (古里548-1、他)	
60		6 A G J - B · D · G (東加座2450-1、他)	74-5	6 A B E (古里543、他)	
61		6 A F F - H · I · D (西加座2663-1、他)	75	6 A G F - C (西加座2702、他)	
62		6 A G I - J · K (東加座2425、他)	76-1	6 A D B - A ~ D (町道塚山線拡幅)	
63		6 A F G - M · N (西加座2659-1、他)	76-2	6 A D E - F · G (篠林3158、長谷川)	
64-1	61	6 A C O - H (牛葉3395-1、トーカイ)	76-3	6 A B E (古里554、明和町)	
64-2		6 A G L - F (東加座2435-1、大和谷)	76-4	6 A C K (東裏354-13、山際)	
64-3		6 A D D - A (篠林3136-1、山路)	76-5	6 A E E - W (楽殿577、岡田)	
64-4		6 A G R - N (笛川2340、丸山)	76-6	6 A C B - A (塚山3276-1、今西)	
64-5		6 A C M - R · Q · P (東裏3385-2、斎宮小)	76-7	6 A C M - M (広頭3385-2、斎宮小)	
64-6		6 A C K (東裏361-2、竹川自治会)	76-8	6 A F M - G (鍛冶山2736-3、近鉄)	
64-7		6 A G I - G (東加座2435-2、大和谷)	76-9	6 A C Q (南裏144-1、田所)	
64-8		6 A G R - J (笛川2341-6、山下)	76-10	6 A B D - U (古里579、池田建設)	
64-9		6 A D Q - M (牛葉、町道側溝)	76-11	6 A B E (古里554、明和町)	
64-10		6 A C F - A (東裏365-1、樋口)	76-12	6 A E E (楽殿、町道下水管)	
64-11		6 A C M - O (東裏3385-2、斎宮小)	76-13	6 A D D - K (篠林3143、中西)	
64-12		6 A D E - B (篠林3162-3、江崎)	76-14	6 A E E - S (楽殿2878-3、山路)	
65-1		6 A C C - M (塚山3331-1)	76-15	6 A B F ~ 6 A B H (中垣内、県道拡幅)	
65-2		6 A E G - S (楽殿2908-2、他)	76-16	6 A E K - B (下園2936-2、明和町)	
65-3		6 A E I - L · M (楽殿2917-4、他)	76-17	6 A E V - A (鈴池339-5、永島)	
66		6 A G G - C (東加座2437-1、他)	77	6 A G J - D (東加座2453、他)	
67		6 A B F (古里523、他)	78	6 A D L (宮ノ前3054、他)	
68		6 A B F (古里502、他)	79	6 A G G - A · B (東加座2440、他)	
69		6 A G M - E ~ H (東加座2373、他)	80	6 A F G - F ~ I (西加座2696、他)	
70-1	62	6 A C C - X (塚山3325-1、江崎)	81-1	H 1	6 A E C ~ F (町道塚山線拡幅)
70-2		6 A E E - W (楽殿2875-2、岡田)	81-2		6 A B J、6 A B K (古里、県道拡幅)
70-3		6 A D R - I (木葉山129-5、大西)	81-3		6 A D S - M (木葉山137、中川)
70-4		6 A C N - A · B · E · L (広頭3389-8、林)	81-4		6 A E D - L (楽殿2881-2、山本)
70-5		6 A E W - A (鈴池333-1、八田)	81-5		6 A F Q - C (中西597-2、木戸口)
70-6		6 A B L - S (中垣内430-6、奥山)	81-6		6 A D D - F (篠林313、池田)
70-7		6 A E E - T (楽殿577、浅尾)	81-7		6 A B L - U (中垣内430-7、川本)
70-8		6 A E U · 6 A E X - A (牛葉、鈴池、三重県)	81-8		6 A B J (古里、明和町)
70-9		6 A E P - C · D (御館、榊原、近鉄)	81-9		6 A C F (中垣内、三重県)

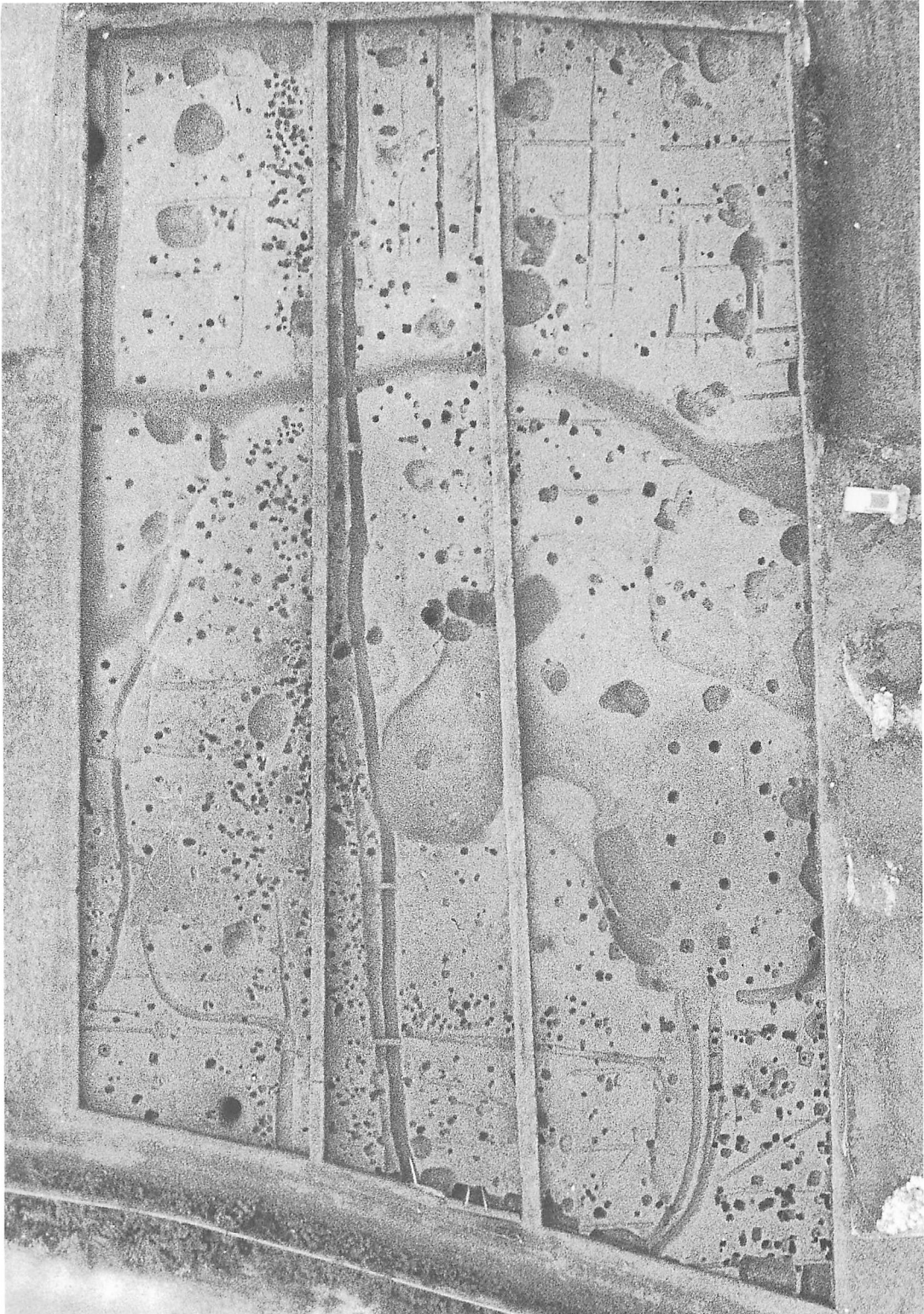
次	年度	調 査 地 区	次	年度	調 査 地 区	
81-10	1	6ADR-V (木葉山297、明和町)	89-1	3	6ADM-O (内山3043-5、近鉄斎宮駅)	
81-11		6ACM-N (広頭3385-2、明和町)	89-2		6AGI-M (東加座2432-2他、北村)	
81-12		6AED-A (篠林3225、中川)	89-3		6ADM-N・O (内山3060-4、近鉄斎宮駅)	
81-13		6ACB (塚山3276-19他、明和町)	90		6AFH-A・B (西加座2680他)	
81-14		6AED-F (楽殿2844-2、澄野)	91		6ABH-F (中垣内393、他)	
81-15		6AED-U (楽殿2885-2、西山)	92	6AGN-A (鍛冶山2734-3)		
81-16		6AG (北野3655-1、他)	93	6ADN (内山3045-12、他)		
82-1		6ADI-F~J (上園3095、他)	94	6AEM (御館2942)		
82-2		6ADI-K・L (上園3100、他)	95	4	6ADN (内山3046-17、他)	
83		6AFJ-C~F (西加座2770-3、他)	96-1		6AGM (東加座2374 丸山)	
84-1		6AFJ-G (西加座2764-3)	96-2		6ADO (内山3068-3、他 明和町)	
84-2		6AFH-G・H (西加座2679-1、他)	96-3		6ACA-D (古里3260 清水)	
85-1		2	6ABD~6ACD (古里、三重県)		96-4	6AFN (中西2749-1 本山)
85-2			6ACA-P (古里3279、松本)		96-5	6ADR-T (木葉山128-3 加藤)
85-3	6ACJ-B・D (東裏、明和町)		96-6		6ADD-D (篠林3138-1 藤井)	
85-4	6ABE (竹川573-1、永納)		97		6AEM (中垣内482、他)	
85-5	6AED-U (楽殿2885-2、西山)		98		6AFM-C・E (鍛冶山2745、他)	
85-6	6AFH-B (西加座、明和町)					
85-7	6ACB-C (塚山3276-3他、加藤)					
85-8	6ABI-N (中垣内427-1、小林)					
86	6AFH-F・G・H (西加座2679-1他)					
87	6ACE-N・Q・R (塚山3356他)					
88	6AGN-C・D (鍛冶山2411-1他)					



第31图 高宫迹地区表示

図

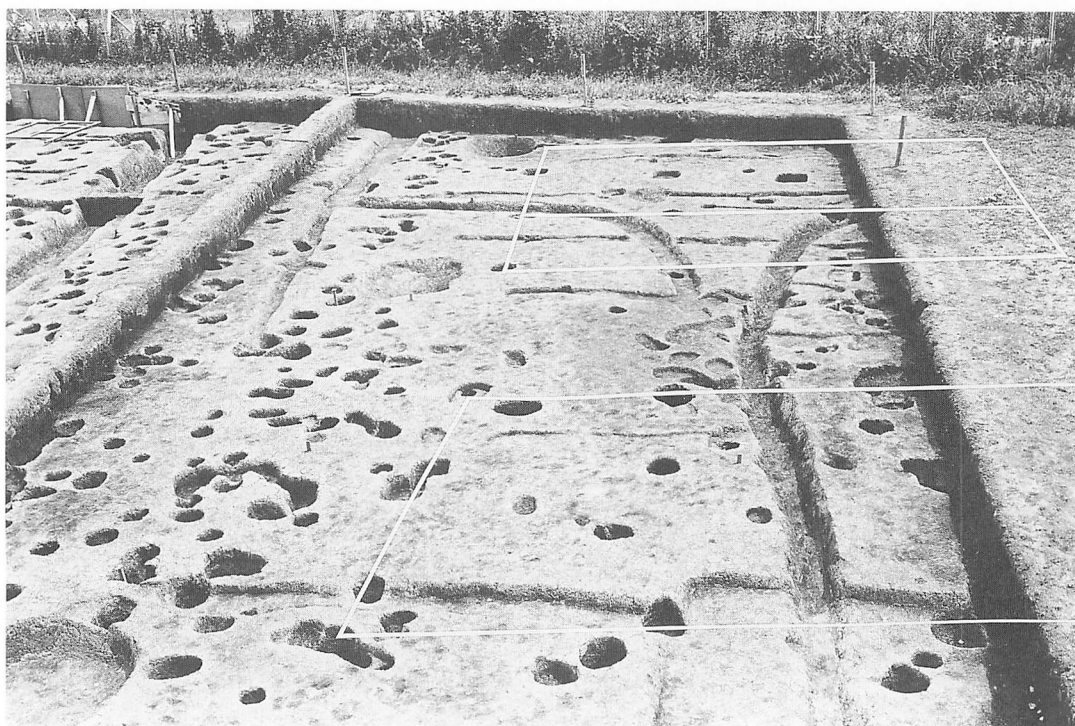
版



調査区全景（真上から）



S B6637 (南から)



S B6642・6643 (北から)



S B 6660 (南から)



調査区東南部 (北から)



SD0244・6671・SA6645 (南から)



SX6635 (東から)



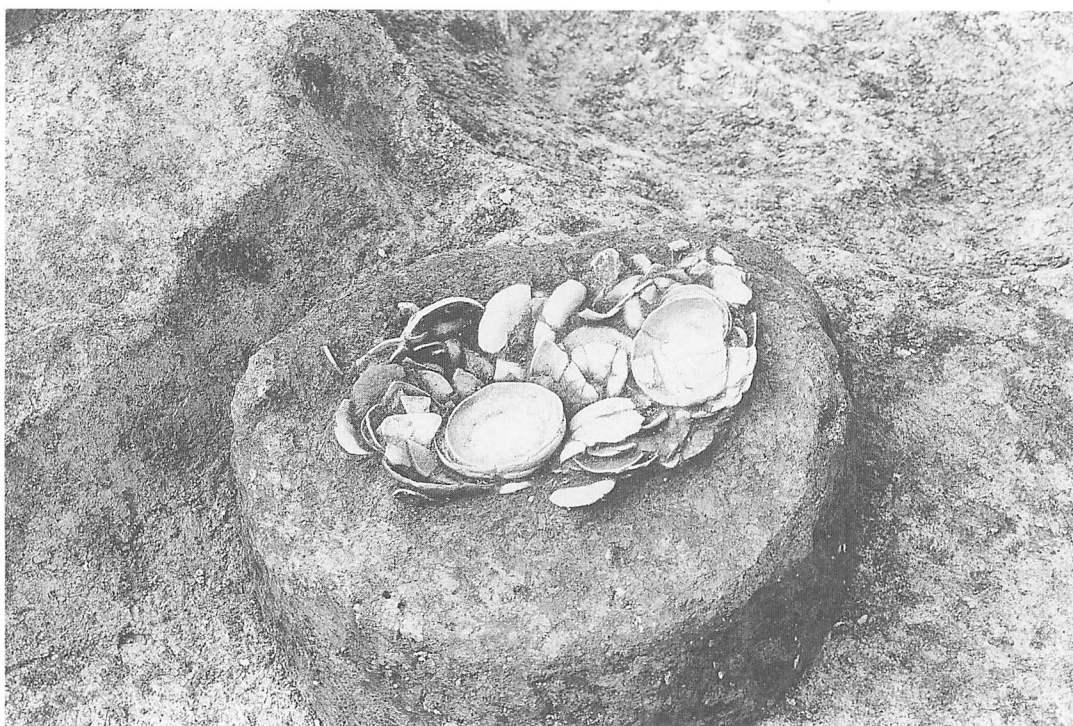
S X 666 (東から)



S X 666 土師器壺半載状況 (東から)



S K6644 (南から)



S X6652 (南から)



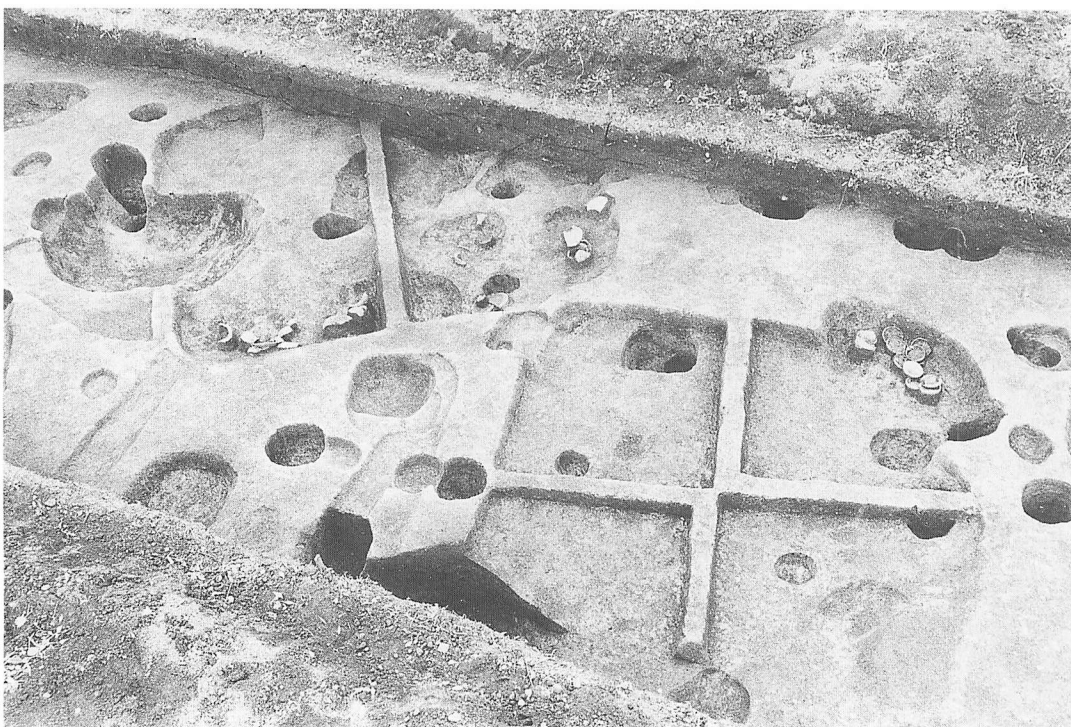
A区 全景 (北から)



A区 SD6700 (東から)



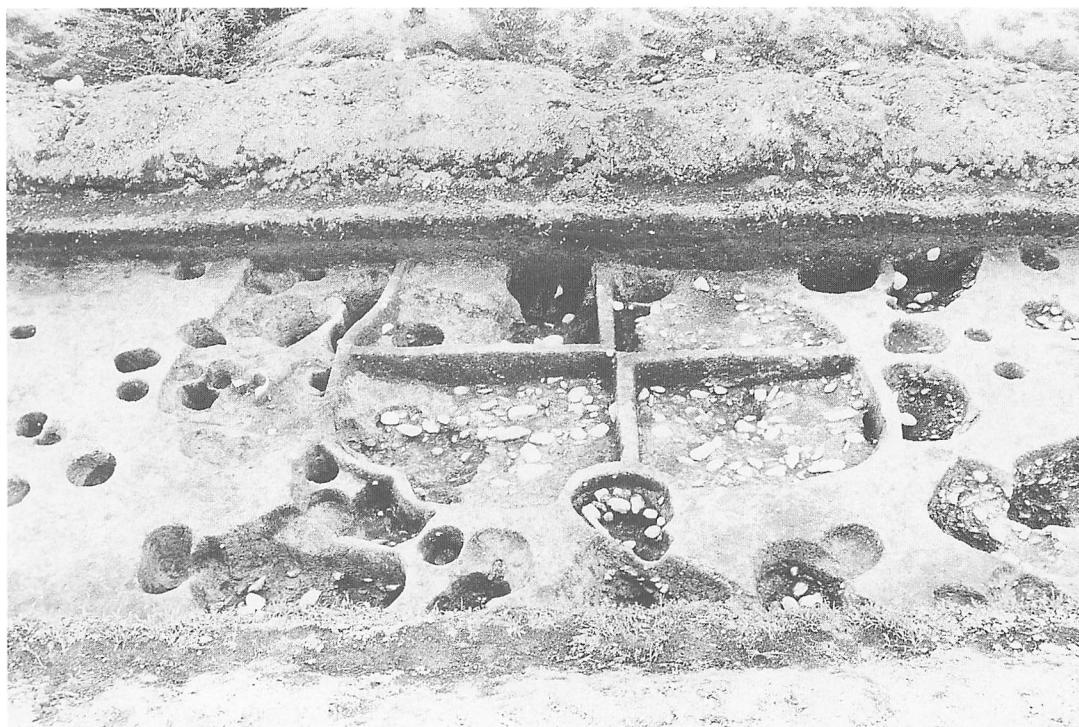
B区全景（北から）



S B6693・6694（北東から）



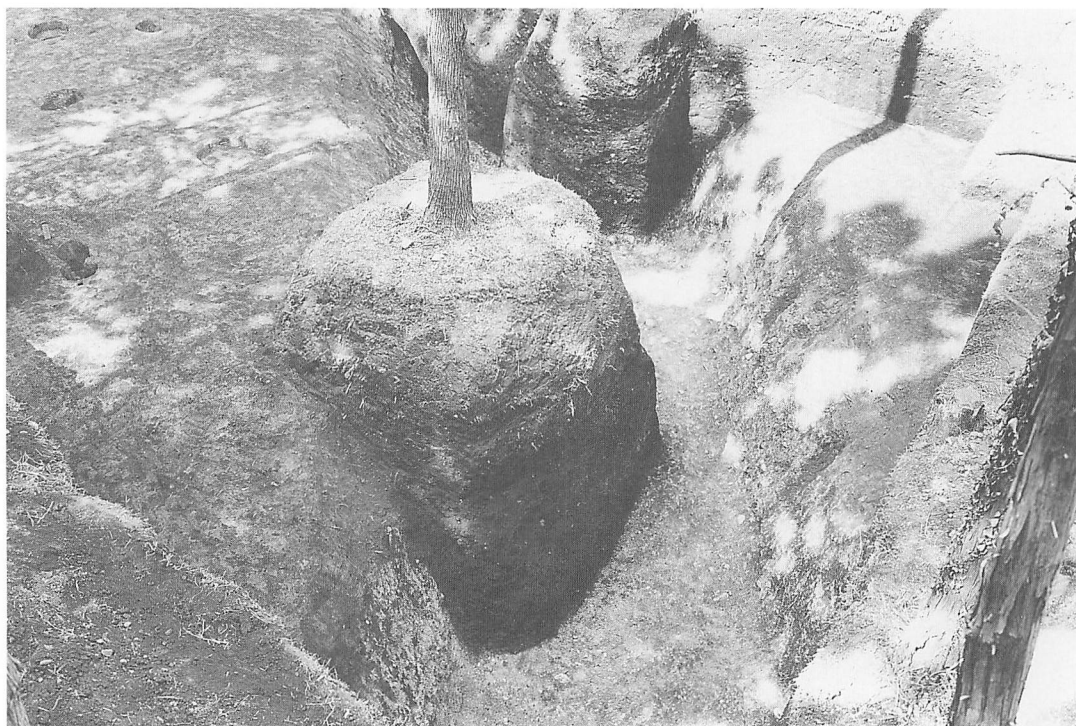
SK6692 (南から)



SK6689・SB6690 (東から)



S X 6696 (東から)



C区 SD4500 (東から)



D区全景（南西から）



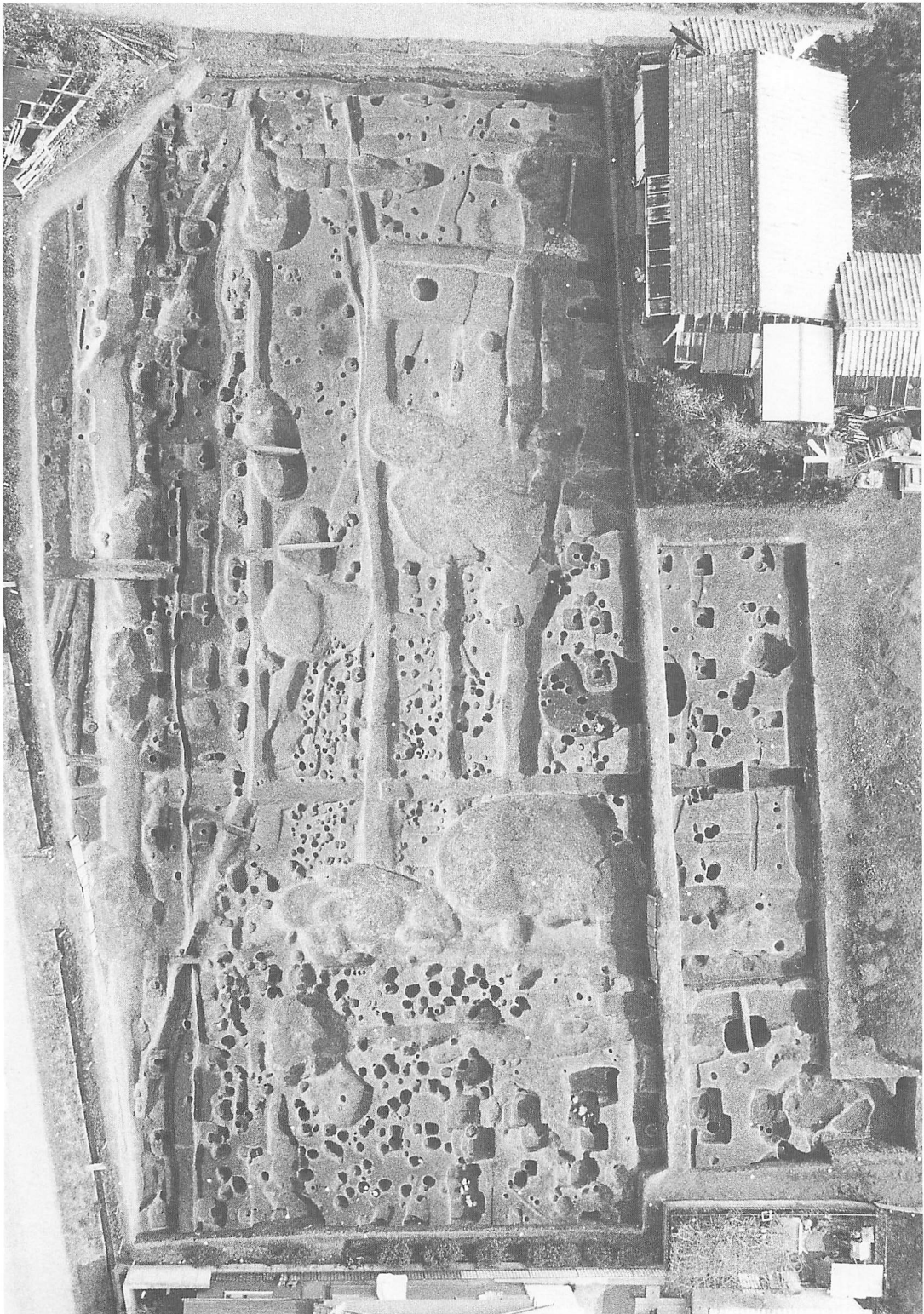
SB6706（北西から）



S B6708・6709 (南西から)



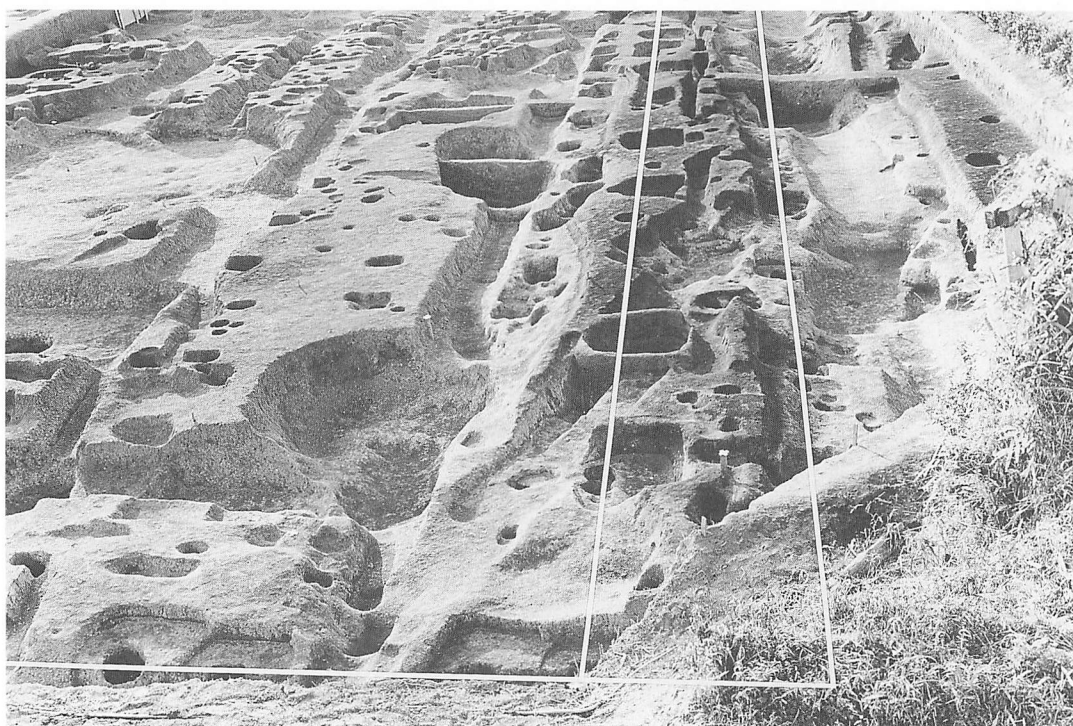
S B6713・6714 (北西から)



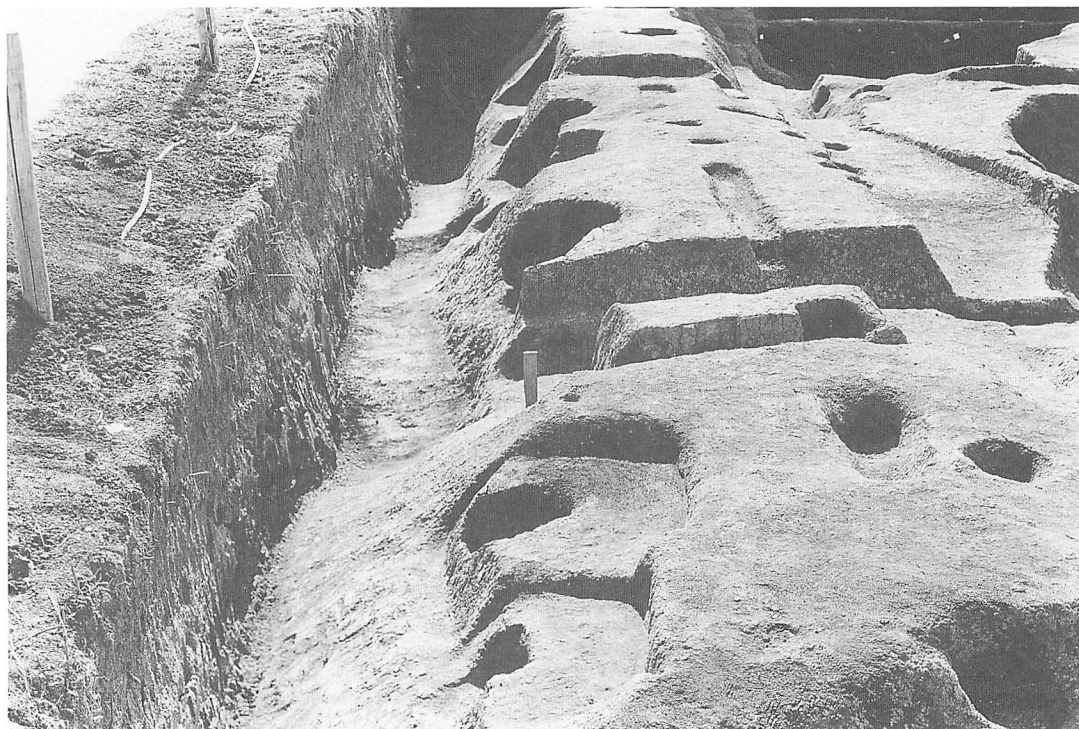
調査区全景（真上から）



S F 6800 • S D 6801 • 6802 (東から)



S A 6760 • 6770 • 6780 • 6790 (東から)



S A6770・6790 (北から)



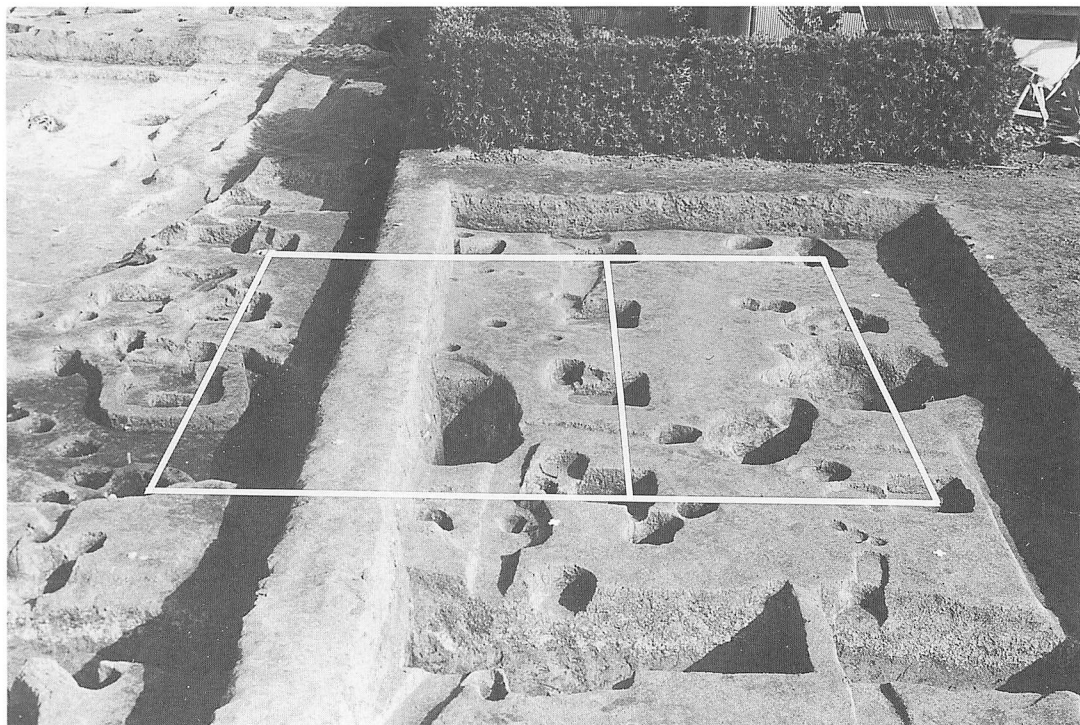
SD6810 (東から)



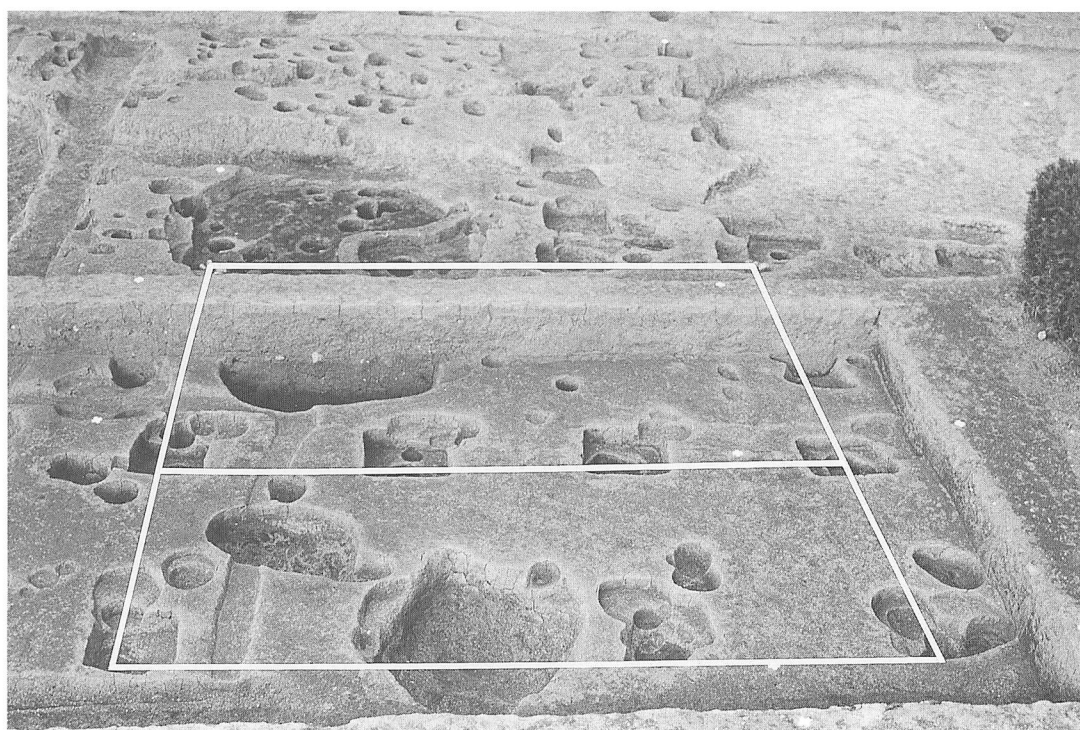
S B6720・6721・6722 (東から)



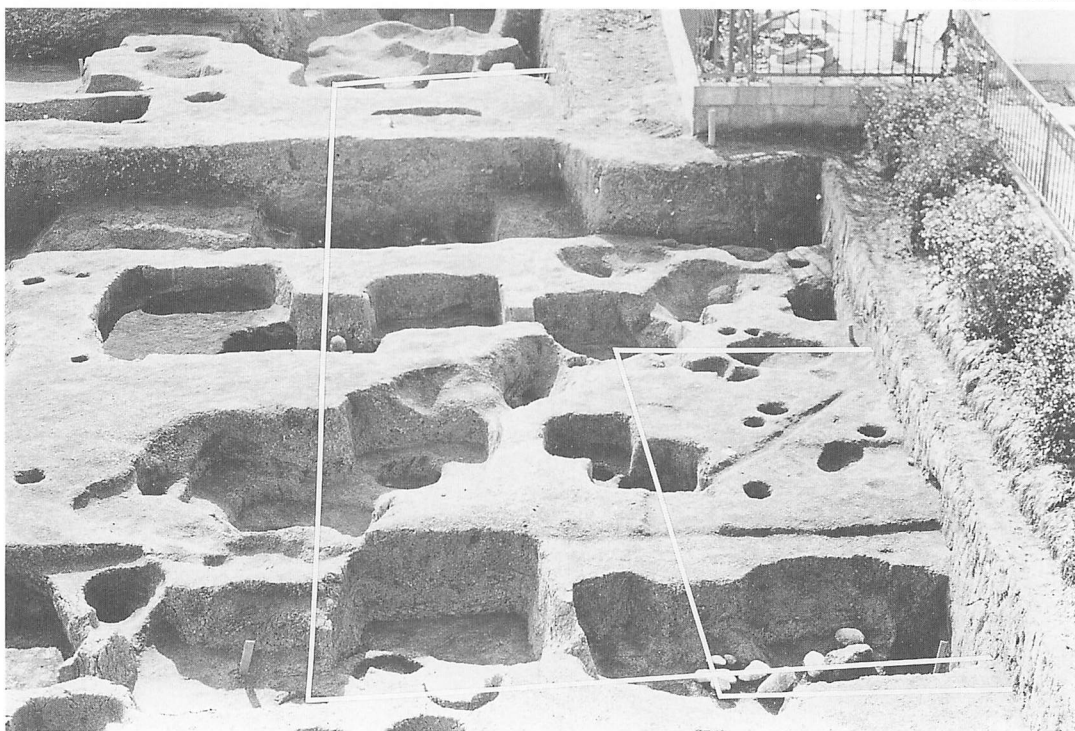
同 上 (南から)



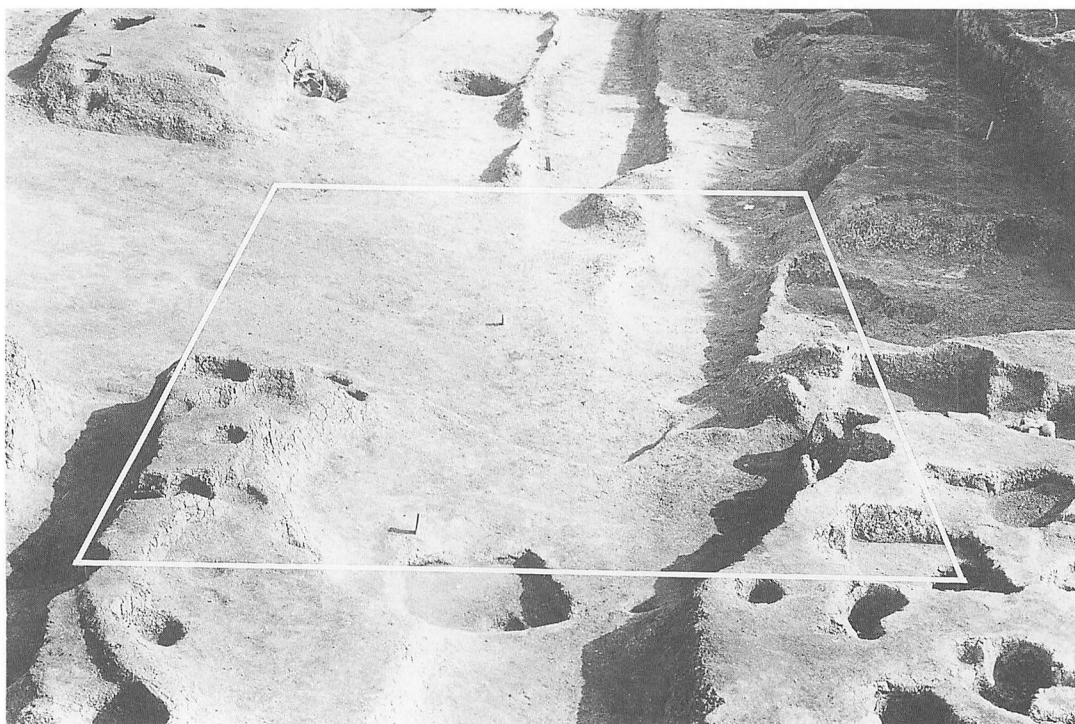
SB6730 (西から)



同 上 (南から)



SB6720・6725 (北から)



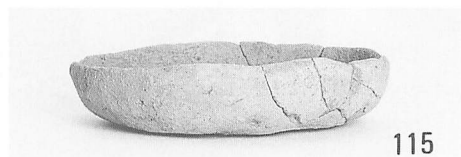
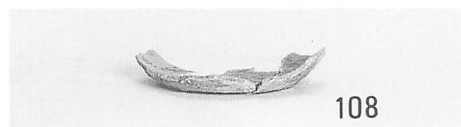
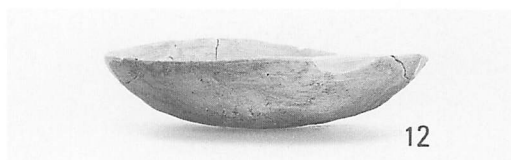
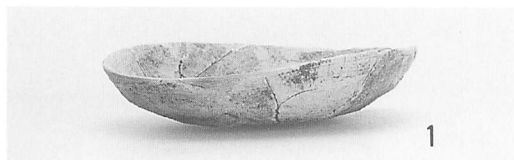
SB6735 (西から)

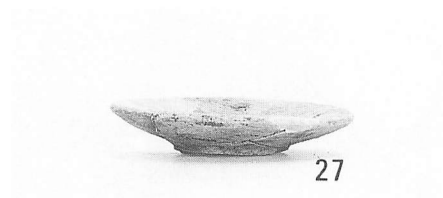
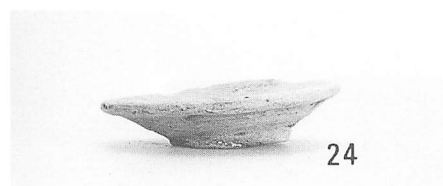


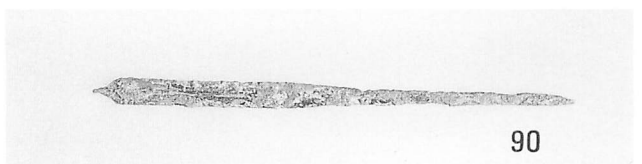
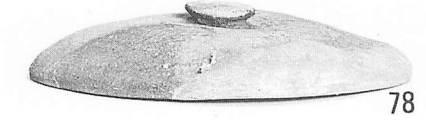
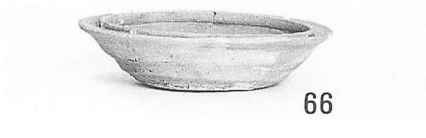
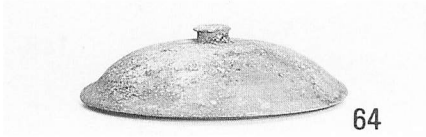
SK6753 (南から)

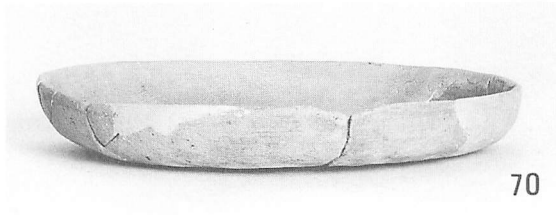


SK6743 (北から)











SK6753



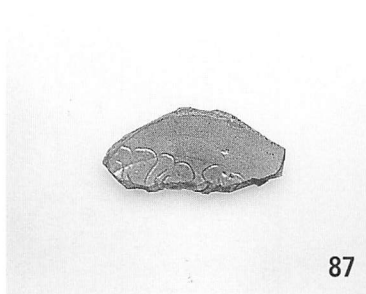
SK6743



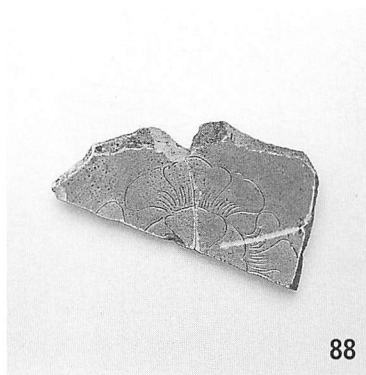
SD6750



78



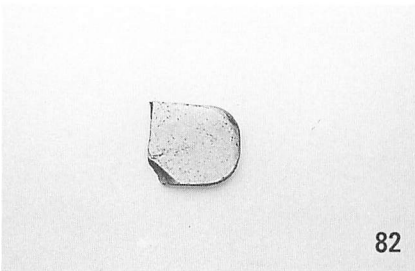
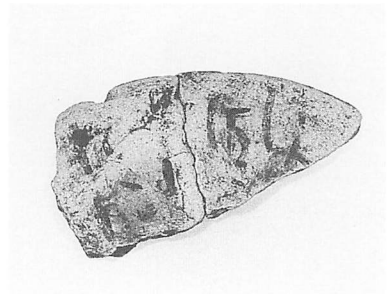
87



88



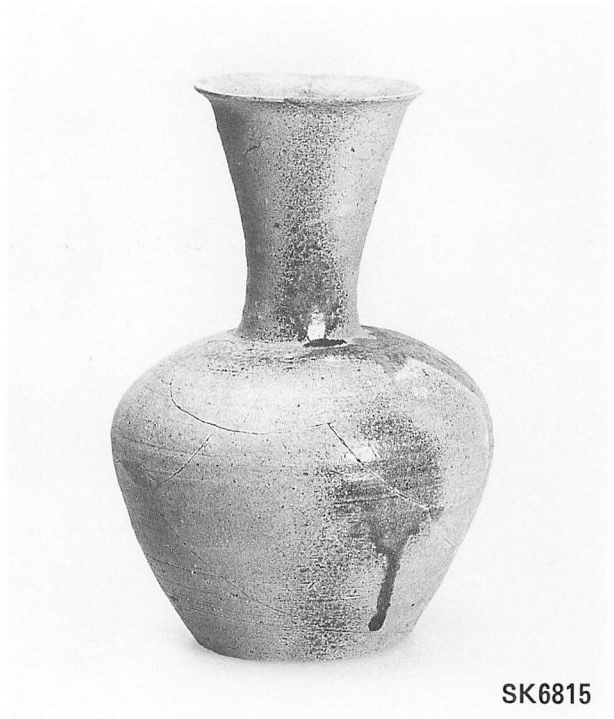
83



82



80



SK6815

国史跡 齋宮跡

平成4年度

発掘調査概報

平成5年3月31日

編集発行 齋宮歴史博物館

印刷 光出版印刷株式会社
